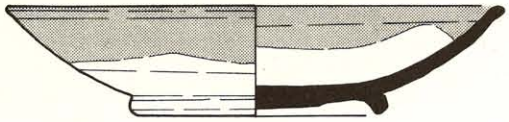
国道365線バイパス工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 I

——高月町柏原遺跡——



1980.3

滋賀県教育委員会
財団法人 滋賀県文化財保護協会

国道365線バイパス工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 I

――高月町柏原遺跡――

1980.3

滋賀県教育委員会

財団法人 滋賀県文化財保護協会

序

柏原・井口遺跡は、およそ80,000㎡に及ぶ広大な面積を占める遺跡であり、古墳時代から平安時代にかけて営まれた集落跡です。このたび、そのほぼ中心部に国道365号線バイパスが計画されることになりました。同バイパスは、岐阜県と福井県とを結ぶ幹線道路となるものですが、すでに、湖北町までの部分が開通しており、大型車輌等非常に交通量が多くなっています。しかるに、高月町内に入って、集落の間をぬうような現国道に入るため、交通事故の起る危険性が非常に高い状態となっています。従って、高月町内におけるバイパスの建設が急務となり、滋賀県の要請を受けて、埋蔵文化財の発掘調査を実施することとなりました。しかし、遺跡は、バイパス路線内のほぼ全域に及ぶため、調査は、３カ年計画で実施することとしました。本書は、その第１年次に実施した柏原遺跡について、その概要を報告するものです。正報告書は、バイパス全区間の調査終了後に刊行する予定ですが、とりあえずここに概要を報告し、湖北地方の歴史を考えるための一助としていただければ幸いに思います。

最後に、調査に関して、日夜協力していただいた作業員、調査員等関係者の方々に感謝の意を表します。

昭和５５年３月

滋賀県教育委員会

教育長　中　山　　正

目　　次

はじめに…… 1
第１章　位置と環境…… 2
イ．地理的環境…… 2
ロ．歴史的環境…… 2
第２章　調査経過…… 10
第３章　調査結果…… 11
イ．遺構…… 11
ロ．遺物…… 23
ハ．遺構の分布…… 28
第４章　まとめ…… 31
おわりに…… 31

挿　図　目　次

PLAN 1．柏原遺跡位置図…… 1
〃　2．主要遺跡分布図…… 6
〃　3．柏原遺跡出土遺物編年表…… 24
〃　4．竪穴住式居跡、掘立柱建物主軸方向図…… 29
〃　5．柏原遺跡遺構変遷表…… 30
〃　6．柏原遺跡周辺地形図…… 73
〃　7．柏原遺跡トレンチ配置図…… 74
〃　8．第1住居跡（T1）実測図、出土遺物実測図…… 75
〃　9．第2住居跡上層・下層（T2上・下）実測図 …… 76
〃　10．第2住居跡下層出土遺物実測図…… 77
〃　11．第2住居跡上層出土遺物実測図…… 78
〃　12．第3、第9住居跡（T3、T9）実測図、出土遺物実測図…… 79
〃　13．第4住居跡（T4）実測図…… 80
〃　14．第5住居跡（T5）実測図、出土遺物実測図、カマド実測図…… 81
〃　15．第6住居跡（T6）実測図…… 82
〃　16．第6住居跡カマド実測図、出土遺物実測図…… 83
〃　17．第7住居跡（T7）実測図、遺物出土状況図、出土遺物実測図…… 84
〃　18．第8住居跡（T8）実測図、出土遺物実測図…… 85
〃　19．第1掘立柱建物（H1）実測図…… 86
〃　20．第2掘立柱建物（H2）実測図…… 87
〃　21．第1井戸跡（BP1）実測図、断面実測図…… 88
〃　22．第1井戸跡、BP2、BP4、BP5、BP6、BP8、BP10、BP13
出土遺物実測図…… 89
〃　23．第2井戸跡（BP9）実測図、断面実測図、出土遺物実測図…… 90
〃　24．P51、P53、PD1実測図、出土遺物実測図…… 91
〃　25．P54実測図、出土遺物実測図…… 92
〃　26．P350、P351、P353実測図、出土遺物実測図…… 93
〃　27．P38、P56、P57、P75、P90、P106、P107、P117、P131、P134、P140、
P142、P147、P152、P156、P181出土遺物実測図…… 94

PLAN28. P210、P229、P239、P226、P281、PN300、P305、P317、PN320、PN336、PN348、P348、P356、P364、P374、P380、P381、PD5出土遺物実測図… 95
〃 29. 溝1（M1）実測図、断面実測図、出土遺物実測図…… 96
〃 30. 包含層出土遺物実測図(1)…… 97
〃 31. 包含層出土遺物実測図(2)…… 98
〃 32. 包含層出土遺物実測図(3)…… 99
〃 33. 第1トレンチ（1Tr）、第2トレンチ（2Tr）、第3トレンチ（3Tr）、第5トレンチ（5Tr）、断面実測図、第4—No.1トレンチ（4Tr—No.1）、第4—No.2トレンチ（4Tr—No.2）、第6トレンチ（6Tr）柱状断面実測図…… 100
〃 34. 第1トレンチ、第2トレンチ、第3トレンチ、第5トレンチ、第6トレンチ出土遺物実測図…… 101
〃 35. 柏原遺跡全体実測図…… 102

図　版　目　次

PLAN 1．遺跡付近航空写真
〃　2．遺構全景（北から）
〃　3．1）遺跡遠景（北西から）
　　2）遺跡遠景（北西から）
　　3）発掘調査風景
〃　4．1）遺構検出状況（南から）
　　2）遺構全景（北から）
〃　5．1）遺構南半部（北から）
　　2）遺構中央部（北東から）
〃　6．1）遺構中央・北半部（南から）
　　2）遺構南半部（南から）
〃　7．1）第1住居跡（T1）((北から）
　　2）第2住居跡（T2）（北から）
　　3）第2住居跡上層遺物出土状況
〃　8．1）第2住居跡下層遺物出土状況
　　2）第3・第9住居跡（T3・T9）（北から）
　　3）第9住居跡柱穴内遺物出土状況
〃　9．1）第4住居跡（T4）（東から）
　　2）第5住居跡（T5）（東から）
〃　9．3）第5住居跡カマド付近
〃　10．1）第6住居跡（T6）（東から）
　　2）第6住居跡（北から）
　　3）第6住居跡カマド付近
〃　11．1）第7住居跡（T7）（南から）
　　2）第7住居跡遺物出土状況
　　3）第8住居跡（T8）（南から）
〃　12．1）第1掘立柱建物（H1）（北から）
　　2）第1掘立柱建物（西から）
　　3）第2掘立柱建物（H2）（北から）

PLAN13. 1）第1井戸跡（ＢＰ１）（南から）
2）第1井戸跡近景
3）第1井戸跡遺物出土状況
〃 14. 1）第2井戸跡（ＢＰ９）（西から）
2）P51
3）P51遺物出土状況
〃 15. 1）P53
2）P94
3）P94遺物出土状況（墨書土器）
〃 16. 1）ＰＤ１
2）P350
3）P351
〃 17. 1）P353
2）P131
3）P156
〃 18. 1）第１・第２トレンチ（南東から）
2）第４―No. Ⅰトレンチ（北西から）
3）第６トレンチ（北西から）
〃 19.〜〃 26. 出土遺物

例　　言

1．本書は、滋賀県が施行する国道 365号線バイパス工事に伴う高月町柏原遺跡の発掘調査報告書である。

2．本書は、昭和53年度に発掘調査を実施し、昭和54年度に整理したものの成果である。

3．本調査は、滋賀県教育委員会の指導のもとに、財団法人滋賀県文化財保護協会が実施した。

4．調査及び整理業務参加者は次のとおりである。

滋賀県教育委員会　技師　田　中　勝　弘

財団法人　滋賀県文化財保護協会

事務局長　井上　剛

事 務 員　泉　良子、松本暢弘

調 査 員　林　純

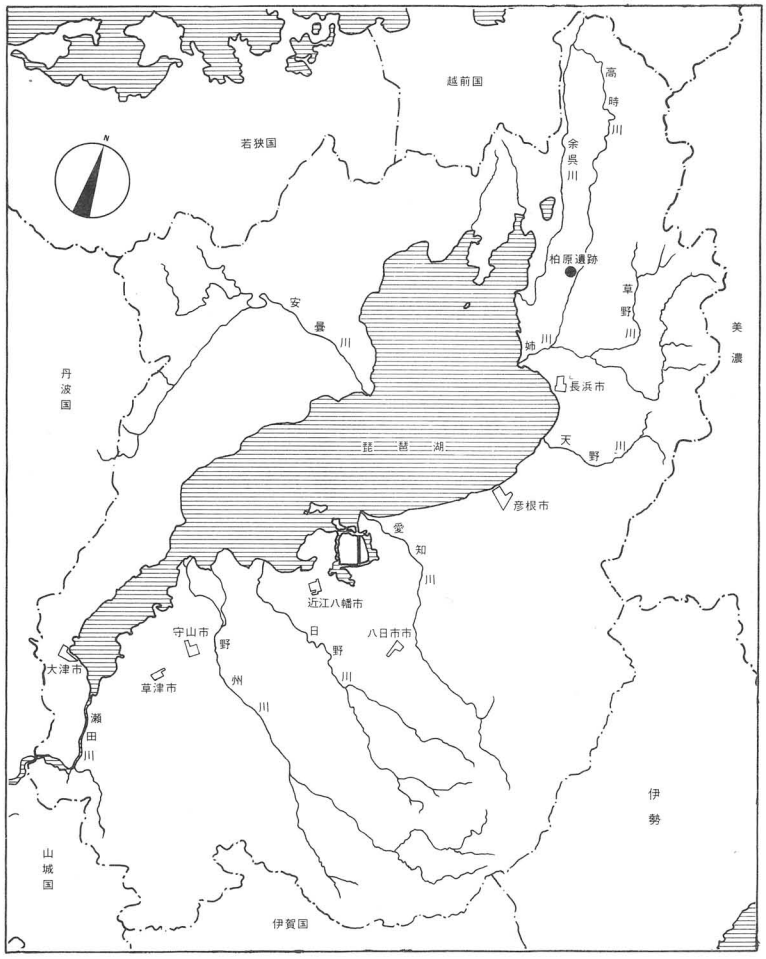
調査補助員　宮崎雅美、山岡一郎、吉元達成、小牧正明、斉藤和弘、丸岡一成、赤坂博之、北川禎之、橋田祐子、尾崎章子、田中聡一、石本好典、岡井　誠、加藤栄司、野口千栄美、藤田早苗、北脇泰久、藤井益夫、岸本好弘、井塚哲夫、多賀健次、馬場重信、徳永直樹、児玉治見、平通　茂、田村　稔、菊池久美、大内裕子、青木千枝。

5．本書は、本文、図版とも林　純が執筆作成した。

はじめに

本遺跡は、国道 365号線バイパスの計画策定段階で実施した分布調査により発見した遺跡である。国道 365号線バイパスは、すでに、湖北町までが完成しており、敦賀方面と結ぶこの交通路の交通量は多く、高月町内では、現国道が狭く、村落内を通過して国道８号線へぬけるため、バイパスの早期開通が地元の大きな要望であった。従って、滋賀県の要請により、急拠事前調査を実施することとなったのである。しかし、遺跡は、高月町の路線内ほぼ全域に及ぶ広大なものであり、調査は、少なくとも３ヵ年を要すると考えられた。昭和53年度がその１年目に当り、本書は、その発掘調査の結果の一部である。

なお、調査にあたっては、高月町教育委員会、地元柏原区の方々、滋賀県木ノ本土木事務所の方々にお世話になった。ここに記して感謝の意を表します。



PLAN１ 柏原遺跡位置図

第１章　位置と環境

イ．地理的環境

南北に細長い形から、楽器の名を冠したといわれる琵琶湖は、いくつかの断層の陥没によって形成された構造湖である。その琵琶湖北岸にある湖北平野のさらに北端部に位置するのが、今回、発掘調査を実施した柏原遺跡である。

柏原遺跡は、現在の行政上では伊香郡高月町柏原字北路・北町・内戸にまたがっている。また、古代律令体制下の郡郷制では、伊香郡柏原郷（加之波波良郷）にあたっていたと推定①される。

湖北平野は、姉川・高時川・田川・草野川・天野川・余呉川各河川の蕩蕩たる沖積作用で形成された扇状地性の平野と、それに連なる氾濫原・後背湿地及び三角洲からなる。特に湖北平野北部は、西を賤ヶ岳から南へ伸びる地累状の通称西野山丘陵に、東と北を伊吹山系の支脈たる己高山と大箕山に囲まれ、南のみが開けた地勢となっている。この幅４㎞、奥行き10㎞の狭長な平野部は、東側を流れる高時川と西側を貫流する余呉川の賜物と言って過言ではない。高時川は、遠く伊吹山系三国ヶ岳に源を発し、杉野川の水を合わせて、田部山東麓で平野部に出て、真直に南流し湖北平野中央で姉川と合流し琵琶湖へ注ぐ。その過程で随所に自然堤防や後背湿地を形成している。柏原遺跡も、この高時川右岸の自然堤防上に占地し、現況でも周囲の水田面より約１ｍの比高差を測る。

湖北平野は、古くから交通の要衝であった。北国街道を北上すれば越地方に、脇往還道を東進すれば関ヶ原を経て美濃・尾張地方に通じ、さらに南下すれば中仙道（東山道）・東海道を経て畿内中枢部にも至る。このような地理的条件は、戦略的要衝として、政治・経済的に、わけても軍事的に勝れた位置を占めていたことを想像させる。

なお、柏原遺跡の現標高は、海抜 111.5ｍであって、琵琶湖湖面との比高差は約26.5ｍを測る。

ロ．歴史的環境

南北に狭長な湖北平野北部は、その地理的重要性から文化の回廊としての働きだけでなく、肥沃な大地に恵れ古くから人類の足跡が刻まれて来た。現在、確実に旧石器時代と思われる遺物の出土例は知らないが、縄文時代以降は人類の生活の場として活況を呈して来た。そこで、湖北平

野北部の歴史的環境の展開を見てみよう。

縄文時代　縄紋時代の遺跡は、高時川上流と余呉川河口付近に集中を見るが、発掘調査が実施されたものはなく、実態は必ずしも明確ではない。高時川上流域では、高時川が平野部に出る木ノ本町川合や石橋付近の左岸段丘上に縄紋土器や石斧・石棒・石鎚・石錘等を出土した古橋遺跡②や上ノ山遺跡がある。右岸段丘上には、同じく石斧や縄紋土器・環石を出した川合遺跡や栗谷遺跡の分布が知られる。余呉川河口付近では、湖北町尾上浜遺跡や余呉川口遺跡が見うけられ、さらに河口沖合の葛籠尾崎沖湖底遺跡③がある。これからは早期から晩期にかけての土器が引き上げられ、その特異性が注目されている。また、柏原遺跡北約1㎞の井口集落内で石棒が採集されており、この付近にも遺跡の存在が知れる。

弥生時代　水稲農耕を生活基盤としていた弥生人にとって、湖北平野は恰好の場所であったろう。しかしこれまで前期に遡る遺跡は知られなかったが、近年の圃場整備に関連し相次いで発見された。余呉川中流域の高月町磯野の妙光庵遺跡④では土坑内から畿内Ⅰ様式に属する土器を出土した。また、高時川下流の湖北町大安寺遺跡⑤でも畿内Ⅰ様式に属する甕が発見され、余呉川河口沖合の湖北町尾上浜遺跡からも引き上げられている。

中期の遺跡は、今のところ井口遺跡から畿内Ⅲ～Ⅳ様式に属するかと思われる流水紋系の土器が少量出土しているのみ⑥である。

弥生時代も後期に入ると、遺跡は急増する観がある。大岩山と大箕山が両側から迫る谷あいに余呉町桜内遺跡⑦・坂口遺跡⑧の集落跡があり、さらに長山遺跡⑨・東山遺跡⑩の墳墓群が近接して見られ、特異性が注目される。平野部に出で、高月町大海道遺跡⑪や余呉川中流の円通寺遺跡⑫でも包含層を確認している。余呉川下流域では、尾上浜遺跡からも湖中より引き上げられ、高時川の下流では丁野山上の湖北町丁野遺跡⑬で弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土坑墓群と方形周溝墓（台状墓）が検出された。その下流の虎姫町五村遺跡⑭でも方形周溝墓を発見し、大寺遺跡・田遺跡・中野遺跡からも遺物の出土が知られる。雲雀山東麓の湖北町伊部遺跡⑮からは、畿内Ⅴ様式の特徴を示す土器の一括資料が出土した。

古墳時代　古墳の出現という社会的に勝れた事象をメルクマールとする古墳時代は、国家発生期の時代でもあった。現在、前期に属する古墳として、西野山丘陵南端の一支脈上に占地する湖北町若宮山古墳（古保利第3号墳⑯）が挙げられる。これは、全長50ｍを測る所謂「柄鏡形」の前方後円墳で、4世紀後半に位置付けられている。また、虎御前山南端の虎姫町丸山古墳⑰からは、後漢鏡が発見された。

次に中期の古墳を観てみよう。まず、西野山丘陵尾根上に、墳丘を相接して 110数基から成る高月町古保利古墳群がある。この内には10基の前方後円（方）墳も数えられる。独立丘の湧出山尾根上にも前方後円墳2基と円墳8基から成る湧出山古墳群が見られる。昭和54年、北陸自動車道

に関連してその内の円墳１基が発掘調査され、墳径18ｍで二段に埴輪列を廻し、竪穴式石室内に仿製鏡１面と玉類・武器類を副葬した５世紀後半の古墳であることが明らかになった。北国街道を目下に望む大箕山西麓の余呉町長山古墳群や長野古墳群⑱が昭和52年～53年に相次いで調査された。長山古墳群は円墳20基と方墳１基から成り、第４号墳は墳径16ｍの墳丘に葺石を有し、２基の木棺直葬の主体部相方から、短甲を始め鉄剣・鉄斧・鉄矛等を出土した５世紀後半の所産であった。長野古墳群は方墳２基と後期古墳から成り、方墳は一辺23.５ｍの比較的大型に属するものが並列し、木棺直葬の主体部より鉄剣等の武器類を副葬した５世紀前半の古墳である。さらに、目を南に転じ高時川中流左岸に見える岡山の尾根上には、湖北町岡山古墳群が存在している。これは、前方後円墳２基と円墳数基から構成された古墳群である。前述の諸古墳群が丘陵上に立地するのに対し、湖北平野北部の平野部に物部古墳群と総称される古墳群がある。これには、前方後円墳の高月町姫塚古墳・長塚古墳・兵主神社古墳があって周濠を有するものも見られる。円墳としては、父塚古墳・大将軍古墳・五位塚古墳・瓢塚古墳⑲・生塚古墳等が知られている。また、この物部古墳群から離れ、田部山南麓に瓢簞塚古墳がある。

前・中期の集落跡としては、前述の坂口遺跡・桜内遺跡の他に、大岩山南麓の黒田遺跡からは工場建設の際に、古式土師器が出土したと伝えられ、余呉川中流域の高月町円通寺遺跡では、素掘りの溝より庄内式併行期とされる一括資料が得られた。河口付近の湖北町今西遺跡⑳からは布留式併行期の竪穴住居跡が検出されている。高時川流域では、大海道遺跡㉑でも布留式併行期の竪穴住居跡が発見された。高時川の支流、田川上流の虎御前山西麓では、最近の圃場整備事業に関連し、湖北町留目遺跡㉒が発掘調査され、布留式併行期の土坑墓群が発見された。高時川と姉川の合流付近の、びわ町難波遺跡㉓からも同時期の遺物が出土している。

古墳時代後期は、その社会的変革に起因して、群集墳を爆発的に現出させた時代であった。したがって、群集墳を逐一詳説することは不可能に近い。ここでは主なものだけを羅列する。湖北平野北部の西側で、まず大岩山東麓に余呉町坂口西山古墳群、南麓に黒田古墳群、賤ヶ岳南麓に木ノ本町大音古墳群。左近山東麓には、西山古墳群や小山古墳群がある。磯野山の南麓に高月町寺山・宮山古墳群と山畑古墳群が見られる。東側に廻って、大箕山西麓に余呉町上ノ山古墳群㉔、山田山の西麓部では木ノ本町馬場末古墳群㉕が見られ、南麓では湖北町大塚古墳群や山田山古墳群が存在している。また小谷山西麓には赤谷古墳群が知られ、岡山丘陵付近で中谷古墳群、虎御前山には四郷崎古墳群㉖、飯喰山古墳群、天目山古墳群等の存在が挙げ得る。この時代の集落跡・工房跡としては、先に述べた余呉町の桜内遺跡や高月町の大海道遺跡、井口遺跡で多数の竪穴住居跡や掘立柱建物が発見されている。湖北町今西遺跡でも集落跡の一端が明らかにされた。また、発掘調査を行っていないため実態は明らかではないが、高月町熊野遺跡やびわ町難波遺跡も集落跡と思われる。高月町の高月遺跡から子持勾玉が出土し、玉類や砥石を出した木ノ本町石作（玉

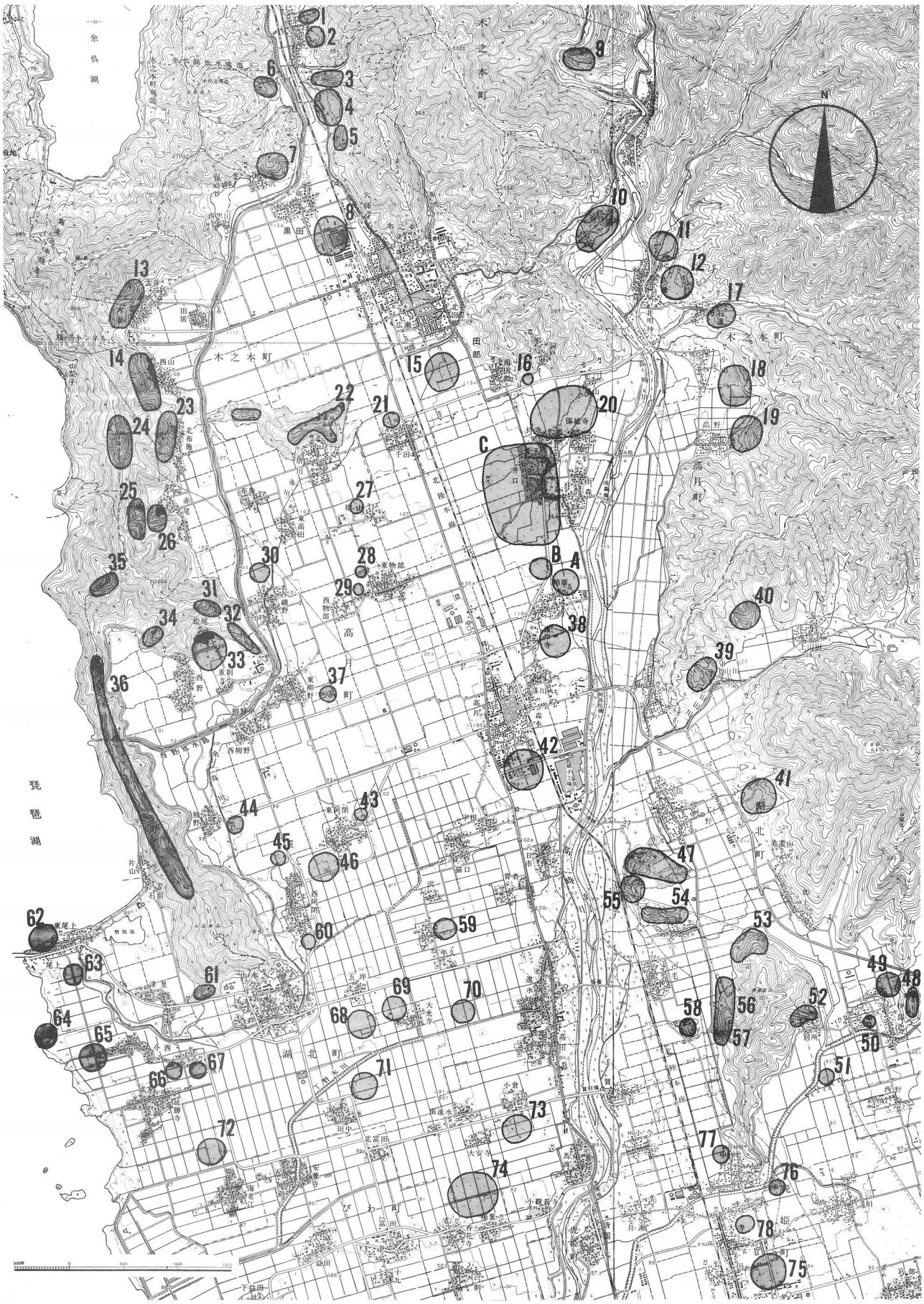
作）神社遺跡は工房跡と推定しうるものもある。

飛鳥時代～平安時代以降　この時代の集落跡は、多くが古墳時代後期から継続的に営まれ、桜内遺跡や大海道遺跡、井口遺跡等の大規模な集落が見られ、数十～数百単位で竪穴住居跡・掘立柱建物が検出されている。

古代寺院跡は、字名から推定されているものが大半で、実態は必ずしも明らかではない。その中でも、瓦や礎石が発見されているものとして、湖北町小江寺遺跡や浅井寺遺跡があり、びわ町の満願寺遺跡は白鳳期とされている。高月町では、平安時代の創建とされる松尾寺遺跡[27]や、大海道遺跡や井口遺跡でも集落跡内にあって氏寺的性格を持つと思われる奈良時代の寺院跡が発見されている。式内社について見ると、近江全体で144ヵ所155座を数えるが、伊香郡がその$\frac{1}{3}$の45ヵ所45坐を占め、湖北平野の開発の早さを物語る。主なものを挙げると、木ノ本町の伊香具神社、意富布良神社、佐波加刀神社、与志漏神社、石作・玉作神社があり、高月町では、兵主神社、天八百列神社、甘礫前神社、天比比岐神社、乃伎多神社が見られる。また、柏原遺跡の北西約 200 *m* の字藤の宮には、豊城八彦命を祭神とした佐味神社跡も遺っている。

古代律令体制の経済的根幹を成した条里制は、湖北平野のほぼ全域に施行されているが、山本山と小谷山を結ぶラインの以南と以北で若干のズレが指摘される[28]。柏原遺跡や井口遺跡周辺の水田にも最近まで顕著に遺っていたが、遺跡の占地する微高地上には見られず、条里制施行時にこれら微高地が集落や墓地として利用され、あるいは水田不適地であったものと思われる。

荘園制は、８世紀から16世紀まで続いた汎日本的土地所有形態で、湖北平野にも多くが知られる。伊香郡では、木ノ本町付近で平安後期に弘福寺領の伊香荘があり、鎌倉期になると伊香中荘が成立した。高月町付近では、平安後期に郡荘と山門管領青蓮門院領の富永荘が見られる。東浅井郡には、平家領の今西荘、春日社領の浅井荘、速水荘、田川荘が散見される[29]。



PLAN 2　主要遺跡分布図

Tab. I　主要遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	時代	立地	出土遺物	文献名・調査年度
1	坂口遺跡	集落跡	弥生後期～古墳前期	丘陵	弥生土器・古式土師器	
2	上ノ山古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵	須恵器・馬具・縄紋土器	「北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ 1976」
3	長山古墳群	古墳群	古墳中期	丘陵	弥生土器・須恵器・短甲・鉄剣等	1977年～1978年調査
4	桜内遺跡	集落跡 墳墓群	弥生後期～奈良時代	扇状地	弥生土器・古式土師器・須恵器	1977年から調査継続中
5	黒田長野古墳群	古墳群	古墳中期～後期	丘陵	古式土師器・鉄剣	1978年調査
6	坂口西山古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
7	黒田古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
8	黒田遺跡	集落跡	古墳前期	平野部	古式土師器	
9	寺山遺跡	集落跡	弥生時代	丘陵	石斧	
10	栗谷遺跡	集落跡	縄紋時代	丘陵	石斧	
11	中尾遺跡	古墳群	古墳後期	丘陵		
12	古橋遺跡	集落跡	縄紋時代	丘陵	縄紋土器・石斧・石棒・石鏃・石錘	滋賀県報告第1冊・「有史以前の近江」
13	大音古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵	須恵器・鏡・金環	
14	西山古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
15	法光寺遺跡	寺院跡		平野部	須恵器	
16	瓢箪塚古墳	古墳（前方後円墳）	古墳中期	平野部		
17	石道古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵	須恵器・管玉	
18	馬場末古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
19	高野遺跡	寺院跡		平野部		
20	大海道遺跡	集落跡 寺院跡	弥生後期～平安時代	平野部	弥生土器・古式土師器・須恵器・土師器・瓦	「ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ 1975」 「　〃　Ⅲ－Ⅰ 1976」
21	石作（玉作）遺跡	工房跡	古墳時代	平野部	勾玉・砥石	
22	涌出山古墳群	古墳群	古墳中期～後期	丘陵	鏡・鉄剣・埴輪・須恵器	1978年調査
23	小山古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
24	西山山頂古墳群	古墳群	古墳後期	山頂		
25	赤尾古墳群	古墳群	古墳後期	山頂	金環・鉄刀・須恵器	
26	中居谷遺跡	散布地		丘陵	石鏃	
27	兵主神社古墳	古墳（前方後円墳）	古墳中期	平野部		
28	生塚古墳	古墳	古墳中期	平野部		
29	大将軍古墳	古墳	古墳中期	平野部		
30	妙光庵遺跡	集落跡	弥生前期	平野部	弥生土器	1979年調査
31	寺山・宮山古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵	金環・銀環・鉄刀・須恵器	
32	山畑古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵	家形石棺・玉類・金環・鉄刀・須恵器	

番号	遺跡名	種類	時代	立地	出土遺物	文献名・調査年度
33	松尾寺遺跡	寺院跡	平安時代	平野部	瓦・礎石・磁器・木器	1978年調査
34	充満寺遺跡	寺院跡		平野部		
35	西野古墳	古墳	古墳後期	丘陵		
36	古保利古墳群	古墳群	古墳中期	山頂		「昭和48年度滋賀県文化財調査年報」
37	姫塚古墳	古墳（前方後円墳）	古墳中期	平野部		
38	渡岸寺遺跡	寺院跡		平野部		
39	山田山古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
40	大塚古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
41	赤谷古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
42	高月遺跡	集落跡	古墳時代	平野部	子持勾玉	
43	父塚古墳	古墳	古墳中期	平野部		
44	熊野遺跡	集落跡	古墳後期	平野部	須恵器	
45	大将軍塚古墳	古墳？		平野部		
46	円通寺遺跡	集落跡	弥生後期～古墳前期	平野部	弥生土器・古式土師器	「ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ-Ⅱ 1976」
47	岡山古墳群	古墳群	古墳中期	丘陵		
48	雲雀山古墳群	古墳群	古墳中期	丘陵	短甲・鏡・武具・須恵器	「大阪市大歴史学教室紀要第1冊」1953年
49	伊部遺跡	集落跡	弥生後期	平野部	弥生土器	1979年調査
50	留目遺跡（掘大屋敷地区）	集落跡	室町時代	平野部	土師器・陶器・磁器	1979年調査
51	留目遺跡（松橋地区）	墳墓群	古墳中期	平野部	古式土師器	1979年調査
52	別所遺跡	古墳群	古墳後期	丘陵		
53	四郷崎古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵	鉄剣・鉄鏃・玉類・須恵器・土師器・弥生土器	「北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 1976」
54	中谷古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
55	丁野遺跡	墳墓群	弥生後期～古墳前期	丘陵	弥生土器・古式土師器 玉類	「北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 1976」
56	岡山古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
57	天目山古墳群	古墳群	古墳後期	丘陵		
58	飯喰山古墳群	古墳群	古墳中期	丘陵		
59	頓伝寺遺跡	寺院跡		平野部		
60	里の内遺跡	集落跡		平野部	石斧	
61	若宮山古墳	古墳（前方後円墳）	古墳前期	丘陵		「昭和48年度滋賀県文化財調査年報」
62	尾上浜遺跡		縄紋時代～平安時代	湖底	縄紋土器・弥生土器・須恵器・土師器・石器	琵琶湖湖底遺跡の研究
63	小江寺遺跡	寺院跡	白鳳時代？	平野部	瓦	
64	今西湖底遺跡			湖底		
65	今西遺跡	集落跡	古墳前期～後期	平野部	古式土師器・須恵器・黒色土器	「湖北町今西遺跡発掘調査報告書 1974」
66	蓮台寺遺跡	寺院跡		平野部		
67	浅井寺遺跡	寺院跡	白鳳時代？	平野部	瓦・礎石	
68	高木遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代	平野部	弥生土器・古式土師器・須恵器	

番号	遺跡名	種類	時代	立地	出土遺物	文献名・調査年度
69	水木遺跡	散布地		平野部	石器	
70	西の宮遺跡	館跡		平野部		
71	天福寺遺跡	寺院跡		平野部		
72	無道寺遺跡	寺院跡		平野部		
73	小倉遺跡	散布地	古墳前期～奈良時代	平野部	古式土師器・土師器	「ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ−Ⅱ 1976」
74	大安寺遺跡	散布地	弥生前期	平野部	弥生土器	「同　上」
75	五村遺跡	集落跡・墳墓群	弥生後期～平安時代	平野部	弥生土器・古式土師器・土師器・須恵器・灰釉陶器・木器・巴形銅器	1979年調査
76	丸山遺跡	古墳	古墳前期	丘陵	銅鏡・鉄剣・古式土師器	1978年調査
77	中野遺跡	散布地	弥生後期～古墳前期	平野部	弥生土器・古式土師器	
78	大寺遺跡	散布地	弥生後期～古墳前期	平野部	弥生土器・古式土師器	
A	柏原遺跡	集落跡	古墳後期～平安時代	平野部	石器・須恵器・土師器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・山茶埦・磁器・陶器・鉄鎌・鉄釘・瓦	本報告書
B	柏原北遺跡	集落跡	弥生時代・奈良時代～鎌倉時代	平野部	石斧・須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶埦・磁器・陶器	1979年調査
C	井口遺跡	集落跡 寺院跡	弥生中期・古墳後期～室町時代	平野部	弥生土器・須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器・山茶埦・磁器・陶器・黒色土器・石器・鉄製紡錘車・鉄釘・木器・古銭・瓦	「ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ−Ⅱ 1977」 「　〃　Ⅴ　1978」

第２章　調査の経過

調査は、５ｍ×10ｍの規模を基本としたトレンチを設定し、遺構の有無、遺跡の範囲を確定することから実施した。路線内の状況は、南側に畑地及び竹林、北側に一段低くなる水田であるが、トレンチ調査の結果、周辺より一段高くなっている南側の畑地（路線内85ｍ）に遺構の分布することを確認し、北側水田及び畑地より南側の竹林では遺構を検出することはなかった。従って、調査は、畑地部分を柏原遺跡とし、全面調査に切りかえた。

柏原遺跡の調査は、６月から10月まで要した。以降、現国道365号線以北約100ｍ程を残し、さらに北方の調査を同様の方法で継続し、遺構の存在を確認したが、本書では、現国道 365号線以南の柏原遺跡に限って報告することとした。

第３章　調査結果

今回の発掘調査で検出した遺構は、竪穴式住居跡10棟、掘立柱建物跡２棟、井戸跡２基、溝状遺構３条、その他多数の大小土坑である。これらには年代的な幅があるため、まず、個々の遺構とその出土遺物を説明して遺構の年代をおさえ、次いで、包含層遺物をも加えて遺物の編年を試み、最後に、これら操作を通して得られた同時期遺構の配置を説明するという順序で記述していくことにする。

イ．遺　構

ｉ）竪穴式住居

Ｔ１（ＰＬ４）　軸線をＮ６°20′Ｅに持ち、南北６ｍ、東西6.25ｍを計る。方形プランで、床面35.8㎡と当遺跡では大型の類である。柱穴や周溝等は認められなかった。また、住居跡の北壁に接してその中央附近で焼土の広がりが見られ、カマドの存在が考えられたが、規模や構造については明らかにし得なかった。

（出土遺物）須恵器坏蓋、坏身、土師器甕、灰釉陶器皿、埦がある。１・２は、偏平な天井部に低いつまみが付く蓋で、口縁端部は下方に短かく屈曲している。３の坏身は、横断面方形の高台が付く。６の土師器甕は、頸部を「く」の字形に屈曲させた粗雑なつくりである。灰釉陶器の４は段皿で、５の埦は、横断面が丸味を帯びた方形の高台が付く。

（時期）出土遺物のうち須恵器は陶邑ＭＴ21㉚や平城宮跡ＳＤ1900乃至ＳＤ 485㉛に類似品があり、８世紀前半のものと思われる。出土遺物の中には灰釉陶器が若干混じるが、Ｔ１は、後述するように、同形式の灰釉陶器を出土する第１井戸跡に切り込まれており、Ｔ１の遺存度（深さ平均６cm）から考えても、井戸跡構築時の混入品と思われる。従って、Ｔ１は、須恵器の編年観によるのが妥当であろう。

Ｔ２下層（ＰＬ５・６）　Ｔ２はＴ１の南 3.5ｍに位置する。住居跡西半分は調査範囲外に係り、従って、南北6.55ｍ、東西 3.6ｍ以上を計る。軸線はＮ４°40′Ｗにあって、方形プランを呈するものと思われる。住居跡内では、柱穴２基と検出範囲のほぼ中央で大型の土坑１基を検出した。

（柱穴）径40～75cmの楕円形の掘り方で、径15cm程の柱痕を確認した。掘り方は、床面より20

cm程の深さまで掘り込まれている。

（大型土坑）長径１ｍ前後、深さ30cmの規模で、横断面が舟底状を呈している。貯蔵穴の可能性もあるが、遺物の出土は顕著でない。

（出土遺物）須恵器の坏蓋、坏身、壺、瓿、土師器の甕がある。１の坏蓋には乳頭状のつまみが付く。２・３では、天井部は偏平で、口縁部との境界は屈曲せず、端部は丸い。４～６は、立ち上りの小さい口縁部を持つ矮小化した坏身である。７・８の坏身は、口縁部が大きく内傾し、短かい。また、全体的に偏平である。９は瓿の口縁部で、頸部はゆるやかに屈曲し、凹線を施す。10は壺の口縁部で、外反気味に開いた後、口縁端部を肥厚させ、垂直に立たせている。土師器の甕は大小の２種類ある。11は小型品で、「く」の字形に屈曲させた単純な口頸部を持つ。12は、いわゆる受口状の口縁部を持ち、その端部を外方に突出させている。13～15は頸部の屈曲が大きく、14・15では、端部を上方に短かくつまみ上げている。

（時期）以上の出土遺物は陶邑ＴＫ217や小墾田宮堆定地ＳＤ050[32]、難波宮跡東地区下層竪穴等出土[33]のものに類似した特徴を持つ。従って、７世紀初頭頃に位置付けられよう。

Ｔ２上層（ＰＬ５・７）　Ｔ２下層をほぼ重複した形で切り込んで構築されている。南北6.55ｍ、東西４ｍ以上で、西側３分の１程は調査範囲外に入る。住居跡の東南コーナーでカマドを検出したが、遺存度が悪く、規模等は明らかにできなかった。南北軸線はＮ８°50′Ｗを示す。

（出土遺物）住居跡内出土遺物は、須恵器の坏蓋、坏身、壺、鉢、土師器の椀、甕、灰釉陶器の長頸壺である。１～４の坏蓋は、やや偏平な天井部に、中高のつまみが付き、天井部から緩やかにのびて口縁部に移行し、端部は下方に短かく屈曲する。坏身の５～８は、体部が直線的に開き、口縁端部をわずかに外反させている。９は、直線的に開く体部に高台が付く。10・11は、外反気味に大きく開いた体部に、外方に踏んばった高台が付く。12は逆「ハ」の字形に開く厚手の鉢である。13は、わずかに開くが垂直に近い壺の口縁部である。14は、口縁部がやや内彎気味に開き、その端部を肥厚させて面をなす壺で、体部外面にカキ目を施す。15は灰釉陶器の壺で、長頸で、外反する口縁部に上下に肥厚して外側に面を取る口縁端部が付く。肩部は丸味を帯びる。土師器の16・17は小型の碗で、体部は内彎して浅く、口縁端部は短かく屈曲して上方につまみあげている。体部内面には、暗紋を密に施している。18は、外方にふんばる高台の付く大型椀である。19は、頸部が「く」の字形に屈曲し、口縁端部が肥厚する小型の甕である。20は、いわゆる受口状に屈曲した口縁部を持つ甕である。

（時期）出土土器類は、陶器ＭＴ21や平城宮跡ＳＤ1900、ＳＤ 485あるいは藤原宮跡Ⅱａ[34]に類品があり、住居跡の年代は８世紀前半頃におくことが可能であろう。

Ｔ３（ＰＬ８）　Ｔ３はＴ９を切って構築されている。南北4.3ｍ、東西3.4ｍを計り、床面積14.6㎡と小型の住居跡である。住居跡の東南コーナーでカマドの痕跡と思われる焼土塊、また、

柱穴と思われるものを３ヵ所で検出した。なお、軸線はN12°46′Eを示す。

（柱穴）３ヵ所のうち、東北コーナーのものは壁面に接している。掘り方は径35～65cmの楕円形で、柱痕は径20cmを計り、床面より20cm程の深さがあった。

（出土遺物）１・２は須恵器の坏蓋で、偏平な天井部に偏平なつまみが付く。口縁部に屈曲が見られ、端部は下方に短かく屈曲する。３は須恵器の坏身で、口縁端部はやや外反して尖り、体部は直線的に開く。底部との境界は明瞭な稜を取る。その他に、土師器の埦と甕がある。

（時期）上記遺物のうち、特に須恵器類は平城宮跡ＳＫ820、ＳＫ219[35]に類似し、陶邑ＴＫ７よりはやや古式の特徴を呈している。従って、８世紀後半の早い時期のものと考えられ、住居跡の年代もこのころにおけよう。

Ｔ４（ＰＬ９）　住居跡の西南コーナー部分のみ調査し得た。しかし、周溝、柱穴、カマドの存在を確認することができた。カマドは焼土を検出したのみで規模等は明らかでない。

（周溝）幅30～40cm、深さ12cmの横断面逆台形を呈する。

（柱穴）長径50cmの掘り方で、柱痕は径20cm程である。床面から13cm程掘り込まれている。

（出土遺物）須恵器の杯身と土師器の甕があるが、細片で図示し得ない。

（時期）出土遺物が細片であるため断定できないが、およそ９世紀前半頃の特徴を示している。

Ｔ５（ＰＬ10）　南北2.9m、東西2.2m以上で、西側は調査範囲外に係る。深さ15cmまで遺存し、北壁及び南壁に沿っては、幅10～15cm程が床面より一段高くなっている。柱穴や周溝はなく、カマドが住居跡の東南コーナーよりやや北側で検出された。なお、住居跡南北軸線はＮ３°20′Ｗにある。

（カマド）平面は馬蹄形を呈し、焚口幅37cm、最大幅63cm、長さ52cmを計る。床面は凹み、その中に炭化物、灰に混って、土師器甕、須恵器の坏蓋等の破片が出土した。また、カマドと住居跡東南コーナー部との間は壁面より外側に張り出しており、煙道があった可能性がある。

（出土遺物）須恵器の坏蓋と土師器の埦及び甕である。１の坏蓋は、偏平な天井部に中高のつまみが付き、口縁部の屈曲はなく、内側に小さなかえりが付く。２の埦は、口縁部を内側に折り返し、体部内面には密に放射状の暗紋が見られる。

（時期）上記の出土遺物が陶邑ＴＫ217 でもやや新しく、ＴＫ48等に類似し、飛鳥第Ⅲ期[36]や湖西線関係遺跡ＶＤ区大溝の一括資料[37]に近似しているところから、当住居跡は７世紀後半の所産と考えられる。

Ｔ６（ＰＬ11・12）　南北4.73m、東西 3.3mで、やや南北に長い長方形プランを呈す。当住居跡では、住居跡の東南コーナーの北寄りでカマドを検出するとともに、住居跡内で４本の主柱穴、住居跡外側で12本の支柱穴を検出した。なお、住居跡の南北主軸はＮ３°30′Ｗにある。

（カマド）平面「コ」の字形で、幅70cm、長さ45cmの規模を持つ。焚口幅は55cmを計る。この

カマドと南壁との約１ｍ程の間は、幅約40cm内側に張り出しており、煙道と考えられる。

（柱穴）住居跡内の主柱穴は４基で、径35～45cmのほぼ円形の掘り方で、径20cm前後の柱痕を検出している。支出穴は12本で、住居跡の外側にあって、各コーナに１本、各辺に２本ずつ配されている。柱痕を確認することはできなかったが、径35cm程の掘り方である。

（出土遺物）須恵器の坏身、壺、土師器の甕、鉢が出土している。１の坏身は、体部は内彎気味に開き、底部はやや丸味を持つ。２の壺は低部のみで、低い高台が付く。３の甕は小型で、体部は球体に近かく、受口状の口縁部を持つ。４は、頸部が「く」の字形に屈曲する単純口縁の甕である。５は、口縁部が大きく外反し、体部は球体に近い。

（時期）上記出土遺物は、９世紀前半とされる陶邑ＴＫ７や平城宮跡ＳＤ650[38]、長岡京跡ＳＤ51[39]等に類似しており、住居跡の年代をここにおくことができよう。

Ｔ７（ＰＬ13）　Ｔ２の南４ｍに位置する。住居跡の東北部のみ調査し得たにとどまるが、周溝と柱穴の存在を確認できた。軸線はＮ９°15′Ｗにある。

（柱穴）径35cmの円形の掘り方で、深さ20cmまで掘り込まれている。

（周溝）壁面に沿い、幅15～20cm、深さ７cmで逆台形の横断面を呈す。

（出土遺物）須恵器の坏身と土師器の甕、皿がある。１の坏身は、わずかに肥厚して外反する口縁部と丸味のある底部を持つ。２では体部は直線的に開く。４の土師器皿は口縁内面に凹線がめぐる。甕には大小２種あり、４は頸部を「く」の字形に屈曲させた小型のもの、５は「く」の字形の頸部に端部を肥厚させて下方に垂れ、外側に面を取る口縁部を持つもので長胴の甕である。

（時期）陶邑ＭＴ21や平城宮跡ＳＤ1900、ＳＤ485 に類する土器類を出土しているところから、８世紀前半の遺構と考えられる。

Ｔ８（ＰＬ14）　Ｔ１の西側に一部接して構築されている。南北5.9ｍ、東西は2.1ｍ以上で、西側は調査範囲外に入る。周溝はなく、カマドも調査範囲内では検出できなかった。軸線はＮ9°20′Ｗにある。

（柱穴）住居跡の東北コーナーで、径50cmの円形の掘り方で、深さ20cmのピットがあった。柱穴の一つである可能性がある。

（出土遺物）１は須恵器の坏蓋で、天井部は偏平で、口縁部との境界は不明瞭である。２は内彎気味の体部と肥厚して直立する口縁部を持つ須恵器坏身。３では横断面方形の低い高台を持つ。４は土師器の埦で、口縁端部を内方に折り曲げている。暗紋はない。

（時期）１の坏蓋は古墳時代に入るものであるが、その他のものは陶邑ＴＫ７、長岡宮跡ＳＤ51、平城宮跡ＳＤ650 等に類し、従って、住居跡は９世紀後半代に比定するのが妥当であろう。

Ｔ９（ＰＬ８）　Ｔ３に切り込まれている。東西4.2ｍ、南北3.1ｍで東西に長い長方形プランを呈す。軸線はＮ71°Ｗにあり、柱穴、周溝を検出したがカマドはない。

Tab. 2　柏原遺跡竪穴住居跡・掘立柱建物一覧表

竪穴住居・掘立柱建物	規模	柱穴	周溝	カマド	貯蔵穴	面積	住居跡主軸方位	形態	その他	時代	出土遺物
T 1	南北6.00m 東西6.25m	なし	無	—	—	35.84㎡	N－6°20′－E	方形 (台形に近い)			須恵器　坏・蓋 灰釉　段皿 土師器・甕
T 2（下層）	南北6.55m 東西3.6m以上	2以上	無	—	中央付近に土壙	—	N－4°40′－W	方形	重複		須恵器　蓋・坏・壺・鍋 土師器　甕
T 2（上層）	南北6.55m 東西4.00m以上	なし	無	南東コーナー	—	—	N－8°50′－W	方形			須恵器　坏・蓋・壺・鉢 灰釉　壺 土師器　椀・甕
T 3	南北4.30m 東西3.40m	3個以上	無	南東コーナー	—	14.62㎡	N－12°46′－E	方形 (台形に近い)	T9と重複		須恵器　蓋・坏 土師器　甕・椀
T 4	南北2.80m以上 東西1.90m以上	1個以上	有	南西コーナー付近に焼土	—	—	N－2°40′－W	方形			須恵器　坏 土師器　甕
T 5	南北2.90m 東西2.20m以上	なし	無	南東コーナー	—	—	N－3°20′－W	方形			須恵器　蓋 土師器　椀・甕
T 6	南北4.70m 東西3.30m	主柱穴4 支柱穴12	無	東側の壁の南東コーナー寄り	—	15.51㎡	N－3°30′－W	方形			須恵器　坏・壺 土師器　甕・鉢
T 7	南北2.80m以上 東西1.40m以上	1以上	有	—	—	—	N－9°15′－W	方形			須恵器　坏 土師器　甕・皿
T 8	南北5.90m 東西2.10m以上	1以上	無	—	—	—	N－9°20′－W	方形			須恵器　蓋・坏 土師器　椀
T 9	南北3.10m 東西4.20m	4	有 東側の壁にそって	—	—	13.02㎡	N－71°00′－W	方形	T3と重複		須恵器　坏・甕 土師器　椀・甕 鉄製品　鎌
H 1	東西5間（8.72m）×南北4間（7.00m）					61.04㎡	N－72°00′－E	—			—
H 2	東西2間（5.20m）以上×南北3間（6.30m）以上					—	N－4°00′－W	—			—

（柱穴）径50～60cmの掘り方で、径20～25cmの柱痕を残すものを４本が住居内に配されている。

（周溝）東側柱穴間を結び、東北及び東南コーナーで切れる。幅20cm、深さ10cmで垂台形の横断面をなす。

（出土遺物）須恵器の他に鉄製鎌が出土した。１・２は口縁部が大きく内傾して短かく、偏平な体部を持つ坏身。鉄製鎌は、長さ12.5cm、幅 2.2cmで内彎したもの。柄との取り付け角度は鈍角である。

（時期）須恵器坏身は陶邑ＴＫ217、小墾田宮推定地ＳＤ050、飛鳥第Ｉ期に類し、鎌もこの頃のものとして大過なく、７世紀初頭の住居跡とできる。

ii ）掘立柱建物

Ｈ１（ＰＬ15）　南北４間（７ｍ）、東西５間（8.72ｍ）でＮ72°Ｅに軸線がある。柱穴は径（辺）60～90cmの楕円形及至方形で、柱間は南北が1.75ｍと等間隔であるが、東西は1.86ｍ×1.5ｍ×1.5ｍ×2.0ｍ×1.86ｍとなる。

（時期）直接資料はないが、後述するピットの切合の関係から８世紀後半以降とできる。

Ｈ２（ＰＬ16）　梁行２間（5.2ｍ）、桁行３間（6.3ｍ）の南北棟で、柱穴は径50～60cmの円形乃至楕円形で、径20cmの柱痕をのこす。梁行は2.6ｍの等間隔、桁行は南端のみ1.7ｍ、他は2.3ｍを計る。軸線はＮ４°Ｗにある。

（時期）ピット等の切り合い関係から８世紀後半以降である。

iii ）井戸跡

第１井戸跡（Ｂ Ｐ １）（ＰＬ17・18）　Ｔ１を切り込んでいる。径1.8ｍ、深さ1.7ｍの掘り方で、井戸枠は遺存しなかったが、径約90cmの規模を持つものと考えられた。最下層には小砂利があった。また、井戸跡上部に長さ30～80cmの自然河原石がずり落ちた状態で出土し、井戸肩部の敷石と考えられる。井戸内には、灰釉陶器埦が数個体出土している。

（出土遺物）５～９の灰釉陶器埦は実形で、口縁端部がわずかに外反し、内彎する高台が付く。猿投古窯跡群の黒笹14号～90号窯式[40]に相当するものと思われる。この他、須恵器の坏蓋、坏身、土師器の甕、釘等が出土している。

（時期）重複するＴ１からの混入品もあるが、出土状態から、灰釉陶器の示す時期を以って井戸埋没時期とできる。

第２井戸跡（Ｂ Ｐ ９）（ＰＬ19）　長径 1.5ｍの楕円形プランを持つ素掘りの井戸跡と思われるものである。深さは0.55ｍを計る。南側で、径 0.9ｍの土坑が切り込んでいるが、これも井戸跡の可能性がある。

（出土遺物）須恵器の坏蓋、甕、灰釉陶器の椀、土師器の皿、鉄釘等が出土しているが、井戸跡の時期を示すと思われる灰釉陶器は、3が横断面逆三角形を呈す高い高台を持ち、内彎する体部と肥厚する口縁端部を持つもの、4は内攣して開く体部に外反する口縁端部が付く。

（時期）灰釉陶器は猿投窯跡群黒笹14号窯式乃至90号窯式に属し、10世紀代のものである。

iv　溝　跡（PL.25）

M1　第3・9住居跡を囲むように東西方向に走り次いで直角に屈曲して北へ伸びる。幅40～60cmで深さ25～40cmあり、横断面は逆台形を呈す人工的な溝である。埋土は、黒褐色土・黄褐色土・暗黄褐色土・暗褐色土の4層に分層し得た。

（出土遺物）須恵器・土師器・灰釉陶器・磁器が出土している。須恵器1～4の坏身は、体部が直線的に伸び口縁端部を丸くおさめ、低く断面方形の高台が付く。灰釉陶器5は、内彎した深目の体部の皿で高台は低く外方にふんばる。6.7は、内彎する浅い感じの椀で高台は低く丸味を持つ。磁器8は、直線的に開いた深い体部に、所謂「玉縁」の口縁部が付く。白磁椀である。土師器9は、偏平な灯明皿で口縁部と体部の境を凹ませる。10．体部は浅く口縁部は僅かに「く」字形に屈曲する甕で、全体的に作りは雑である。

これらの遺物のうち、灰釉陶器は猿投古窯跡群の黒笹14号窯乃至35号窯式に属し磁器は、山口県秋根遺跡のII12類[41]に該当する。

（時期）この溝跡は10世紀代のものと思われる。

M2　第2溝跡は、調査地中央部、第3・9住居跡の北側で検出し、第1溝跡により切られていた。北東から南西方向に弧を描いて走る溝で、幅50～60cm深さ20～30cmを測り、断面は浅いU字形を呈す人工的な溝である。埋土は黒褐色土と黄褐色土に分層し得た。

（出土遺物）埋土中から須恵器、土師器が少量出土したが、全て細片で図示し得るものはない。

（時期）出土遺物が細片のため限定しにくいが、その特徴や第1溝跡との切り合い関係から9世紀代の所産であろう。

M3　第3溝跡は、第2溝跡の北約6mにあって、調査地北部の南側で検出した。北東から南西へ弧状に走り、南側で終る。溝跡の幅は40～60cmを測り、深さ20～30cmで断面形は浅いU字形を呈する人工的な溝である。埋土は黒褐色土と黄褐色土に分層し得た。

（出土遺物）少量の須恵器と土師器が出土しているが、細片のため図示し得ない。

（時期）出土遺物が細片のため時期を限定するのは困難であるが、あえて土器類の特徴から推定すると9世紀代であろう。

v　土　坑

B P 2（P L 18）　第２土坑は、調査地南部にあって第２掘立柱建物の柱穴に切られる。プランは不定形楕円を呈し、長径２ｍ短径 1.2ｍで深さ20cmの断面方形である。

（出土遺物）須恵器１は、天井部と口縁部の境界が屈曲する坏蓋である。２は、直線的に開き口縁端部は丸くおさめる坏身である。

（時期）出土遺物より８世紀後半であろう。

B P 4（P L 18）　第１住居跡の南端に位置し、一部それに切られている。プランは不定形な楕円形で、長径4.8ｍ短径3.2ｍ深さ46cmの２段に掘られた土坑である。

（出土遺物）埋土中より須恵器・土師器・灰釉陶器・瓦及び土錘が出土している。須恵器１は、膨らみの少ない天井部で、天井部と口縁部の境は稜をとらない坏蓋。土師器２は、小型の埦で外反気味に開く口縁部をもつ。３は、管状の土錘である。

（時期）出土遺物は７世紀初頭に位置付けられる。

B P 5（P L 18）　第５土坑は、長径3.1ｍ短形2.1ｍを測る不定形な楕円を呈し、深さは20cmである。

（出土遺物）須恵器１は、偏平な天井部で、口縁部がほとんど屈曲しない坏蓋である。２は、古墳時代の坏身で、たち上りは低く内傾している。混入品であろう。３は、やや外反する深目の体部を持つ坏身である。他に、鉄滓と土師器の甕が出土している。

（時期）混入品を省けば、これらは10世紀代の所産である。

B P 6（P L 18）　調査地南端の第１掘立柱建物の柱穴に切られている。プランは円形で径0.85ｍ深さ21cmの断面舟底状を呈す。

（出土遺物）出土遺物は、須恵器坏身と土師器甕がある。１は、やや浅目で内彎気味に開く体部に外反する口縁部が付く坏身である。

（時期）８世紀前半代に位置付けられる。

B P 8（P L 18）　第８土坑は、調査地中央部東端で、西半部のみ検出した。プランは径1.8ｍの円形で、深さ20cmの断面長方形を呈している。

（出土遺物）埋土中より須恵器・土師器が少量出土した。須恵器１は、低い天井部で口縁部との境は浅く屈曲し、口縁部内面は凹む。２は、偏球体の体部に直立する口縁部が付く短頸壺である。

（時期）埋土中最も新しい時期の遺物は、９世紀～10世紀に属す。

B P 10（P L 18）　調査地の北部にある。プランは径 1.5ｍの円形で深さ25cmの断面Ｕ字形を呈する。

Tab．3　土坑（BP）出土遺物規模一覧表

BP番号	出土遺物	規模	備考
1	須恵器．坏身、坏蓋、壷 土師器．甕、土錘 灰　釉．椀 鉄　器（釘）	径　－１１０㎝の円形 深さ－１３４㎝の断面方形	土壙上面に石組 第１井戸跡
2	須恵器．坏身、坏蓋、壷 土師器．甕	長径－２００㎝ 短径－１２０㎝ }の不定形な楕円形 深さ－　２０㎝の断面南二段掘りの方形	性　格　不　明
3	須恵器．坏身 土師器．椀、甕	東西－２００㎝の楕円形 深さ－　２６㎝の断面方形	性　格　不　明
4	須恵器．甕、坏身、坏蓋、壷 土師器．甕、土錘 灰　釉．坏身 　瓦	長径－４８０㎝ 短径－３２０㎝ }の楕円形 深さ－　４６㎝の断面中央２段掘りの方形	性　格　不　明
5	須恵器．甕、坏身、坏蓋 土師器．甕 鉄サイ．	短径－２１０㎝ 長径－３１０㎝ }の不定形な楕円形 深さ－　２０㎝の断面不定形な楕円形	性　格　不　明
6	須恵器．坏身 土師器．甕	径　－８５㎝の円形 深さ－２１㎝の断面舟底形	性　格　不　明
7	須恵器．甕、坏蓋 土師器．甕	東西２１０㎝の長方形 深さ－１４㎝の断面方形	性　格　不　明
8	須恵器．坏身、坏蓋、長頸壷、短頸壷 土師器．甕	径　－１８０㎝の円形 深さ－　２０㎝の断面長方形	性　格　不　明
9	須恵器．甕、坏身、坏蓋、壷、長頸壷 土師器．甕、椀 灰　釉．坏身、椀、壷、段皿、小皿 緑　釉（椀） 鉄　器（釘）	長径－１５０㎝ 短径－１３０㎝ }の楕円形 深さ－　５７㎝の断面方形	井戸跡 掘りかえ有り
10	須恵器．坏身 土師器．甕、皿	径　－１５０㎝の円形 深さ－　２５㎝の断面Ｕ字形	性　格　不　明
13	須恵器．坏身、坏蓋 灰　釉．椀、皿	長径－４００㎝ 短径－１２０㎝ }の楕円形 深さ－　２５㎝の断面長方形	性　格　不　明

（出土遺物）須恵器と土師器を少量出土した。須恵器１は、低く断面方形で底部のやや内側に付く高台を有する坏身。土師器２の皿は、口縁端部内面に凹線を巡らし浅い体部である。

（時期）出土遺物の年代観から、８世紀後半の所産であろう。

ＢＰ 13（ＰＬ18）　第13土坑は、第５住居跡の南に位置していて、プランは南北に長い楕円形である。長径4.0ｍ短径1.2ｍの比較的大形のもので、深さは25cmほどで断面は長方形を呈す。

（出土遺物）埋土から須恵器と灰釉陶器が出土している。須恵器１は、口縁端部を下方に短く屈曲させた坏蓋である。灰釉陶器２は、体部内面に僅かに段を成す小型の皿で、口縁端部は僅かに外反する。

（時期）灰釉陶器の皿は10世紀代のものであろう。

ｖｉ　小土坑

小土坑は、総数 400余りある。ここでは主なもののみ記入することとする。

Ｐ51（ＰＬ20）　この小土坑は、第１住居跡の東側で検出したもので、長径83cm短径61cmの楕円形である。深さは平均10cmで非常に遺存度の低いものであった。小土坑の南端に須恵器の坏身２点を天地逆にして、内側にやや傾むけてならべてあった。これを土坑墓と見なせば、日本海側の地方に通有に見られる土器枕であろうか。

（出土遺物）須恵器坏身の完形品が２点出土している。1.2は、矮小化したもので、体部は浅く膨みが少なく、たち上りは非常に低く内傾して僅かに受部から出る程度である。

これらは、陶邑ＴＫ217 型式の古い段階のものに属する。

（時期）土器の年代は、７世紀初頭に位置付けられる。

Ｐ53（ＰＬ20）　第51小土坑の西側に隣接している。プランは、長径65cm短径60cmの楕円形で、深さは８cmで南側はさらに一段深くなる。小土坑の中央から、須恵器の坏身と皿が破砕されて人為的に埋められていた。㊷

（出土遺物）須恵器の坏身と皿が破片となって出土したが、接合すると完形に近くなった。１は、僅かに外反して開いた体部に、低く断面方形の高台が付くものである。２は、体部を短く直線的に開いた皿である。

これらは、陶邑ＴＫ７型式に近く、長岡京跡ＳＤ51や平城宮跡ＳＤ650 に近似している。

（時期）出土遺物の年代観から見て、９世紀の前半代かと思われる。

Ｐ94（ＰＬ21）　この小土坑は、第２掘立柱建物の北側にあって、形は不定形な楕円数個の集合のようであり、長径３ｍ短径1.1ｍを測り中央部分の深さ35cmである。埋土からは、「今西」の墨書のある灰釉陶器の皿の他、須恵器坏身と土師器埦及び鉄器が見られる。また、埋土には炭化物や灰層が若干見られ、「ゴミ穴」的性格を持つものと思われる。

（出土遺物）灰釉陶器２～４は、やや深目の皿で体部は内彎して開き、口縁端部は僅かに外反する。高台は非常に低く丸味を持つ。３の底部外面には「今西」の墨書がある。須恵器１は、非常に低い高台を持つ坏身である。土師器５は、底部と体部の境は屈曲し体部は直線的に開いた椀で、口縁端部内面は凹線を施している。6.7 は、断面方形の鉄釘である。

この内、灰釉陶器は、猿投古窯跡群折戸53号窯式に類似した特徴を示している。

（時期）灰釉陶器の年代観は、10世紀代に位置付けられる。

Ｐ350（ＰＬ22）　第350小土坑は、調査地北端にあって、その平面形は径50㎝の隅丸三角形に近い。深さは15㎝あり中央部はさらに一段深く25㎝ある。断面は逆台形状である。小土坑からは、須恵器の坏身が横転した状況で出土した。

（出土遺物）須恵器１は、天井部が偏平で天井部から口縁部に緩やかに伸び端部は下方に短く屈曲する。２の坏身は、体部が直線的に伸びて深く、口縁端部は尖り気味となる。高台は非常に小さく、ややふんばる。

これらは、平城宮跡ＳＫ820やＳＫ219に類似する。

（時期）８世紀後半に比定できる。

Ｐ351（ＰＬ22）　第351小土坑は、調査地北部東端に位置している。プランは径65㎝の円形で、深さ25㎝の断面Ｕ字形を呈している。内部から、須恵器と土師器が打ち割られた状況で出土し、接合の結果、須恵器坏身２点と短頸壺１点、土師器椀１点分がほぼ完形に復原し得た。

（出土遺物）須恵器の坏身１～３は、体部は直線的に開き口縁端部は単に丸くおさめ、底部と体部の境は丸い。高台は大きく、外方に大きくふんばる。短頸壺４、偏球体の体部は底部が平らで、全体に厚手である。口縁部は短く開く。土師器椀５は、偏平で体部は屈曲して直線的に開き、口縁端部は外傾する。暗紋は見られない。６の皿は、口縁端部を外反させさらに上方へつまみ上げるもので、体部内外面には粗く暗紋を施す。

これらは、一括資料として良好なもので、平域宮跡ＳＤ1900・同ＳＤ485 型式に類する。

（時期）出土遺物は、８世紀の前半代に比定できる。

Ｐ353（ＰＬ22）　第350小土坑の北側30㎝のところにある。プランは、長径70㎝短径55㎝の楕円形である。深さは25㎝あって断面Ｕ字形を呈している。小土坑の中央から、須恵器の坏蓋１個体と坏身５個体分が人為的に打ち割った状態で出土した。

（出土遺物）須恵器の坏蓋と坏身がある。１は、低く偏平な天井部の蓋で、その中央に付け根がくびれ、中高のつまみが付く。２の坏身は、体部は直線的に開き口縁部は尖り、底部は平らである。３～５は、２の体部に低いがやや外方にふんばる高台のつく坏身である。６は大型の坏身で、体部は直線的に開き口縁端部は尖り気味に外反する。高台は体部直下に付き、太いものの低く断面逆台形を呈す。

これらも、一括資料として価値のあるもので、陶邑ＭＴ21からＴＫ７の中間的な特徴をもち、平城宮跡ＳＫ219乃至ＳＫ870型式や飛鳥第Ⅴ期に類似している。

（時期）上記の年代観より、８世紀後半代と考えられる。

Ｐｏ１（ＰＬ20）　第01小土坑は、第９土坑と第13土坑の中間に位置している。この小土坑は、径75㎝の正円に近いプランを呈し、深さ20㎝の断面長方形であって、その底に灰釉陶器が置かれていた。

（出土遺物）灰釉陶器皿１は、浅く大きく開いた体部で、口縁端部は外反し丸くおさめている。高台は非常に小さく、「蛇ノ目高台」に近い。灰釉はかかっていない。

この灰釉陶器は、猿投古窯跡群折戸53号窯式に類する。

（時期）10世紀の後半代と思われる。

ⅶ　トレンチ

遺跡の北への拡がりを追求するため、路線に沿って発掘調査地の北へ計７ヵ所のトレンチを設定した。以下、その状況を簡単に述べる。

第１トレンチ（１Tr）（ＰＬ29・30）　第１トレンチは、発掘調査地北端部に接して設定した18×７ｍのトレンチである。層位は上から耕土・床土・灰色粘土・灰色砂礫ないし砂層となりその下層は茶褐色砂礫層となって、遺構は何ら検出されなかった。表土以下各層から少量の土器が出土している。

（出土遺物）第１トレンチからは、須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶埦の細片が出土した。須恵器１は、口縁内面に小さく断面三角形のかえりの付く坏蓋である。２は、断面方形の非常に低い高台の付く坏身。山茶埦３は、小型の埦で高台は断面逆三角形の非常に低く粗なものである。

第２トレンチ（２Tr）（ＰＬ29・30）　第１トレンチの北西10ｍの位置に設定した12×５ｍのトレンチである。層位は、耕土・床土・灰色粘土・黄灰色砂質度・黄褐色砂礫層・灰色砂礫乃至砂層となっており、各々の層より、須恵器・土師器・灰釉陶器の少片が少し出土した。

（出土遺物）灰釉陶器１は、内彎気味に開く深い体部に、口縁端部の外面は断面三角形に突出する埦である。２は、浅く大きい体部に、やや内彎する断面長方形の高台が付く皿である。

第３トレンチ（３Tr）（ＰＬ29・30）　第２トレンチの北西に隣接した15×２ｍのトレンチである。基本的な層位は第２トレンチと変らない。出土遺物も、同様であった。

（出土遺物）須恵器坏蓋１・２は、非常に偏平な天井部の中央に、筒状のつまみが付き、口縁部の屈曲は緩くなる。３は、口縁部を尖り気味に外反させた坏身である。灰釉陶器４は、深目の体部で口縁端部は肥厚し外反した埦である。６は、低く丸い高台の埦。５は、皿で高台は断面三角形に削り出している。

第4—No.1トレンチ（4TrNo.1）（PL29）　遺跡の西側を流れる小川を挾んで北西側に設定した20×7mのトレンチで、層位は耕土・床土の下は灰色粘土となっていた。遺物はほとんど出土しなかった。

第4—No.2トレンチ（4Tr No.2）（PL29）　このトレンチは、第4—No.1トレンチの北側で、一段高くなった畑地に設定した10×4mのトレンチである。層位は、上より耕土・床土・灰色砂層・茶褐色砂礫層となっていた。耕土と床土は客土されている。遺物はほとんど検出されなかった。

第5トレンチ（5Tr）（PL29・30）　第5トレンチは、式内社佐味神社跡の北東約15mのところに、路線を横断する形で設定した15×6mのトレンチである。トレンチの層位は、上より耕土・灰色粘土・暗灰色泥質土（流木・木ノ葉等有機物を多く含む）・黒褐色土・灰色砂層・暗灰色粘土層の互層となっていて、旧河道の様相を呈していた。これらの各層からは、須恵器・灰釉陶器・山茶埦・天目茶埦等の細片が多量に出土した。

（出土遺物）須恵器1は、外反気味に開く口縁部の坏身である。9は、甕の肩部で内外面共に叩き目をナデで消している。灰釉陶器の2は、外反する体部をもつ薄手の碗である。3～5は、低く断面逆三角形を呈する埦の高台。6は、やや高く内彎気味にふんばった、丸味を持つ高台である。7・8も、やや外方にふんばった高台で、やや高く断面逆三角を呈す。山茶埦10は、小型埦で高台は逆三角形をして低く、作りは粗である。内面に重ね焼きの跡が残る。天目茶埦の11は、内彎した体部にヘラで削り出した小さい高台が付く。釉は暗茶褐色に発色している。

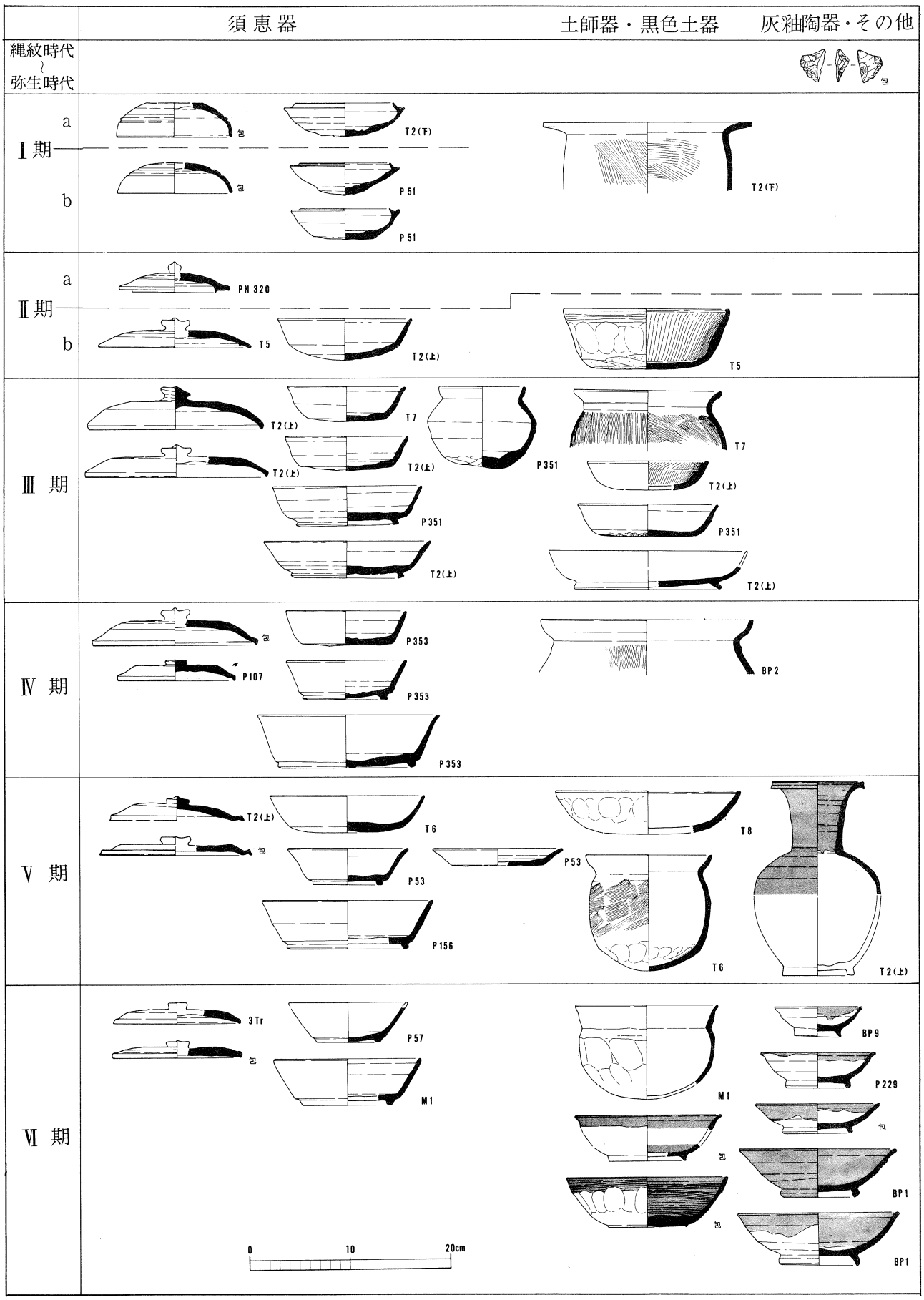
第6トレンチ（6Tr）（PL29・30）　現国道365号線に接して設定した17×5mのトレンチである。層位は、耕土・床土となりその下層は灰色砂礫層が続く。各層より、須恵器・土師器・灰釉陶器が少量出土した。

（出土遺物）1は、須恵器の壺の高台で、非常に小さく、体部に不均合いなほどである。

ロ．遺　物

柏原遺跡からは、遺構や包含層から多量の遺物が出土しているが、大半が土器類で、その中でも須恵器が60％と最も多く、次いで土師器17％、灰釉陶器が19％、残り4％程が緑釉陶器、黒色土器、山茶埦、磁器類である。施釉陶器では、灰釉が多く、緑釉陶器が僅少である点注意される。また、灰釉陶器では、埦が62％、皿36％（段皿を含む）で、両者が98％を占め、壺類がわずか2％であって、奢侈的なものがなく、汁器類に限られているところに特色が見られる。

土器類以外では、鉄釘、鉄鎌、鉄斧がある。また、瓦片も出土しており、附近に寺院跡の存在することも推察せしめるものである。



PLAN 3　柏原遺跡出土遺物編年表

さて、これら遺物の個々の観察結果については観察表にゆずり、ここでは遺物を編年的に分類しておく。

（a）　第Ⅰ期

第Ⅰ期はさらにa・bの2小期に区分することができる。

①　第Ⅰa期

〈須恵器〉　須恵器の坏蓋は、天井部は高く膨らみを持ち、全面ヘラ削りを施す。天井部と口縁部を分ける稜線は、断面三角形を呈して水平に突出する。口縁部は垂直に伸び、端部は単に丸くおさめている。坏身は、小型化の始まったもので、たち上りは内傾し低く、端部は単に丸くおさめる。受部は外上方に伸び、丸くおさめる。体部は膨らみがなく、偏平な感じを受け、底部のヘラ削りは狭く粗い。

〈土師器〉　甕は、口縁部が大きく外反し、水平に近くなって、端部外周は面を取る。体部は長胴となり、内外面共に粗い刷毛目を施している。

これらは、陶邑TK43型式や陶邑編年II型式第4段階[43]・湖北地方横穴式石室出土須恵器編年[44]の余呉町上ノ山1号墳のものに類似し、さらに難波宮跡東地区下層竪穴のものにも近似している。このところから柏原遺跡第Ⅰa期は、6世紀末頃と比定しうる。

②　第Ⅰb期

〈須恵器〉　坏蓋は、天井部の膨らみが少なくなり、ヘラ削りの範囲も天井部の⅓になる。天井部と口縁部の境界は、単に凹線を巡らすだけとなり、口縁部は内彎気味に開き、端部は単に丸くおさめる。坏身は、さらに矮小化し、たち上りは内傾して非常に小さく、受部より僅かに出る程度となる。受部は大きく外上方に伸びる。体部は偏平で浅く、底部のヘラ削りは省略されヘラ切り痕が残る。

これらは、陶邑TK217の古い時期のものや、小墾田宮推定地SD050、難波宮跡東地区下層竪穴、飛鳥第Ⅰ期のものに類似し、湖北地方横穴式石室出土須恵器編年の長浜市諸頭山2号墳に属する。したがって、第Ⅰb期は7世紀前半代の所産と考えられる。

（b）　第II期

第II期も形態の特徴から、さらにa・bの2小期に細分しうる。

①　第IIa期

〈須恵器〉　坏蓋は、やや膨らみを持っ天井部は、ヘラ削りを施し乳首状のつまみが付く。天井部と口縁部の境は僅かに凹み、口縁端部の内面には大きなかえりが付き、口縁部より下に出る。坏身は、図示し得るものはなかったが、体部は内彎気味に開き、底部と体部の境界は丸味を持ち底部は膨らみ不安定である。

これは、陶邑TK217 型式や飛鳥第II期の特徴を示し、陶邑編年III型式第Ⅰ段階ものに類似す

る。このことから柏原遺跡第II a 期は、7世紀中葉に比定できる。

②第II b 期

〈須恵器〉　坏蓋は、第II a 期のものに比べ天井部が偏平となり、つまみも偏平になる。天井部から口縁部に緩やかに伸び、口縁端部内面のかえりは、断面三角形で小さい。坏身は、体部は直線的に開きやや深目で、口縁端部は外反して丸くおさめる。底部と体部の境界は丸味をもち、底部は膨らみ不安定である。

〈土師器〉　埦は、体部が直線的に伸び深目で、径高指数（器高/口径×100）が40.1となる開きの少ないものである。口縁端部は内方に折り返し、底部はヘラ削りを施し体部内面には密に暗紋を施している。

これらは、陶邑ＴＫ48型式や飛鳥第III期・湖西線関係ＶＤ区大溝のものに類似した特徴を示しており、7世紀後半代に比定できよう。

(c)　第 III 期

〈須恵器〉　坏蓋は、膨らみのある天井部の中央に、やや中高で付け根がくびれるつまみが付く。天井部はヘラ切り後ヘラ削りを施す。天井部から口縁部に緩やかに伸び、端部は下方に短く屈曲し断面三角形を呈す。坏身には、高台のあるものとないものがある。高台のないものは、体部は直線乃至内彎気味に開き、口縁端部は外反する。体部と底部の境はやや丸味を残し、底部や僅かに膨らむ。高台を持つものは、体部は直線的に開きやや浅い。底部と体部の境は丸味があって、高台は大きく外方にふんばり、底部内寄りに付く。短頸壺は、偏球体の体部で肩の張りは少なく、口縁部は短く開く。底部はヘラ切り後ナデ調整。

〈土師器〉　甕は、口縁部が「く」字形に短く外反し端部は丸くおさめる。小型の甕で、体部は球体に近く、内外面共に刷毛目調整。他に長胴の大型甕もある。埦には、大小がある。小型埦は体部が内彎して開き口縁部は僅かに外反する。内面には二段に放射状の暗紋を密に施す。大型埦は、体部が直線的に開き、端部は内側がやや凹む。径高指数22.8である。底部はヘラ削りを施し、内面には暗紋は見られない。やや高く外方にふんばる高台の付くものもある。

これらは、陶邑ＭＴ21型式や飛鳥第Ⅴ期・平城宮跡ＳＤ1900・ＳＤ 485・陶邑編年Ⅳ型式第1段階・藤原宮II a に該当する。したがって、柏原遺跡第III期は、8世紀前半代に比定しうる。

(d)　第 Ⅳ 期

〈須恵器〉　坏蓋、天井部はやや膨らみ、偏平なつまみが付く。天井部はヘラ削りを施すものも見られるが、大半はヘラ切り痕をヨコナデで消す程度である。天井部と口縁部の境界はやや屈曲して段を成し、口縁部は下方に短く屈曲して断面三角形を呈す。坏身、高台を持たないものは、体部が直線的に開き端部は単に丸くおさめるだけである。底部と体部の境は屈曲して稜をなし、底部は平らで安定的。高台を持つものは、大小の二類がある。小型のものは、高台のない坏身に

やや低く外方にふんばる高台を付けたものである。大型品は、体部は直線的に開いて深く、口縁部は尖り気味に外反する。高台はやや低く断面逆台形でふんばる。

〈土師器〉　甕は、口縁部が中位で屈曲する所謂「受口状」を呈する長胴甕で、口縁端部は水平に面を取る。体部外面は刷毛目調整。これらは、平城宮跡ＳＫ820・ＳＫ219・陶邑編年Ⅳ型式第２段階に近似している。柏原遺跡第Ⅳ期は、このことから８世紀後半代を中心とした時期となる。

(e)　第 Ⅴ 期

〈須恵器〉　坏蓋は、第Ⅳ期のものに比べ、天井部の膨らみがさらになくなり、偏平なものとなってしまい、天井部と口縁部の境界の屈曲はさらに強くなり、「Ｓ」字状に近く口縁端部は下方に突出する。天井部のつまみは、付け根のくびれが小さくなる。坏身は、高台を持つものと、持たないものが見られ、高台を持たないものは、内彎乃至外彎して開く浅い体部で、口縁部は単に丸くおさめ、底部と体部は屈曲して稜をなす。底部は平らで、ヘラ切り痕を残す。高台のあるものは、それに、断面方形又は逆台形の低い高台を体部直下に垂直に付けたものである。皿は、外傾度の大きく、短い体部を持つもので、体部と底部の境界は屈曲して明瞭な稜をつくる。

〈土師器〉　椀は、径高指数23.1となる浅く大きく開いた椀で、体部と底部の境界は識別不能となる。口縁端部は僅かに内側に折り曲げる。体部外面に指頭圧痕を遺し、内面には全く暗紋を施さない粗雑な作りである。甕は小型品で、口縁部は僅かに「受口状」となって、端部は内傾した面を取る。体部は縦長の球体で、体部外面は刷毛目調整し、底部は内外面共に、指頭圧痕を残す。

〈灰釉陶器〉　この第Ⅴ期が、現在のところ灰釉陶器の当地方の初見期である。器種は長頸壺だけに限られる。長頸壺は、やや太く比較的短い頸部に、外反し上下につまみ出して外周に面を取る口縁部が付く。体部は肩部があまり張らず丸味を持っている。

これらは、陶邑ＴＫ７型式や平城宮跡ＳＤ 650・長岡京跡ＳＤ51や陶邑編年のⅣ型式第３段階に類似した特徴を見い出せる。また灰釉陶器の長頸壺は、猿投古窯跡群鳴海32号窯式のものに類似している。したがって柏原第Ⅴ期は、９世紀の時代を与えることができる。

(f)　第 Ⅵ 期

〈須恵器〉　坏蓋は、天井部は更に偏平化し、ほとんど水平に近くなる。つまみは円筒状と化し、付け根のくびれはない。天井部と口縁部の境界の屈曲は緩くなり、口縁端部を丸く肥厚させるだけとなる。坏身は、僅かに内彎気味となる体部で、口縁端部は単に丸くおさめ、高台は非常に低く断面逆台形で体部直下に付く。須恵器類は、概して焼成や胎土・調整は悪く、色調や焼成が土師器に近いものが大半である。

〈土師器〉　甕は、口縁部が「く」字形に屈曲して開き、端部は僅かに肥厚する。体部は半球体で、器表は手づくねの痕を残す。器厚は薄く、粗雑な作りで、胎土は精良で雲母を多く含み、焼成が良好なのが特徴である。

〈黒色土器〉　椀のみに限られる。体部は内彎して開き、口縁端部は上方につまみ上げるものと、単に丸くおさめるものがある。高台は低く、断面逆三角形である。体部内面には、暗紋が密に入るものと、全くないものがある。

〈灰釉陶器〉　椀は、内彎して浅く開き、口縁端部は僅かに外反し丸くおさめる。体部と底部の境に、低く丸味を帯びた断面長方形の高台が付き、やや内彎気味にふんばる。皿は、内彎してやや深目であり、端部はやや外反し丸くおさめている。高台は、断面逆三角形乃至長方形で、僅かにふんばる。灰釉陶器の底部は、回転糸切りでヨコナデで消すものもある。

これらの内、須恵器は陶邑編年Ⅳ期第４段階のものに類似する。黒色土器は平安京跡内裏内郭廻廊跡出土のものに近似する。灰釉陶器は、特有の陰刻花鳥紋が見られず、その盛行期以降のものと思われ、本格的に湖北地方に流通し始めた時期の猿投古窯跡群黒笹14号窯式～折戸53号窯式のものであろう。したがって、柏原遺跡第Ⅵ期は10世紀代とすることが可能と思われる。

以上のように、柏原遺跡出土の土器は６世紀末～10世紀代のもので、それを大きく８期に区分することができた。

ハ．遺構の分布

前項で、遺物を第Ⅰａ期から第Ⅵ期の８期に区分し得た。そして、この区分は遺構の項でその時期を求めたものがいずれかに含まれるわけだが、ここで、各期の遺構をまとめ、その分布及び遺構の変遷を概観しておく。

第Ⅰａ期　　Ｐ106

第Ⅰｂ期　　Ｔ２下，Ｔ９，ＢＰ４，Ｐ51

第Ⅱａ期　　PN320 ，PN336

第Ⅱｂ期　　Ｔ５，Ｐ181

第Ⅲ期　　Ｔ１，Ｔ２上，Ｔ７，ＢＰ６，Ｐ117 ，Ｐ147 ，Ｐ351

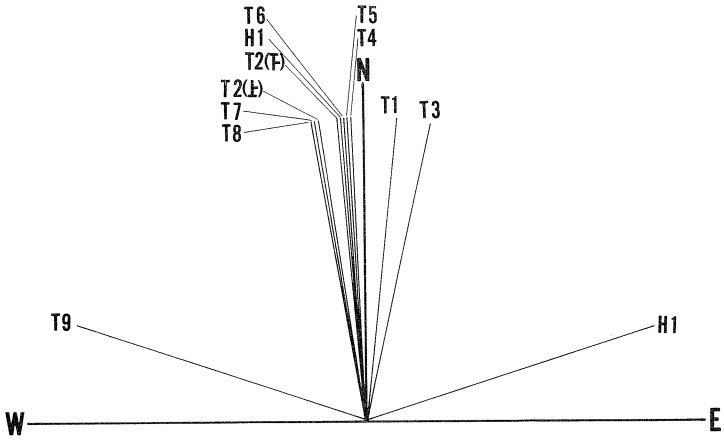
第Ⅳ期　　Ｔ３，Ｔ４，ＢＰ２，Ｐ107，Ｐ317，Ｐ350，Ｐ353

第Ⅴ期　　Ｔ６，Ｔ８，Ｍ２，Ｍ３，Ｐ53，Ｐ56，Ｐ131，Ｐ152，Ｐ156，Ｐ380

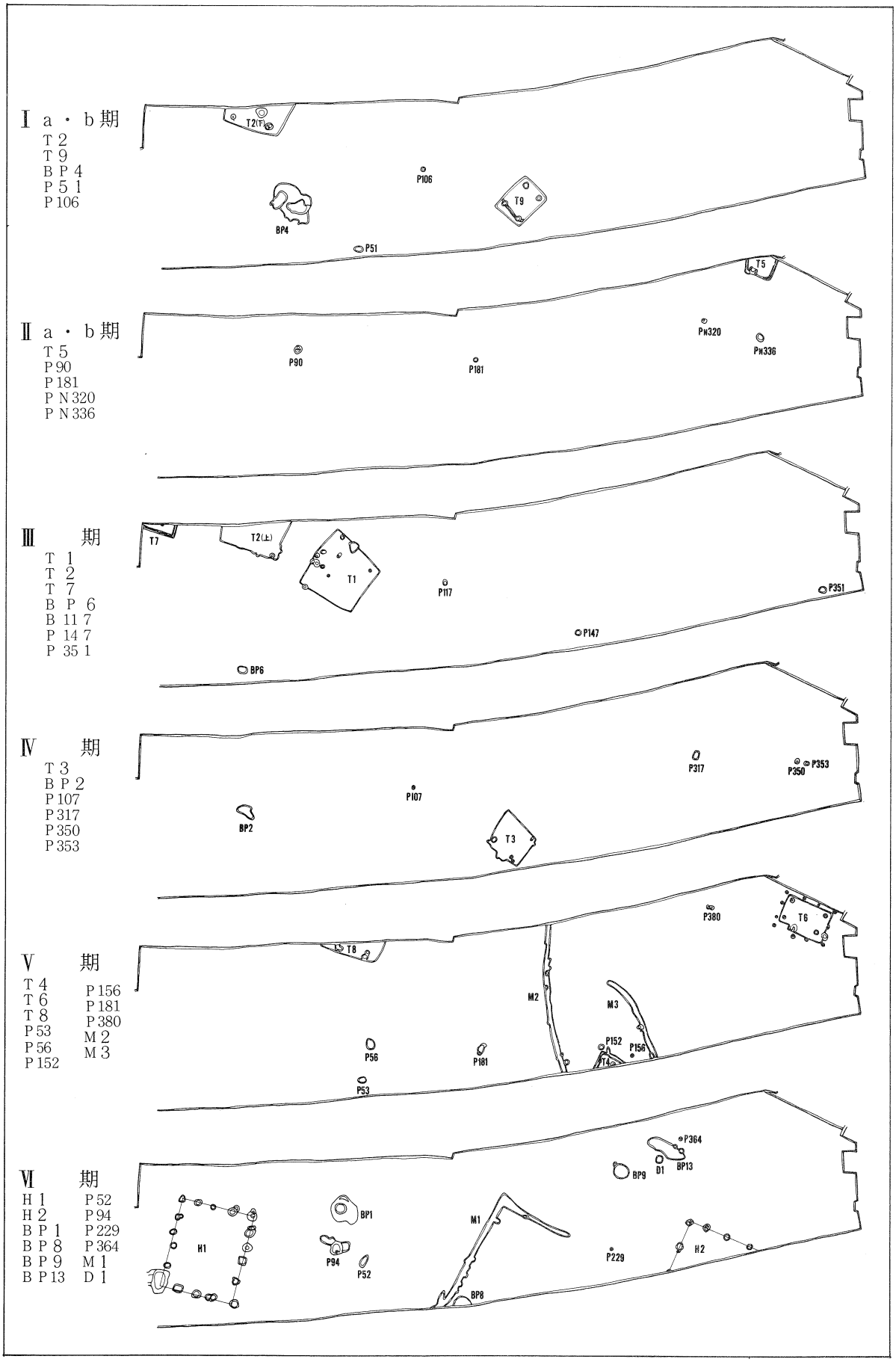
第Ⅵ期　　Ｈ，Ｈ２，ＢＰ１，ＢＰ９，Ｐ01，Ｐ57，Ｐ75，Ｐ94，Ｐ229，Ｐ305，Ｐ364

遺構は小ピットも含めて、各時期に分布するが、住居跡については、調査範囲内に限ってであるが，第Ⅰｂ期（７世紀前半）以降に出現する。そして竪穴式住居跡については、第Ⅴ期の９世紀まで残る。また、いずれもカマドが伴う。構造的には、主柱穴が第Ⅰｂ期の２基、第Ⅲ期の１基、第Ⅳ期の２基、第Ⅴ期の２基に見られ、第Ⅱｂ期の１基、第Ⅲ期の２基にはない。掘立柱建物跡については、明確に竪穴式住居跡に伴うものがなく、10世紀代の第Ⅵ期以降に出現している。

その他、第Ⅰｂ期、第Ⅲ期、第Ⅳ期に完形品あるいは人為的に破砕したような状況で土器類が出土した土坑があり、土坑墓あるいは祭祀関係のものかと考えられるものが見られる。また、第Ⅵ期には、井戸跡があり、第Ⅴ期以前に明確な井戸跡がなく、顕著な相違といえる。



PLAN4　竪穴住式居跡、掘立柱建物主軸方向図



PLAN5　柏原遺跡遺構変遷表

第4章　まとめ

以下に箇条書きしてまとめにかえたい。

○６世紀末から10世紀代にかけての集落跡である。

○竪穴式住居跡が９世紀まで残り、掘立柱建物への移行が畿内地方の集落跡に比べ遅い。

○竪穴式住居跡にはいずれも造り付けのカマドが付くとともに、柱穴や周溝を持たないものが多い。その反面、主柱穴４基の他に、住居跡の外周に12本の支柱を持つ特異な構造のものが１基であるのが見られる。

○土坑の中に、埋葬用あるいは祭祀用から考えられるものがあり、集落内での埋葬・祭祀の形態の一端が知れる。

○遺物の面では、長胴甕の存在とは逆に、瓶の存在しない点が注意される。

○Ⅵ期に特に汁器類について灰釉陶器が須恵器にとって替る傾向にある。

○２点ではあるが、鉄斧、鉄鎌が出土しており、住居形態の変化とは逆に、鉄製品の普及の早さがしのばれる。

おわりに

限定された範囲での調査ではあるが、竪穴式住居跡から掘立柱建物への移行、鉄製品の普及、瓶の出土しない点、灰釉陶器の普及等、生活様式の上で興味ある問題を持ち、住居跡についても、主柱穴の存在しないものが多く、また12本の支柱穴のある特異な住居跡が見られる等、構造的にも多くの問題を含む遺跡であり、この頃の集落跡の調査例の僅少な現状で、貴重な資料を提供してくれているものと考えている。

註

①『角川、日本地名大辞典25　滋賀県』（角川書店、昭和54年）

②『滋賀県遺跡目録』（滋賀県教育委員会、昭和40年）以下、特に参考文献を提示しない遺跡は、これによった。

③小江慶雄『琵琶湖水底の謎』（講談社現代新書 404、講談社、昭和50年）

④昭和54年に、圃場整備事業に関連して発掘調査が実施された。

⑤田中勝弘「湖北町大安寺遺跡」（『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ－Ⅱ』　滋賀県教育委員会、昭和51年）

⑥本報告と同じ国道 365 号線バイパスに関連して、現在発掘調査中の高月町井口遺跡から、竪穴住居跡や土壙に伴って若干出土している。

⑦北陸自動車道に関連して、昭和52年から発掘調査が続けられている。

⑧北陸自動車道に関連して、昭和51年に発掘調査が実施された。

⑨⑩北陸自動車道に関連して、昭和52～53年に発掘調査が実施された。

⑪田中勝弘「高月町保延寺大海道遺跡」（『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ－Ⅰ』 滋賀県教育委員会 昭和51年）

⑫田中勝弘「高月町円通寺遺跡」(『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ－Ⅱ』　滋賀県教育委員会　昭和51年)
⑬谷口義介、別所健二ほか「丁野遺跡」(『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 滋賀県教育委員会 昭和51年)
⑭昭和54年に圃場整備事業に関連して、発掘調査が実施され、方形周溝墓２基と集落跡の一端が明らかになった。
⑮昭和54年に、圃場整備事業に関連して発掘調査が実施された。
⑯田中勝弘「伊香郡高月町古保利古墳群調査報告」(『昭和48年度滋賀県文化財調査年報』　滋賀県教育委員会　昭和50年)
⑰昭和53年に発掘調査が実施され、後漢時代初期のものと見られる「唐草紋縁細線式獣帯鏡」１面をはじめ、鉄槍や土器が粘土槨から発見された。
⑱北陸自動車道に関連して、昭和53年に発掘調査が実施された。
⑲北陸自動車道に関連して、昭和52年に墳丘測量及び周濠推定部分の発掘を行った結果、従来、前方後円墳といわれていたが、円墳である可能性も出て来た。
⑳中谷雅治『滋賀県湖北町今西遺跡発掘調査報告書』(湖北町教育委員会、昭和49年)
㉑丸山竜平「高月町保延寺大海道遺跡調査報告」(『ほ場整備事業関係遺跡調査報告Ⅱ』　滋賀県教育委員会　昭和50年)
㉒圃場整備事業に関連して、昭和54年に発掘調査が実施され、供献土器を伴う多数の土壙墓を検出した。
㉓田中勝弘「びわ町難波遺跡」(『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ－Ⅱ』　滋賀県教育委員会　昭和51年)
㉔田中勝弘「上ノ山古墳群」(『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ』　滋賀県教育委員会　昭和51年)
㉕丸山竜平「高月町馬場末古墳群調査報告」(『ほ場整備事業関係遺跡調査報告Ⅱ』　滋賀県教育委員会、昭和50年)
㉖鬼柳彰「四郷崎古墳」(『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　滋賀県教育委員会　昭和51年)
㉗圃場整備事業に関連して、昭和53年に発掘調査が実施された。
㉘条里遺構の復元は、『角川、日本地名大辞典25　滋賀県』の「資料編、滋賀県条里遺構分布図」によった。
㉙竹内理三編『荘園分布図、上巻』(吉川弘文館、昭和50年)
㉚田辺昭三『陶邑古窯址群Ⅰ』(平安学園考古学クラブ　昭和41年)
㉛「平城京左京一条三坊の調査」(『平城宮発掘調査報告Ⅳ』　奈良国立文化財研究所　昭和49年)
㉜『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ』(奈良国立文化財研究所学報第27冊、奈良国立文化財研究所、昭和51年)
㉝中尾芳治「難波宮告営の遺跡の調査報告」(『難波宮址の研究』　研究予察報告第五第二部、難波宮址顕彰会、昭和49年)
㉞『藤原宮』(奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書第25冊、奈良県教育委員会、昭和44年)
㉟『平城宮発掘調査報告Ⅱ』(奈良国立文化財研究所学報第15冊、奈良国立文化財研究所、昭和37年)
㊱『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ』(奈良国立文化財研究所学報第31冊、奈良国立文化財研究所、昭和53年)
㊲田辺昭三ほか『湖西線関係遺跡発掘調査報告書』(滋賀県教育委員会、昭和48年)
㊳『平城宮発掘調査報告Ⅵ』(奈良国立文化財研究所　昭和46年)
㊴徳丸始郎ほか「長岡京跡左京三条二坊第２次発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』(京都府教育委員会、昭和51年)
㊵楢崎彰一『三彩・緑釉・灰釉』(陶磁大系５、平凡社、昭和48年)
㊶伊東照雄、甲元真之、金関恕ほか『秋根遺跡』(下関市教育委員会、昭和52年)
㊷土器が人為的に破砕され、さらに埋納されたという確証を得るのは困難である。しかし、接合復元の結果、一個体となり、他の遺物の混入がないことや、出土状況、さらに土壙の形状から推定した。
㊸中村浩ほか『陶邑Ⅰ』(大阪府文化財調査報告書第28輯、大阪文化財センター、昭和51年)
㊹田中勝弘「湖北地方の後期古墳の編年」(『近江地方史研究』第３号、昭和51年)

Tab. 4　柏原遺跡出土遺物観察表

第1住居跡（T1）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	4	1	◦天井部はやや高い。 ◦天井部から口縁部に緩やかに伸び、口縁端部は下方に短く突出し、断面三角形を呈す。	◦天井部はヘラ切り後にヨコナデ。 ◦口縁部・天井部内面はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	暗灰色		
			2	◦天井部は偏平で低い。 ◦天井部から口縁部に緩やかに伸び、口縁端部は下方に短く屈曲して突出し、断面三角形を呈す。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		器表に自然釉付着
	坏身	4	3	◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく、断面方形で、底部やや内側に垂直に付く。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		
灰釉陶器	段皿	4	4	◦体部中位の内側で段を有し、全体的に浅い。 ◦高台は小さく、断面逆台形を呈す。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り後にヨコナデ。	精良	やや悪く軟質	淡白灰色		埋土中より出土
	埦	4	5	◦高台は小さく、断面形は方形に近い丸味を持ったものである。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り後にヨコナデ。	精良	良く硬質	淡灰色		埋土中より出土
土師器	甕	4	6	◦口縁部は短く直立し、端部はやや外反する。 ◦体部は膨らみがない。 ◦全体的に薄手である。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部は調整が粗く、ヨコナデを施すものの不十分である。	砂粒・雲母を多く含む	悪く軟質	内面 黒漆色 外面 赤褐色		

第2住居跡（T2）上層

種類	器種	PLAN No.	土器No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	7	1	◦天井部は比較的偏平で、中央に偏平なつまみが付く。 ◦天井部と口縁部の境界は、やや屈曲して段をなす。 ◦口縁端部は外下方に短く屈曲し、断面三角形を呈して、外側が凹む。	◦天井部はヘラ切り後ヨコナデ。 ◦口縁部と天井部内面はヨコナデ調整。	砂粒を多く含む	良く硬質	灰色	器径 13.4 cm 器高 2.5 cm	
			2 〜 4	◦天井部は偏平で低く、中央に偏平なつまみが付く。 ◦天井部から口縁部に緩やかに伸び、口縁端部は下方に短く屈曲し、断面三角形を呈する。	◦天井部は全体にわたってヘラ削りを施すもの(3)もあるが、大半はヘラ切り後にヨコナデを施す。 ◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質 〜 良好で堅緻	淡灰色 〜 灰色	(3)は 器径 17.1 cm 器高 4.3 cm	
	坏身	7	5 〜 8	◦口縁部は、ただ単に丸くおさめるもの（5・8）や僅かに外反させるもの(6)、さらに尖り気味となるものも見られる。 ◦体部は直線的ないしやや外弯気味に開くが、全体的に浅い。 ◦底部と体部の境界は丸味をもち、底部はやや膨みを残している。	◦口縁部・体部内外面は共にヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデないし仕上げナデを施す。	小石・砂粒を多く含む 〜 砂粒を多く含む	良好で堅 〜 良く硬質	淡灰黄色 〜 暗灰色	(5)は 器径 12.2 cm 器高 3.5 cm (6)は 器径 13.3 cm 器高 4.1 cm	
			9	◦口縁部は単に丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開き、深い。 ◦底部と体部の境界は屈曲し稜をなす。 ◦小さい高台が付くものと思われる。	◦口縁部・体部内外面は共にヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色		
			10 ・ 11	◦口縁端部は単に丸くおさめ、体部は大きく開き、外弯気味のもの(10)と、内弯するもの(11)がある。全体的に浅い。 ◦底部と体部の境界は屈曲するものの稜は鈍い。	◦口縁部・体部内外面はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後、仕上げナデ調整。	小石・砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色 〜 淡灰色	(10)は 器径 16.6 cm 器高 3.7 cm (11)は 器径 18.0 cm	

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
				○高台はやや大きく、外方にふんばり、断面逆台形(10)と逆三角形(11)が見られる。					器高 4.1㎝	
	摺鉢	7	12	○口縁部は直線的に開き、端部は水平に面を取る。 ○器壁は厚手である。	○口縁部はヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む。	良好で堅緻	暗灰色		
	壷	7	13	○口縁部は比較的短く、外弯気味に開き、端部は水平に面を取っている。	○口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		
	甕	7	14	○直線的に大きく開き、口縁部でやや直立し、端部は肥厚し、内傾する面を作る。	○口縁部はヨコナデし、外面下部はカキ目を施す。	精良	良く硬質	暗灰色		
灰釉陶器	長頸壷	7	15	○口縁部は大きく外反して開き、端部は上下に肥厚し、外側に面を作る。 ○頸部はやや太く短い。 ○体部は丸味をもって肩部は張らない。 ○比較的大きな高台が付くものと思われる。	○口縁部、体部内面はヨコナデ。 ○体部外面はヘラ削り調整。	精良	良好で堅緻	白灰色		○灰釉陶器でも初期のものかと思われる。
土師器	坏	7	16・17	○１２～１３㎝の小型のものである。 ○体部は浅く、内弯して開き、端部で僅かに外反し、内側に稜線をとる。 ○底部と体部の境界は丸く屈曲しない。	○口縁部・体部はヨコナデ。 ○内面には暗紋が密に施され二段に施すもの(16)と一段のもの(17)がある。	精良	良く硬質	淡赤灰色		
			18	○体部はやや浅く、内弯して開く。 ○底部と体部の境界は丸味をもって屈曲せず、高台はやや大きく、断面長方形を呈し、外方にふんばる。	○口縁部、体部はヨコナデ。 ○暗紋は見られない。	精良	悪く軟質	赤褐色		
	甕		19	○小型の甕で、口縁部は非常に短く外反し、端部は水平に面を取る。 ○体部は、やや膨らみ球体に近い。	○口縁部はヨコナデ。 ○体部内外面は刷毛目調整し、頸部内側は指頭でおさえている。	砂粒を多く含む	良く硬質	淡褐灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
			20	◦大形の甕で、口縁部は「く」字形に屈曲し、中位で上方に内弯させ、受口状としたもので、端部は外方に僅かに肥厚している。 ◦体部は膨らみが見られる。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部は刷毛目調整。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		

第2住居跡（T2）下層

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	6	1	◦内面に大きなかえりを持つタイプのもので、天井部の中央部に乳頭状のつまみが付く。		小石・砂粒を多く含む	良く硬質	灰色		
			2・3	◦天井部はやや偏平で膨みがない。 ◦天井部と口縁部の境界は、やや屈曲し鈍い稜線を取るだけである。 ◦口縁部は外傾気味に立ち、端部は丸くおさめる。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質	灰色〜淡灰色		
	坏身	6	4〜6	◦たちあがりは非常に小さく内傾して、端部は尖り、受部より僅かに出る程度である。 ◦受部は外上方に伸び、受部上面にヘラによる1条の凹線を施すもの(5)も見うけられる。 ◦体部は内弯し、偏平で浅い。	◦口縁部・体部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質〜良好で堅緻	淡灰色		
			7・8	◦たちあがりは小さく内傾して、矮少化して全体的に偏平である。 ◦口縁端部はただ単に丸くおさめる。 ◦受部は外上方に伸び丸くおさめている。 ◦体部は内弯して浅い。	◦口縁部・体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後仕上げナデを施す。	砂粒を多く含む	良く硬質	灰色〜暗灰色	(8)は 口径 9.7 cm 器高 3.4 cm	

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
	瑤	6	9	◦口縁部と頸部の境界は屈曲して段をなし、外面に二条の凹線を巡す。 ◦口縁部は大きく開き、端部は丸くおさめ、さらに外面に一条の凹線を巡す。 ◦頸部はやや長く細く、体部は小さく球体に近いものであろう。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	淡灰色		口縁部内面に自然釉が付着している。
	壷	6	10	◦短かく、外弯気味に開いた口縁部で、端部は肥厚させ上方に短くつまみ上げる。	◦口縁部はヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色		
土師器	甕	6	11	◦小形の甕で、口縁部は単に「く」字形に短く開き、端部は丸くおさめる。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面は刷毛目調整し、内面はナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	暗黄褐色		
			12	◦口縁部は「く」字形に屈曲し、中位で上方に内弯する所謂「受口状」を呈するもので端部はやや外方に肥厚して突出し、上面は水平に面を取る。 ◦体部は、あまり膨らまない。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部は内外面共に刷毛目調整。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		
			13 ・ 14	◦口縁部は「く」字形に大きく外弯して開き端部を僅かに上方につまみ上げ、断面三角形にするもの(14)もある。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部は内外面共に刷毛目調整。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄褐色 〜 淡黄灰色		
	鍋		15	◦口縁部の形態は(14)に近い。 ◦体部は頸部から急にすぼまる。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		

第３住居跡（Ｔ３）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	8	1・2	◦天井部はやや偏平で低い。 ◦天井部と口縁部の境界は僅かに屈曲して段をなす。 ◦口縁端部は、下方に短く突出し、断面三角形を呈す。	◦天井部はヘラ削り。 ◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		
	坏身	8	3	◦大形の坏身で、口縁端部はやや尖り気味に外反する。 ◦体部は直線的に開き深い。 ◦体部と底部の境界は屈曲し、稜をなす。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		

第５住居跡（Ｔ５）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	10	1	◦天井部は偏平で低く、中央にやや高いつまみが付くであろう。 ◦天井部から口縁部に緩やかに伸び、口縁端部はただ単に丸くおさめる。 ◦口縁部の内面に、非常に小さい内面のかえりが見られ、断面形は逆三角形を呈している。	◦天井部全体は丁寧にヘラ削りが施こされている。 ◦口縁部、天井部内面はヨコナデ。	砂粒・小石を多く含む。	良好で堅緻	灰色		
土師器	坏	10	2	◦口縁端部は肥厚し、内方に折り屈げ上端は水平に面を取る。 ◦体部は直線的に開いて深く、底部と体部の境界は丸く稜線は取らない。 ◦底部は平らである。	◦口縁部、体部内面はヨコナデしその後に密に暗紋を施している。 ◦体部外面は、手づくねの後ヨコナデを加えているが不十分である。 ◦底部はヘラによって不定方向に削っている。	精良	良く硬質	淡赤褐色	口径１７.５㎝ 器高　６.１㎝	

第6住居跡（T6）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	12	1	◦口縁部は単に丸くおさめている。 ◦体部は直線的に大きく開き、浅い。 ◦底部と体部の境界は屈曲して稜線を見せる。 ◦底部はやや丸味を持っている。	◦口縁部・体部は内外面共にヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後に仕上げナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色	口径15.4㎝ 器高 3.3㎝	
	壺	12	2	◦高台は体部直下に付き、高台は細く弱弱しい感じをうけ、外方にややふんばる。	◦体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		
土師器	甕	12	3	◦小形の甕で、口縁部は「く」字形に開き、中位で内弯し所謂「受口状」に近い。 ◦口縁端部は内傾する面を持つ。 ◦球体に近い体部をもち、やや屈曲して底部に続く。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面は刷毛目調整し、内面はナデ。 ◦底部は内外面共に指頭によるおさえが残る。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色	口径12.6㎝ 器高11.6㎝	
			4	◦大形の甕で、口縁部は単に「く」字形に開くだけである。 ◦口縁端部は外側にやや面をなす。 ◦体部は膨らみが少ない。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面は刷毛目調整。	小石・砂粒・雲母を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		
	鍋	12	5	◦口縁部は大きく外反し、水平に近くなる。口縁端部は外側に面を持つ。 ◦体部はサラダボール状に丸味を持ってすぼまる。	◦口縁部は外面がヨコナデし内面は刷毛目調整を行う。 ◦体部は内外面共に刷毛目調整。	砂粒を多く含む	良く硬質	淡黄灰色		

第7住居跡（T7）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	13	1	◦口縁部は、僅かに肥厚し外反する。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	淡灰色	口径11.8㎝ 器高 3.5㎝	

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
				◦体部はやや内弯して開き浅い。 ◦体部と底部の境界はやや屈曲し稜をなす。 ◦底部は水平に近い。	◦底部はヘラ切り後に仕上げナデ。					
			2	◦口縁端部はやや尖り、体部は直線的に開く。	◦口縁部、体部内外面は共にヨコナデ。	砂粒を少し含む	悪く軟質	灰色		
土師器	皿	13	3	◦口縁端部内側に一条の凹線が巡る。 ◦体部は浅く、内弯気味に直立に近く立つ。 ◦体部と底部の境界は屈曲するものの稜はとらない。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		
	甕	13	4	◦小形の甕で、口縁部は直立した後大きく外反し、端部は丸くおさめる。 ◦体部は膨らみ、球体に近いものかと思われる。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部は内外面共に刷毛目調整。	砂粒を多く含む	良く硬質	外面は黒灰色		
			5	◦大形の甕である。 ◦口縁部は大きく外反し、端部は肥厚して下方に突出し外側に面を作る。 ◦体部は膨らみが少なく、長胴である。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部の外面は刷毛目調整。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		

第8住居跡（T8）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	14	1	◦天井部は非常に偏平で、膨らみがない。 ◦天井部と口縁部を分ける稜線は全く見られない。 ◦口縁部はやや内弯し、外下方に伸び、端部はやや尖る。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		古墳時代のもので、他の遺物と明らかに異り混入品と思われる。

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
	坏身	14	2	◦口縁部は内反し、直立気味に丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開き、深い。 ◦底部と体部の境界は丸味を帯び、稜は取らない。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ削りを施す。	細砂を多く含む	良好で堅緻	淡灰色		
			3	◦体部直下に高台が付き、高台は小さく断面方形で垂直に立つ。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		
土師器	坏	14	4	◦口縁部は丸くおさめ、端部内側に一条の凹線を巡す。 ◦体部は内弯して開くが、大きく開いて浅い。 ◦底部と体部の境界は丸味をもつ。	◦口縁部、体部内面はヨコナデで、暗紋は見られない。 ◦体部外面は手づくねの上からヨコナデを加えるが十分ではない。	精良	悪く軟質	淡黄褐色		

第9住居跡（T 9）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	8	1・2	◦たちあがりは非常に小さく、内傾し端部はやや尖り気味に終り、受部から僅かに出る程度のもの(2)も見られる。 ◦体部は非常に浅く偏平である。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後に仕上げナデ調整。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色	(2)は 器径 11.2 cm 器高 3.5 cm	
鉄製品	鉄鎌	8	3	◦刃部は内弯し、先端部は「くちばし」状に尖る。 ◦柄取付部は後尾を「U」字状におりまげ柄に取り付けるように作られている。					全長 12.5 cm 幅 2.2 cm 厚さ 0.6 cm	

BP2

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	18	1	◦天井部と口縁部の境界は、やや屈曲して稜をなす。 ◦口縁部は下方に僅かに突出し、断面三角形を呈する。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質	淡灰色		
	坏身	18	2	◦口縁部は単に丸くおさめ、体部は直線的に開く。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	小石・砂粒を少し含む	良好で堅緻	淡灰色		
土師器	甕	18	3	◦口縁部は「く」字形に屈曲し、中位で内弯気味に直立して「受口状」になる。 ◦口縁端部は内傾する面を取る。 ◦体部はやや膨む。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面は刷毛目調整し、内面はナデ調整。	小石・砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		

BP4

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	18	1	◦天井部は偏平で膨らみがない。 ◦天井部と口縁部の境界は、僅かに凹むだけである。 ◦口縁部は内弯して開き、端部は内側に面を取り尖る。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	淡灰色		
灰釉陶器	埦	18	2	◦口縁部は僅かに外反し、端部は単に丸くおさめる。 ◦体部は内弯し浅い。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質	淡白灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
土師器	土錘	18	3	◦円筒状で両端の細くなる形で、中央に小穴が穿たれる。		精良	良く硬質	淡黄褐色		土錘の出土量は多くない。

BP5

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	18	1	◦偏平な蓋で、天井部は非常に低い。 ◦天井部と口縁部の境界は単に段をなすだけである。 ◦口縁端部は単に丸くおさめるだけである。	◦天井部はヘラ切り後ヨコナデ。 ◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色		皿である可能性もある。
	坏身	18	2	◦たちあがりは小さく直立し、端部は尖る。 ◦受部は外上方に伸び丸くおさめる。 ◦体部は浅く偏平。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	細砂を多く含む	良く硬質	淡灰色		
			3	◦口縁部はやや尖り、体部は直線的に開き深い。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	小石・砂粒を少し含む	良好で堅緻	淡灰色		

BP6

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	18	1	◦口縁部はやや水平に面を取り、体部は内弯して開く。 ◦底部と体部の境界は屈曲するものの丸味を帯る。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色		

ＢＰ８

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	18	1	◦天井部は非常に偏平で低く、天井部と口縁部の境界は緩やかに段をなす。 ◦口縁端部は僅かに肥厚して下方に突出し、端部内面に凹帯が巡る。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色		
	短頸壺	18	2	◦口縁部は「く」字に屈曲し、直立に近く開き、端部は丸くおさめる。 ◦体部は丸味をもち、肩部は張らない。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色		

ＢＰ10

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	18	1	◦体部は直線的に開き、底部と体部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく断面方形でふんばりは少ない。 ◦高台はやや底部の内側に付く。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後に仕上げナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	淡灰色		
土師器	皿	18	2	◦口縁端部は肥厚してやや外反し、端部内面に１条の凹線が巡る。 ◦体部は短く、底部と体部の境界は丸味を帯る。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は仕上げナデ。	雲母を多く含む	良く硬質	淡赤褐色		

ＢＰ13

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	18	1	◦天井部から口縁部に緩やかに伸び、端部を下方に短く屈曲させる。 ◦口縁部外面は凹む。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色		
灰釉陶器	段皿	18	2	◦口縁端部はやや外反する。 ◦体部は内側で段をなす。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	精良	良好で堅	白灰色		

第２井戸跡（ＢＰ９）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	19	1	◦天井部は偏平で、天井部から口縁部に緩やかに伸びる。 ◦口縁端部は下方に短く屈曲して突出し、断面三角形を呈す。	◦天井部はヘラ切り後にヨコナデ。 ◦口縁部・天井部内面はヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む。	良く硬質	淡灰色		
	甕	19	2	◦口縁部は短いが、大きく外反し端部を上方につまみ上げ、断面三角形を呈している。 ◦口縁部には全く装飾性は見られない。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色		
灰釉陶器	皿	19	3	◦口縁部は僅かに肥厚して外反する。 ◦体部は内弯して開き、皿の割には深い。 ◦高台はやや高く、断面逆三角形を呈している。	◦口縁部、体部は内外面共にヨコナデ。	僅かに砂粒を含む	良好で堅緻	淡灰色	口径　8.6 ㎝ 器高　3.0 ㎝	
	椀	19	4	◦口縁部は僅かに外反する。 ◦体部は内弯して開き浅い。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	僅かに砂粒を含む	良好で堅緻	淡黄灰色		
土師器	皿	19	5	◦口縁部は丸くおさめ、体部は直線的に開き	◦口縁部、体部内外面は共に	精良	悪く軟質	淡黄灰色	(5)は	

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
			・ 6	浅く偏平な感じである。 ◦底部と体部の境界は明瞭でなく、底部から直接体部に続く。 ◦底部は弥生土器の平底に似て大きく体部に比べ不均等に大きく安定している。	ヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。				口径15.6㎝ 器高 4.5㎝	
鉄製品	釘	19	7	◦鉄棒を二つに折り曲げ、頭部をスプロール状に作り、先端を尖らせたものである。					全長約5.5㎝	

第1井戸跡（BP1）

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	18	1 〜 3	◦天井部はやや偏平で、天井部の中央に偏平なつまみが付く。 ◦天井部から口縁部に緩やかに伸び、口縁端部は下方に短く屈曲し、断面三角形を呈す。	◦天井部はヘラ切り後にヨコナデ。 ◦口縁部、天井部内面はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	灰色 〜 暗灰色		
	坏身	18	4	◦高台は小さく体部直下に垂直に取り付き、高台の断面は方形を呈す。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	暗灰色		
灰釉陶器	埦	18	5 ・ 6	◦口縁端部はやや肥厚し外反する。 ◦体部は内弯して開き、浅い。 ◦高台は小さくやや外方にふんばり、断面は丸味を帯びた方形である。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り後にヨコナデ。	砂粒を僅かに含む	良く硬質	淡灰色	(6)は 口径15.5㎝ 器高 4.9㎝	釉はほとんど見られない。
			7 〜 9	◦口縁部はやや肥厚して外反する。 ◦体部は内弯して開き、全体的に浅い。 ◦高台は比較的小さく、外方にふんばり断面形は丸味を帯びた長方形ないし逆三角形に近い。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り後にヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色	(8)は 口径16.0㎝ 器高 5.3㎝	

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
土師器	甕	18	10	◦口縁部は「く」字形に開き、端部は肥厚し上方につまみ上げる。 ◦体部はやや膨らむ。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部は内面がヨコナデし、外面は手づくねの後にヨコナデを加えるが十分ではない。	砂粒・雲母を多く含む	悪く軟質	黒灰色		
鉄製品	釘	18	11	◦残存部は釘の頭部で逆「L」形に折り曲げ、頭部を形ち作っている。						

P 51

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	20	1・2	◦たちあがりは内傾し、非常に低く、受部より僅かに出る程度である。 ◦受部は水平(1)ないし外上方(2)に伸びる。 ◦体部は浅く偏平で、底部が尖り気味のもの(1)と平らなもの(2)がある。	◦口縁部と体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にナデ調整。	小石・砂粒を多く含む	良く硬質〜悪く軟質	淡灰色〜暗灰色	(1)は 口径 9.0 cm 器径 3.2 cm (2)は 口径 8.8 cm 器径 3.1 cm	

P 53

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	20	1	◦口縁部は外弯して開き、端部は丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開き、やや浅い。 ◦底部と体部の境界は屈曲して稜をなし、高台は小さく断面逆台形で、底部のやや内側に付く。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後に仕上げナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	暗灰色	口径 12.1 cm 器高 3.7 cm	

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
	皿	20	2	◦口縁部は単に丸くおさめ、体部は短く大きく開き浅い。 ◦底部と体部の境界は屈曲して稜をなし、底部は平ら。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後に仕上げナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	灰色		

P O 1

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
灰釉陶器	皿	20	1	◦口縁部はやや肥厚して外反する。 ◦体部は内弯気味に大きく開く。 ◦高台は低く、丸味をもっている。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。	細砂を多く含む	良く硬質	淡暗灰色	口径 1 1.7 cm 器高 2.2 cm	灰釉は見られない。

P 75

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
灰釉陶器		23	1	◦体部は内弯気味に開く。 ◦高台は低く、丸味を帯びた長方形である。	◦体部はヨコナデ。	精良	良く硬質	淡灰黄色		

P 90

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	23	1	◦天井部は偏平で、天井部から口縁部に緩やかに伸びる。 ◦口縁部は僅かに下方に向き丸くおさめる。	◦天井部にはカキ目調整を施す。 ◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質	灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
				◦口縁内面には、断面三角形の小さなかえりが付く。						

P 106

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	23	1	◦天井部はやや丸味を持って高い。 ◦天井部と口縁部の境界の稜線は、単に凹むだけである。 ◦口縁部はやや開き気味に立ち、端部内側は凹ませて面を作る。	◦口縁部内外面はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質	淡灰色		

P 107

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	23	1	◦天井部は偏平で低く、天井部中央に筒状に近いつまみが付く。 ◦天井部と口縁部の境界は段をなして屈曲する。 ◦口縁端部は下方に短く屈曲する。	◦天井部はヘラ切り後にナデ ◦口縁部、天井部内面はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色	口径11.7㎝ 器高 2.1㎝	

P 117

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦口縁部は単に丸くおさめる。 ◦体部はやや外反気味に開き浅い。 ◦体部と底部の境界は丸味を帯びる。 ◦高台は低いが太く、外方にふんばり安定し、底部やや内側に付く。	◦口縁部、体部の内外面はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後仕上げナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色	口径15.1cm 器高 3.6cm	

P 131

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦体部は直線的に開き深い。 ◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく、やや外方にふんばる。	◦体部内外面はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		

P 94

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	21	1	◦体部直下に高台が付き、高台は非常に小さく、やや外方にふんばる。	◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	白灰色		
灰釉陶器	皿	21	2 〜 4	◦口縁部はやや外反気味に終る。 ◦体部は内弯して開くが浅い。 ◦高台は比較的小さく、断面長方形でやや外方にふんばる。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り後ヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色	(2)は 口径13.8cm 器高 2.8cm (3)は 口径13.2cm 器高 2.9cm	(3)の底部外面には、「今西」の墨書が見られる。

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
土師器	坏	21	5	◦口縁部は単に丸くおさめ、端部内面に一条の凹線を巡す。 ◦体部は直線的に開くが、浅い。 ◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦底部はやや膨らむ。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。 ◦底部はヨコナデ。	精良	良く硬質	淡赤褐色	口径19.9㎝ 器高 3.0㎝	
鉄製品	鉄釘	21	6・7	◦断面方形を呈す。						

P 38

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦口縁端部は単に丸くおさめ、体部は直線的に開く。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡白灰色		

P 56

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	皿	23	1	◦口縁部はやや肥厚し、内傾する面を作る。 ◦体部は外弯気味に大きく開き、浅い。 ◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦底部はやや不安定で膨む。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後仕上げナデ。	小石を含む	良好で堅緻	暗灰色	口径13.5㎝ 器高 2.4㎝	

P 57

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦体部は直線的に開き、体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく断面逆台形を呈し、底部と体部の境界近くに付く。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後仕上げナデ。	小石・砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰褐色		
	皿	23	2	◦口縁部は単に丸くおさめ、体部は直線的に開き、浅い。 ◦底部と体部の境界は屈曲して稜をなし、底部は平ら。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	細砂を多く含む	良好で堅緻	灰色	口径13.2㎝ 器高 1.4㎝	
土師器	甕	23	3	◦口縁部は「く」字形に開き、端部付近で屈曲して外反気味に伸び、端部外面は凹む。「受口状口縁」の一種である。 ◦体部は、あまり膨らまない。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部は内面がヘラ削りを施し、外面は刷毛目調整を施す。	砂粒・小石を多く含む	良く硬質	淡褐色		

P 140

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦口縁部は僅かに外反し、丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開き、浅い。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	淡灰色		

P 134

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	鉄釘	23	1	◦断面方形の棒状で、頭部はそのままである。					長さ10㎝	

P 142

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	壷	23	1	◦口縁部は大きく外反し、端部は外上方につまみ上げ、丸くおさめる。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色		

P 147

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦体部は直線的に開き、深い。 ◦体部と底部の境界は屈曲するものの丸味を持つ。 ◦高台は小さいが、外方にふんばる。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		

P 152

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく低い。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		

P 156

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦口縁端部はやや尖り、体部は直線的に開く。 ◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナ	砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
				◦高台は小さく断面方形である。	デ。					

P 181

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	23	1	◦体部と底部の境界は屈曲し稜をなす。 ◦高台は大きく外方にふんばり、断面長方形を呈し、底部内側に付く。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	細砂を多く含む	良く硬質	淡灰色		

P 210

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
土師器	甕	24	1	◦口縁部は「く」字形に開き、端部を上方につまみ上げ、断面三角形を呈す。 ◦体部は膨らみが少ない。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦頸部より下に数条の凹線が見られる。	小石・砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		

P 229

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
灰釉陶器	埦	24	1	◦口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。 ◦体部は内弯して開く。 ◦高台は低く、断面丸味を持つ方形である。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。	細砂を少し含む	良好で堅緻	白灰色	口径 11.3 cm 器高 3.6 cm	小型の埦である。

P 239

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	鉢	24	1	◦体部は大きく逆「ハ」字形に開き、端部は丸く大きく肥厚する。	◦口縁部はヨコナデ。	精良	悪く軟質	淡灰色		

P 266

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	24	1	◦口縁端部は丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開く。 ◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	細砂を多く含む	悪く軟質	淡灰色		

P 281

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
瓦	平瓦	24	1		◦平瓦の一端で、端縁部をヘラで調整している。 ◦外面は細い布目を残し、内面はナデ消している。	精良	悪く軟質	淡黄灰色		瓦の出土総量は極めて少ない。

P N 300

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
土製品	鞴の	24	1	◦筒状で、筒先には吹き出しが見られる。	◦全体は手づくねで、内面は	精良		外面は		混和材として胎土に

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
	羽口				高熱で焼けただれている。			灰赤色 内面は 赤褐色		モミガラが混入されている。

P305

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
灰釉陶器	皿	24	1	◦口縁部は外反して水平に近くなり、端部は丸くおさめる。 ◦体部は非常に浅く、内弯気味に開く。 ◦高台は小さく、断面逆五角形を呈す。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り後ヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	白灰色	口径12.4㎝ 器高 2.2㎝	

P317

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	24	1	◦天井部は低く偏平で、中央部に非常に偏平なつまみが付く。 ◦天井部から口縁部へ緩かに伸びる。	◦天井部はヘラ削りを全面に施す。 ◦口縁部、天井部内面はヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		

PN320

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	24	1	◦天井部は低いがやや丸味をもつ。	◦天井部はヘラ削りを施す。	砂粒を少	良好で堅	灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
				◦天井部中央に乳頭状のつまみが付くものと思われる。 ◦天井部から口縁部へゆるやかに伸び、端部は単に丸くおさめる。 ◦口縁部内面のかえりは、断面三角形を呈して大きく、口縁部よりも下方に出る。	◦口縁部、天井部内面はヨコナデ。	し含む	緻			

PN 336

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	24	1	◦口縁部はやや外反し、端部はやや尖る。 ◦体部は直線的に開き、体部と底部の境界は屈曲せず、丸味をもちやや凹む。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	灰色		

PN 348

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	長頸壺	24	1	◦頸部は細く、口縁部は外反して開き、端部は上下に肥厚して外側に面をなして中央は凹む。	◦口縁部はヨコナデ。	細砂を多く含む	良好で堅緻	灰色		

P 348

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
土師器	坏	24	1	◦口縁部はやや外反し端部は丸くおさめる。 ◦体部は大きく開いて浅い。 ◦体部と底部の境界は屈曲せず、丸味を帯びてやや凹む。 ◦底部はやや膨み不安定である。	◦口縁部、体部はヨコナデし凹凸が激しい。 ◦底部はヘラ切り後にヘラオサエ。	精良	良好で堅緻	淡黄褐色	口径 12.0 cm 器高 3.0 cm	

P 356

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	24	1	◦口縁端部は単に丸くおさめ、体部はやや外弯気味に開き、深く大きい。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		

P 364

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	24	1	◦天井部は非常に偏平で低い。 ◦天井部と口縁部の境界は屈曲して段をなす。 ◦口縁端部は外下方に短く屈曲し、丸くおさめる。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒・小石を多く含む	悪く軟質	暗灰色		

P 374

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
土師器	皿	24	1	◦口縁端部はやや外上方につまみ上げる。 ◦体部は非常に浅く短い。 ◦底部と体部の境界は屈曲し、底部は平ら。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。	小石・砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄白色	口径 12.2 cm 器高 2.2 cm	

P 380

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	短頸壺	24	1	◦肩部は張り、体部は浅く偏平な感じを受ける。 ◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなし、高台は非常に小さい。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色		器表に自然釉付着

P 381

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	24	1	◦口縁部は単に丸くおさめ、体部は大きく深い。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		

P 353

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	22	1	◦天井部は比較的平らで、その中央部にやや高いつまみが付く。	◦天井部はヘラ削り。 ◦天井部内面はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	灰色		一括資料として良好である。
	坏身	22	2	◦口縁端部は尖り気味に終る。 ◦体部は直線的に開き、体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦底部は平ら。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色	口径12.0cm 器高 3.5cm	
			3 〜 5	◦口縁端部は単に丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開き、体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は底部のやや内側に付き、小さくやや外方にふんばり、断面逆台形を呈す。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色 〜 灰色	(5)は 口径12.0cm 器高 3.9cm	
			6	◦口縁部は外反して伸び、端部は水平に近くなり尖る。 ◦体部は直線的に開き、体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく、断面逆台形を呈して外方にややふんばる。 ◦大型の坏である。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色	口径18.0cm 器高 5.3cm	

PD 5

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
鉄製品	鉄斧	24	1	◦台形状を呈し、その下辺を刃部としたもので小型である。横断面は長方形である。					刃部幅 4.3cm 全長 8.0cm	

P 351

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	22	1 〜 3	◦口縁端部は単に丸くおさめ、体部は直線的に開く。 ◦体部と底部の境界は屈曲するものの丸味を持つ。 ◦高台は、やや大きく外方にふんばる。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ナデ調整。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色 〜 淡灰色	(1)は 口径 14.3 cm 器高 4.3 cm (2)は 口径 14.8 cm 器高 4.0 cm	
	短頸壷	22	4	◦口縁部はやや開き気味に立ち、端部は丸くおさめる。 ◦体部は肩部は張らず、丸味を持つ。 ◦底部は丸味を持ち、不安定。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にナデ調整を施す。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	灰色	口径 8.7 cm 器高 8.3 cm	一括資料として良好なものである。
土師器	坏	22	5	◦口縁部は尖り気味となり、僅かに外反する。 ◦体部は直線的に開き、底部と体部の境界は屈曲するものの丸味をもつ。 ◦底部は平らで安定している。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。 ◦底部はヘラ削り。	精良で雲母を多く含む	悪く軟質	淡黄褐色	口径 13.9 cm 器高 3.2 cm	
	皿	22	6	◦口縁部はやや外反し、端部は上方につまみ上げ丸くおさめる。 ◦体部は内弯気味に開き、浅い。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦体部内外面にはやや粗く暗紋が施される。	精良	悪く軟質	淡褐赤色		

P 350

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	22	1	◦天井部は低く偏平で、天井部から口縁部へ緩かに伸びる。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
	坏身	22	2	◦口縁部は単に丸くおさめ、体部は直線的に開いて深い。 ◦底部と体部の境界は屈曲し稜をなす。 ◦高台は非常に小さく、やや外方にふんばる。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	砂粒を多く含む	良く硬質	灰色	口径 11.6 cm 器高 4.5 cm	

M 1

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	25	1 〜 4	◦口縁端部は単に丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開き、体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく、断面方形ないし逆台形を呈する。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む	良く硬質 〜 悪く軟質	淡灰色 〜 灰色		
灰釉陶器	皿	25	5	◦口縁端部は丸くおさめ、体部は内弯して浅い。 ◦高台はやや高く、断面長方形で丸味を持つ。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。	精良	良好で堅緻	白灰色		
	埦	25	6 ・ 7	◦口縁端部は僅かに肥厚し外反する。 ◦体部は内弯気味に開いて浅い。 ◦高台はやや高く断面長方形を呈す。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	白灰色 〜 淡灰色		
白磁	埦	25	8	◦口縁端部は外側に肥厚し、所謂「玉縁状」となっている。 ◦体部は直線的に開く。	◦口縁部、体部上半はヨコナデ。 ◦体部外面下半はヘラ削り。	精良	良好で堅緻	胎土は白灰色 釉は乳白色		
土師器	灯明皿	25	9	◦口縁部は単に丸くおさめ、体部はやや凹み浅い。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部、底部は手づくね。	精良	悪く軟質	淡赤褐色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
	甕	25	10	◦口縁部は「く」字形に開き、端部はやや外反する。 ◦体部は球体に近い。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部は手づくねの上からヨコナデを施すが、十分ではない。	精良で雲母を多く含む	良く硬質	淡褐色		

包含層

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	28	1 〜 3	◦天井部は丸味を持ち、中央に乳頭状のつまみが付く。 ◦天井部から口縁部に緩やかに伸び、端部は単に丸くおさめる。 ◦口縁端部近くの内面にかえりが付くが、かえりは口縁端部よりも下方に突出している。	◦天井部はヘラ削りを施す。 ◦口縁部、天井部内面はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻 〜 良く硬質	淡灰色 〜 暗灰色		
			4 5 ・ 6	◦口縁部の形態は1〜3と同じであるが、天井部は高い。 ◦天井部は比較的に偏平で、比較的偏平なつまみが付く。 ◦天井部から口縁部へ緩やかに伸び、端部は僅かに下方に折り曲げる。 ◦口縁端部近くの内面に小さなかえりが付く。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦天井部はヘラ削りを施す。 ◦口縁部、天井部内面はヨコナデ。	細砂を多く含む 砂粒を少し含む	悪く軟質 良く硬質	白灰色 淡灰色		
			7 〜 9	◦天井部は低く偏平。 ◦天井部から口縁部に緩やかに伸び、口縁端部は下方に短く屈曲し、断面三角形を呈す。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色 〜 灰色		
			10	◦天井部はやや高く、中央部に偏平なつまみ	◦天井部はヘラ削りを施すも	砂粒を少	良好で堅	淡灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
			～13	が付く。 ◦天井部と口縁部の境界はやや屈曲して段をなす。 ◦口縁端部は下方に短く屈曲し、断面三角形を呈す。	の(13)も見られるが、大半はヘラ切り後にヨコナデを施す。 ◦口縁部、天井部内面はヨコナデ。	し含む ～ 砂粒を多く含む	緻	～ 暗灰色		
			14 ～ 17	◦天井部は偏平で、中央部に円筒状のつまみが付く。 ◦天井部と口縁部の境界は屈曲して段をなす。 ◦口縁端部は外下方に短く屈曲する。	◦天井部、口縁部内外面はヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む	良好で堅緻 ～ 良く硬質	淡灰色 ～ 灰色		
			18 ～ 20	◦天井部は非常に偏平である。 ◦天井部と口縁部の境界の屈曲は緩やかになる。 ◦口縁端部は丸味を持ち、ただ単に肥厚するだけのもの(19)も見られる。	◦天井部、口縁部内外面はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻 ～ 悪く軟質	灰色 ～ 暗灰色		
			21	◦天井部は非常に偏平。 ◦天井部と口縁部の境界は見られない。 ◦口縁端部は、僅かに外下方に突出させるだけである。	◦天井部、口縁部内外面はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	灰色		量は少なく特殊な蓋かもしれない。
	坏身	28	22	◦口縁端部はやや尖る。 ◦体部は内弯気味に開き、底部と体部の境界は緩やかに屈曲し、鈍い稜をもつ。 ◦底部はやや膨らむ。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色	口径12.8㎝ 器高 3.3㎝	全体的にやや偏平。
			23	◦体部は外弯して開き、底部と体部の境界は屈曲して鈍い稜をもつ。 ◦底部は平らである。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色		
			24 ～	◦口縁部は単に丸くおさめる。 ◦体部は直線的ないしやや外弯気味に伸びる。	◦口縁部、体部内外面はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	淡灰色 ～		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
			30	◦底部と体部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく、断面方形ないし逆台形を呈して底部のやや内側に付く。	◦底部はヘラ切り後にヨコナデ。	〜 砂粒を多く含む	〜 良く硬質	暗灰色		
			31	◦体部と底部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦高台は小さく外方にふんばって、底部のやや内側に付く。	◦体部内外面はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色		
	坏蓋	28	32	◦天井部は高く膨らむ。 ◦天井部と口縁部の境界の稜線は鈍く、やや外方に突出する。 ◦口縁部は直立し、端部はただ単に丸くおさめる。	◦天井部は全面にわたりヘラ削りを施す。 ◦天井部内面と口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		器表に白緑色の自然釉が付着する。
			33 ・ 34	◦天井部はやや偏平で膨らみは少ない。 ◦天井部と口縁部の境界は、ただ単に凹線が走るのみである。 ◦口縁部は内弯し、端部は単に丸くおさめる。	◦天井部の$\frac{1}{2}$はヘラ削りを施す。 ◦天井部内面、口縁部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質	淡灰色		
	坏身	28	35	◦たちあがりは低く大きく内傾し、矮少化して全体的に偏平である。 ◦口縁端部はやや尖る。 ◦受部は外上方に伸び、受部上面にヘラによる1条の凹線を施し、体部は内弯して偏平である。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	暗灰色		坏蓋(32)に対応するものと思われる。
			36 ・ 37	◦たちあがりは非常に小さく内傾し、受部よりほとんど出ないもの(37)もある。 ◦口縁部は丸くおさめ、受部は外上方に伸びる。 ◦体部は内弯し、非常に偏平である。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	小石・砂粒を多く含む	良く硬質	暗灰色		坏蓋（33、34）に対応するものと思われる。

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
	蓋	29	38	◦天井部は高く、膨らみをもつ。 ◦天井部と口縁部の境界は「く」字形に大きく屈曲し、口縁部は内弯して開く。 ◦口縁端部は単に丸くおさめる。	◦天井部、口縁部内外面はヨコナデ。	非常に精良	良好で堅緻	暗灰色		小片であるため、器形は明確でないが、全体的に精緻な感じを受け、他の須恵器と趣を異にする。
			39	◦口縁部は天井部から下方に直角に折れ、稜を取る。 ◦天井部中央にはつまみが付く。 ◦口縁端部は内方にやや肥厚し面を取る。	◦天井部、口縁部内外面はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		短頸壷の蓋であろう。
	短頸壷	29	40 ・ 41	◦口縁部は短く直立し、端部は尖る。 ◦肩部は張って、体部は直線的に開く。 ◦高台は小さく、底部と体部の境界付くに付く。	◦口縁部、体部はヨコナデ。 ◦底部はヘラ切り後ヨコナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	灰色		
	壷	29	42	◦頸部は細く肩部は丸味を持って角張らず、体部は長胴である。	◦体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	灰色		所謂「小型瓶」と呼ばれるものか。
	瓶	29	43 ・ 44	◦（43）は、段を有して2段に大きく外反する口縁部である。 ◦（44）は、偏球体に近い小さい体部で、体部に粘土塊で円筒状の注口が付けられている。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部はヨコナデし、注口は手づくね。	精良	良好で堅緻	灰色		
	摺鉢	29	45	◦直線的に開いた口縁部で、端部はやや肥厚して水平に面を取る。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色		
	壷	29	46 〜 48	◦（46）は、直線的に開いた口縁部で端部は水平に面を取り、内側にやや突出する。 ◦（47）は、大きく外弯して開き、端部を上方につまみ上げ、断面三形にしたもの。 ◦（48）は大きく直線的に開き、口縁部中位	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻 〜 良く硬質	淡灰色 〜 暗灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
				と端部外面に断面三角形の凸帯を巡す。						
	平瓶	29	49	○口縁部は直線的に開き、端部外面に断面三角形の凸帯が付く。	○口縁部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良好で堅緻	灰色		量は少ない。
	長頸壷	29	50 〜 52	○体部は丸味をもつ。 ○高台は小さく、大きくふんばり内側にやや突出する。	○体部はヨコナデ。 ○底部はヘラ切り後ヨコナデ。	砂粒を多く含む	良好で堅緻 〜 良く硬質	淡灰色 〜 暗灰色		
	甕	29	53	○甕も見られるが、細片が多く全容を知ることはできなかった。	○体部外面は平行叩き目を残す。 ○体部内面は同心円紋叩き目を密に施し、部分的にナデで消す。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	白灰色		
灰釉陶器	皿	29	54 〜 59	○口縁端部は僅かに肥厚し、外弯する。 ○体部は非常に浅く、内弯気味に開く。 ○高台は小さく、断面方形のものや、台形を呈するものもあり、ややふんばる。	○口縁部、体部内外面はヨコナデ。 ○底部は回転糸切り後にヨコナデ。	精良 〜 僅かに砂粒を含む	良好で堅緻	白灰色	(56)は 口径12.4㎝ 器高 3.0㎝ (57)は 口径12.3㎝ 器高 2.3㎝ 全体的に口径11.5〜13㎝ 器高2.2㎝〜3.2㎝である。	全体的に非常に規格性が見られる。
	段皿	29	60	○体部は中位で段を有し、大きく浅く開く。 ○高台は小さく、断面逆三角形を呈す。	○体部はヨコナデ。 ○底部は回転糸切り後にヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色		
		29 ・	61 〜	○口縁部は僅かに外反し、端部はやや肥厚する。	○口縁部、体部内外面は共にヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色		

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
		30	64	◦体部は内弯して開き、深い。 ◦高台はやや高く、断面長方形で外方に大きくふんばる。	◦底部は回転糸切り後にヨコナデ。	細砂を多く含む				
		30	65 〜 69	◦口縁部や体部の形態は（61〜64）と同じである。 ◦高台は低く、断面形は逆三角形に近い方形を呈すものが多い。	◦口縁部・体部内外面は共にヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り後にヨコナデ。	精良 〜 細砂を多く含む	良好で堅緻	白灰色		
山茶埦	埦	30	70	◦口縁部は僅かに外弯し、端部は丸くおさめる。 ◦体部は内弯して開き、やや浅い。 ◦高台はやや高く、断面長方形で外方に大きくふんばる。	◦口縁部、体部内外面は共にヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	淡灰色	口径 1 5.7 cm 器高 4.8 cm	全体的に作りは粗雑。
土師器	埦	30	71	◦口縁部は外反し端部は丸くおさめる。 ◦体部は内弯して開き、底部と体部の境界は屈曲して稜をなす。 ◦底部は平らである。	◦口縁部、体部内外面は共にヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。	細砂を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色	口径 1 1.0 cm 器高 4.5 cm	
			72	◦口縁部は外反し、端部は丸くおさめる。 ◦体部は内弯して開き、底部と体部の境界は丸味をもつ。 ◦高台は逆台形で小さく垂直に付く。	◦口縁部、体部内外面は共にヨコナデ。	精良	悪く軟質	淡黄灰色		
	高坏	30	73	◦坏部と脚部は欠落していたため全容は明らかでない。 ◦筒部は短かく、6面に面取りを施している。	◦筒部はヘラで面取りを行う。	細砂を少し含む	良く硬質	淡黄褐色		
	皿	30	74	◦口縁部はやや外反し、端部内面に浅い凹線が巡る。 ◦体部は直線的に開き浅い。 ◦体部と底部の境界は屈曲して陵をなし、底	◦口縁部、体部内外面は共にヨコナデ。 ◦底部は手づくね。	細砂を少し含む	良く硬質	淡黄褐色		

種類	器種	PLAN No.	土器No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
				部は平ら。						
	甕	30	75	◦口縁部は「く」字に短く屈曲し、端部は上方に僅かにつまみ上げ、丸くおさめる。	◦口縁部は手づくね。	細砂・雲母を多く含む	良く硬質	黒漆色		
			76	◦口縁部は僅かに「受口状」になり、端部は内傾して面をとる。 ◦体部は、ほとんど膨らまない。	◦口縁部はヨコナデ。 ◦体部外面は刷毛目調整し、内面はナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡黄灰色		
黒色土器	椀	30	77・78	◦口縁端部内面に、1条の凹線が巡る。 ◦体部は内弯して開き、深い。 ◦高台はやや高く、断面方形で外方にふんばる。	◦体部内外面と底部内面に、密に暗紋を施す。	砂粒・雲母を多く含む	良く硬質	体部と底部内面は黒漆色 底部は淡褐灰色		
			79	◦口縁端部はただ単に丸くおさめる。 ◦体部は内弯して開き、やや浅い。 ◦高台は非常に小さく、断面は逆三角形を呈す。	◦口縁部と体部内面、底部内面に密に暗紋を施す。 ◦体部外面は手づくね。	砂粒・雲母を多く含む	良く硬質	体部と底部内面は黒漆色 体部外面底部は淡褐灰色	口径16.0㎝ 器高 5.0㎝	
			80	◦口縁部はやや外反し、端部は僅かに上方につまみ上げ、内側に一条の浅い凹線を巡す。 ◦体部は内弯して開き、やや浅い。 ◦高台はやや高く、断面逆三角形を呈し、ややふんばる。	◦口縁部、体部は共にヨコナデ。	砂粒・雲母を多く含む	悪く軟質	体部と底部内面は黒漆色 底部は褐灰色		
石器	剥片	30	81	◦三角形に近い形を呈し、数ケ所に打痕が見られる。				暗黒灰色を呈している。		石質については明瞭にはいえないがサヌカイトに近いものと思われる。

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
鉄製品	釘	30	82	◦断面長方形の釘で、頭部は逆「L」形につくり出し、先端部は尖らせている。					全長 9.9㎝を測る。	
石製品	砥石	30	83	◦棒状で上端、下端を欠いているが、7面に砥面を持っている。						石質は砂岩と思われる。

第1トレンチ

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	32	1	◦口縁端部はやや肥厚し、やや下方に向う。 ◦口縁内面に、断面三角形を呈する小さなかえりが見られる。	◦口縁部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質	淡灰色		
	坏身	32	2	◦体部と底部の境界は屈曲し、高台は体部直下に付いて、小さく断面逆台形を呈する。	◦体部はヨコナデ。	砂粒を多く含む	悪く軟質	淡灰色		
山茶埦	埦	32	3	◦高台は非常に退化し、僅かに底部から突出する程度である。	◦底部は回転糸切り。	砂粒を多く含む	良好で堅緻	白灰色		

第2トレンチ

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
灰釉陶器	埦	32	1	◦口縁端部は外方に肥厚し、断面三角形に突出する。 ◦体部は内弯して開く。	◦口縁端部はヘラで整形している。 ◦口縁部、体部はヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色		器形は特異で、壷の可能性もある。

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
		32	2	◦体部は内弯して開き浅い。 ◦高台は小さくやや内弯気味に立つ。	◦体部はヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色		

第3トレンチ

種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏蓋	32	1・2	◦天井部は非常に偏平で低く、中央部は筒状の偏平なつまみが付く。 ◦天井部と口縁部の境界は緩かに屈曲して段をなし、口縁端部は下方に短く突出する。	◦天井部はヘラ切り後ヨコナデ。 ◦口縁部はヨコナデ。	精良	良く硬質	白灰色		
	坏身	32	3	◦口縁部はやや外反し、端部は丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開く。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	砂粒を少し含む	良く硬質	淡灰色		
灰釉陶器	椀	32	4・6	◦口縁部はやや外反し、端部は肥厚する。 ◦体部は直線的に開き、深い。 ◦高台は非常に低く、丸味を持つ。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色		
	皿	32	5	◦体部は内弯し、浅く開く。 ◦高台は非常に小さく、断面逆三角形を呈し底部とは凹ませただけである。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部は削り出している。	精良	良好で堅緻	白灰色		

第５トレンチ

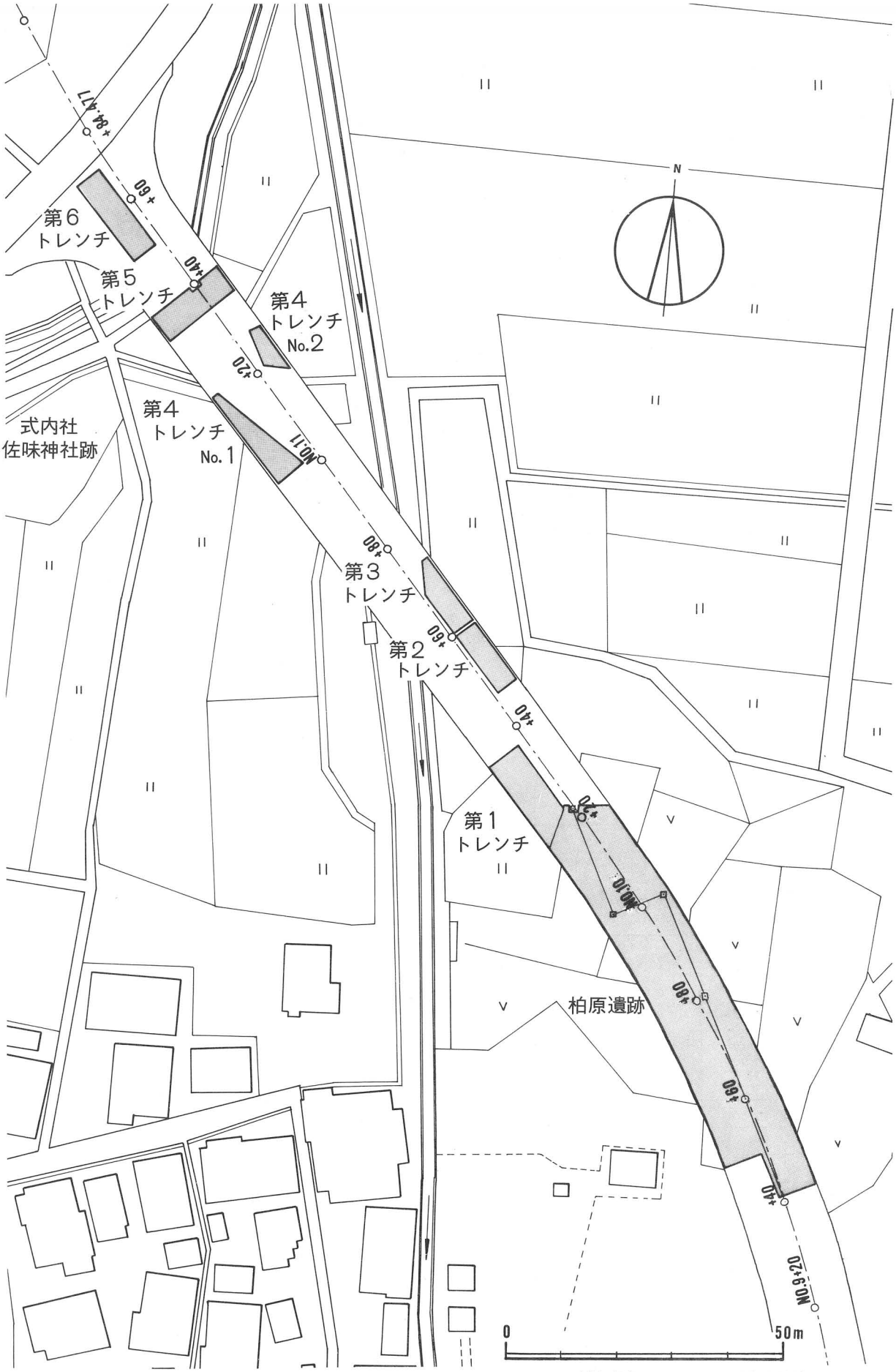
種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	坏身	32	1	◦口縁部は丸くおさめ、体部は外反気味に開く。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	精良	良好で堅緻	暗灰色		
灰釉陶器	椀	32	2	◦口縁端部は肥厚し丸くおさめる。 ◦体部は直線的に開く。	◦口縁部、体部はヨコナデ。	細砂を多く含む	良好で堅緻	白灰色		
			4・6～8	◦体部は内弯して開く。 ◦高台はやや高く、断面逆台形ないし内弯形で、やや外方にふんばる。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り後にヨコナデ。	精良	良好で堅緻	白灰色		
山茶椀	椀	32	3・5・10	◦体部は内弯して開く。 ◦高台は非常に小さく、断面逆三角形に近い。	◦体部はヨコナデ。 ◦底部は回転糸切り。	小石・砂粒を少し含む	良好で堅緻	白灰色		⑽は重ね焼き痕を残す。
須恵器	壷	32	9	◦体部は膨む。	◦体部は叩き目をナデ消す。	砂粒を少し含む。	悪く軟質	淡灰色		
天目茶椀	椀	32	11	◦体部は内弯気味で深い。 ◦高台は小さく、断面長方形を呈す。	◦体部はヨコナデ。 ◦高台は削り出し。	細砂質	良好で堅緻	胎土は白灰色 釉は暗赤黒褐色		

第６トレンチ

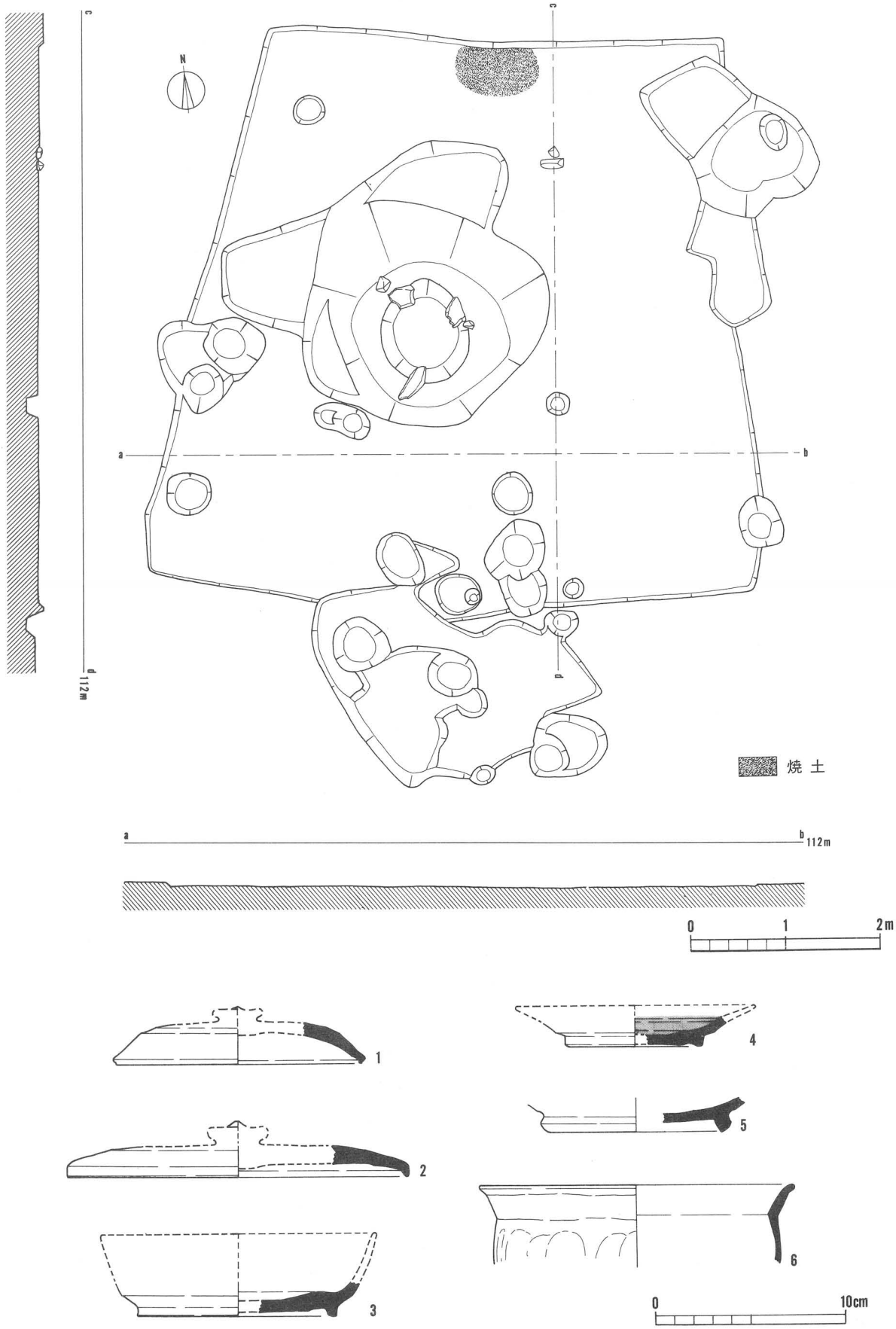
種類	器種	PLAN No.	土器 No.	形態の特徴	手法の特徴	胎土	焼成	色調	法量	備考
須恵器	壷	32	1	◦体部は直線的に開く。 ◦高台は非常に小さく、体部直下に付き外方にふんばる。		小石・砂粒を多く含む	悪く軟質	灰色		

PLAN 6

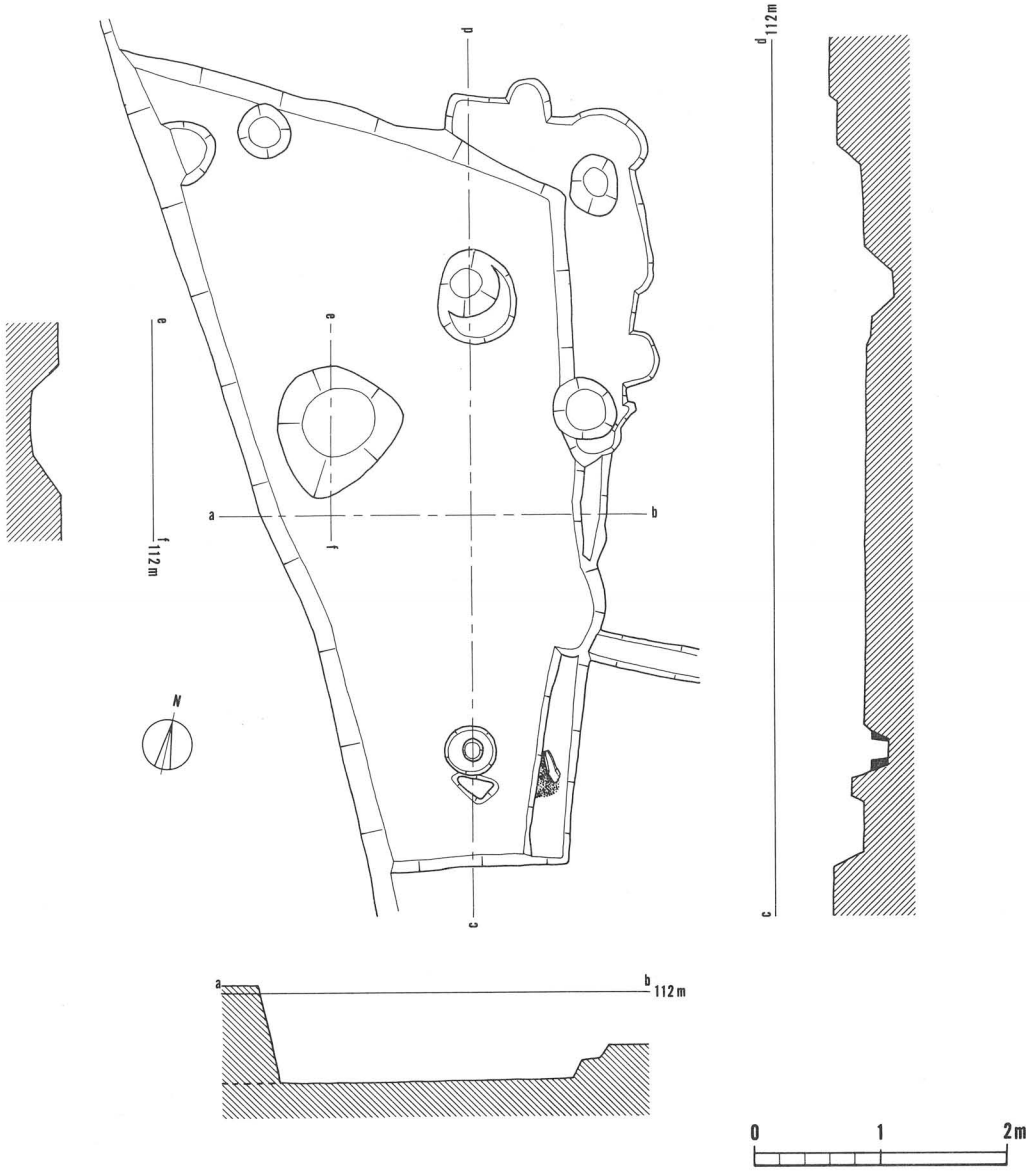
柏原遺跡周辺地形図



柏原遺跡トレンチ配置図

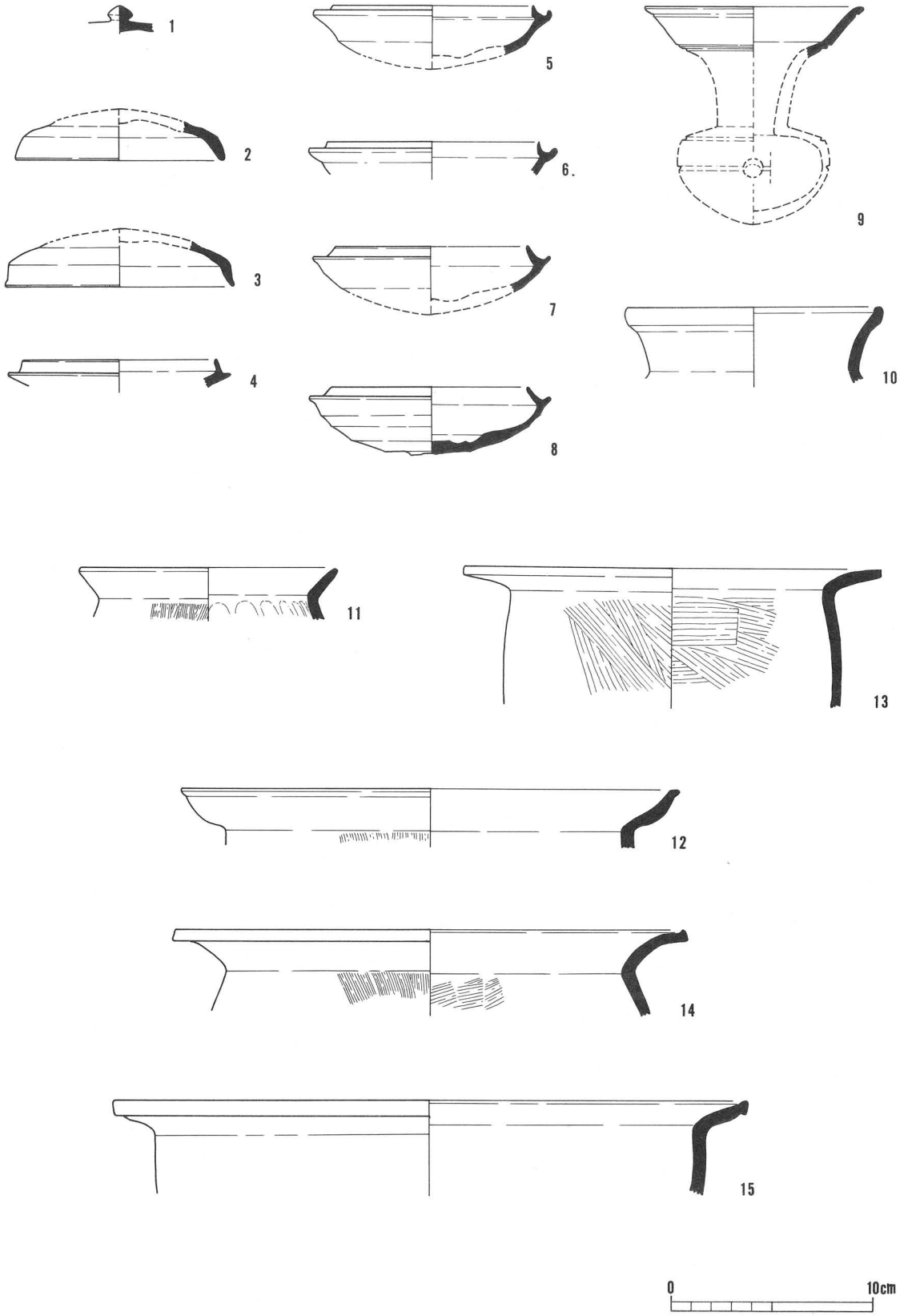


第１住居跡（Ｔ１）実測図、出土遺物実測図

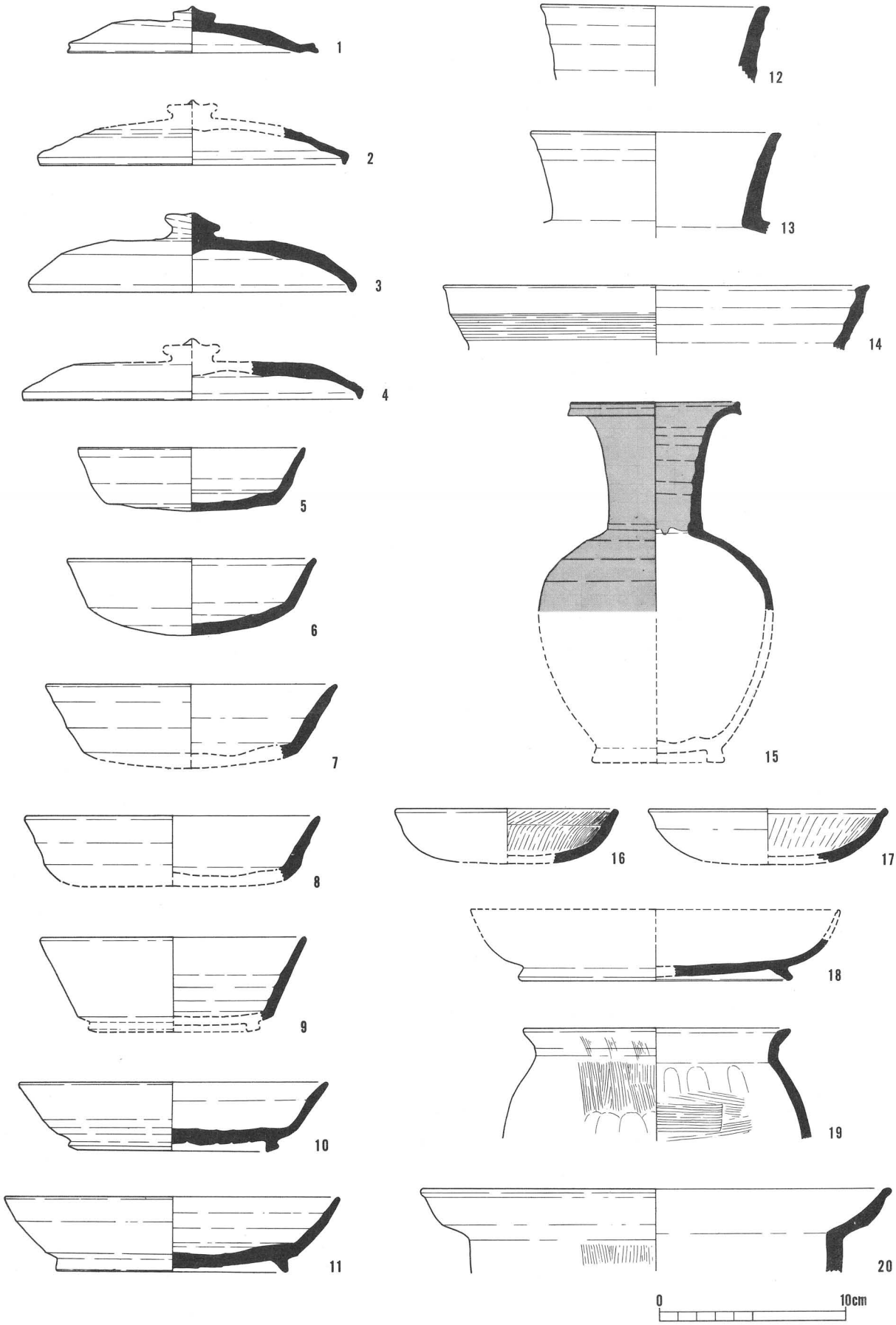


焼土

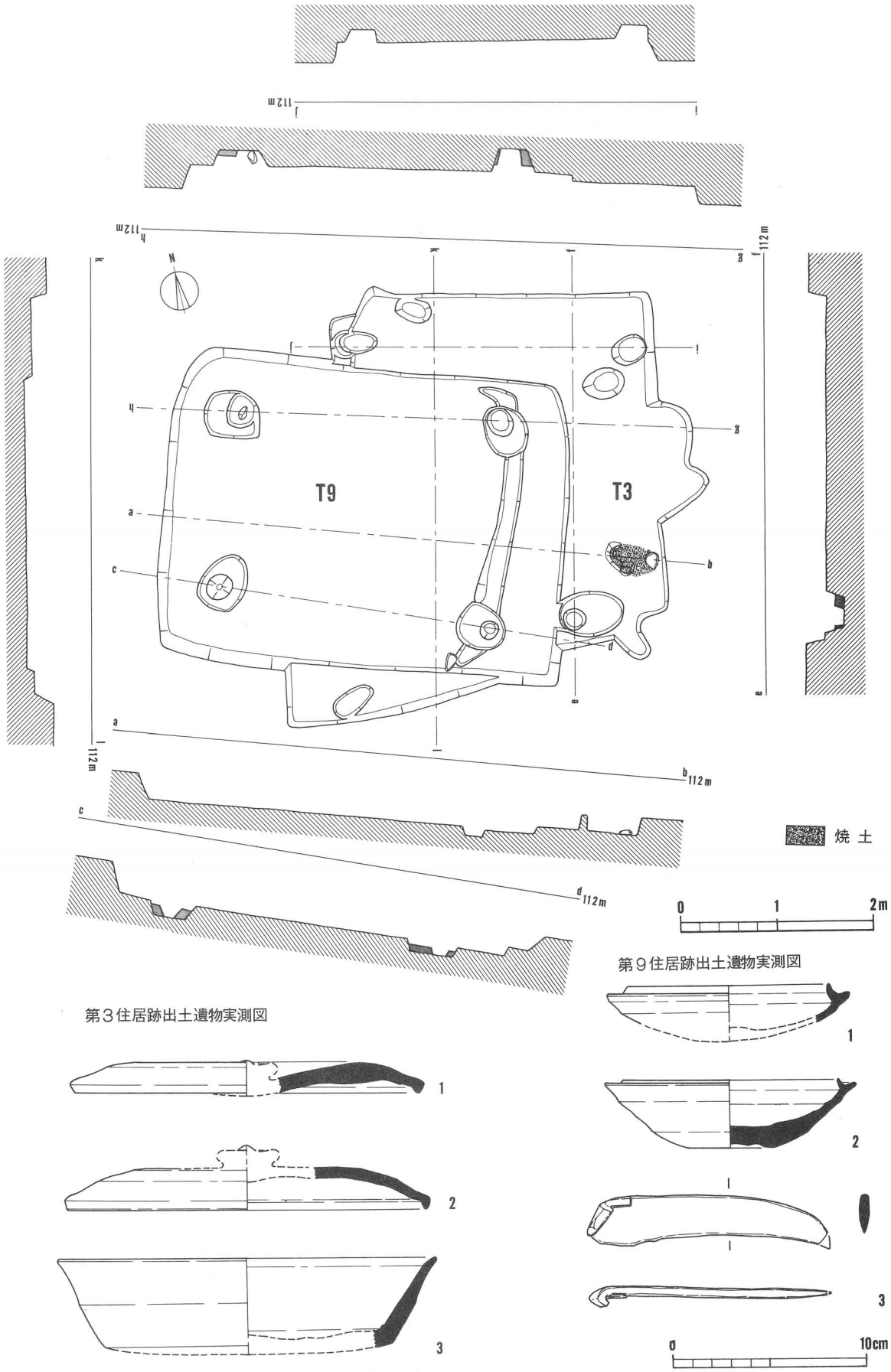
第２住居跡上層・下層（Ｔ２上・下）実測図



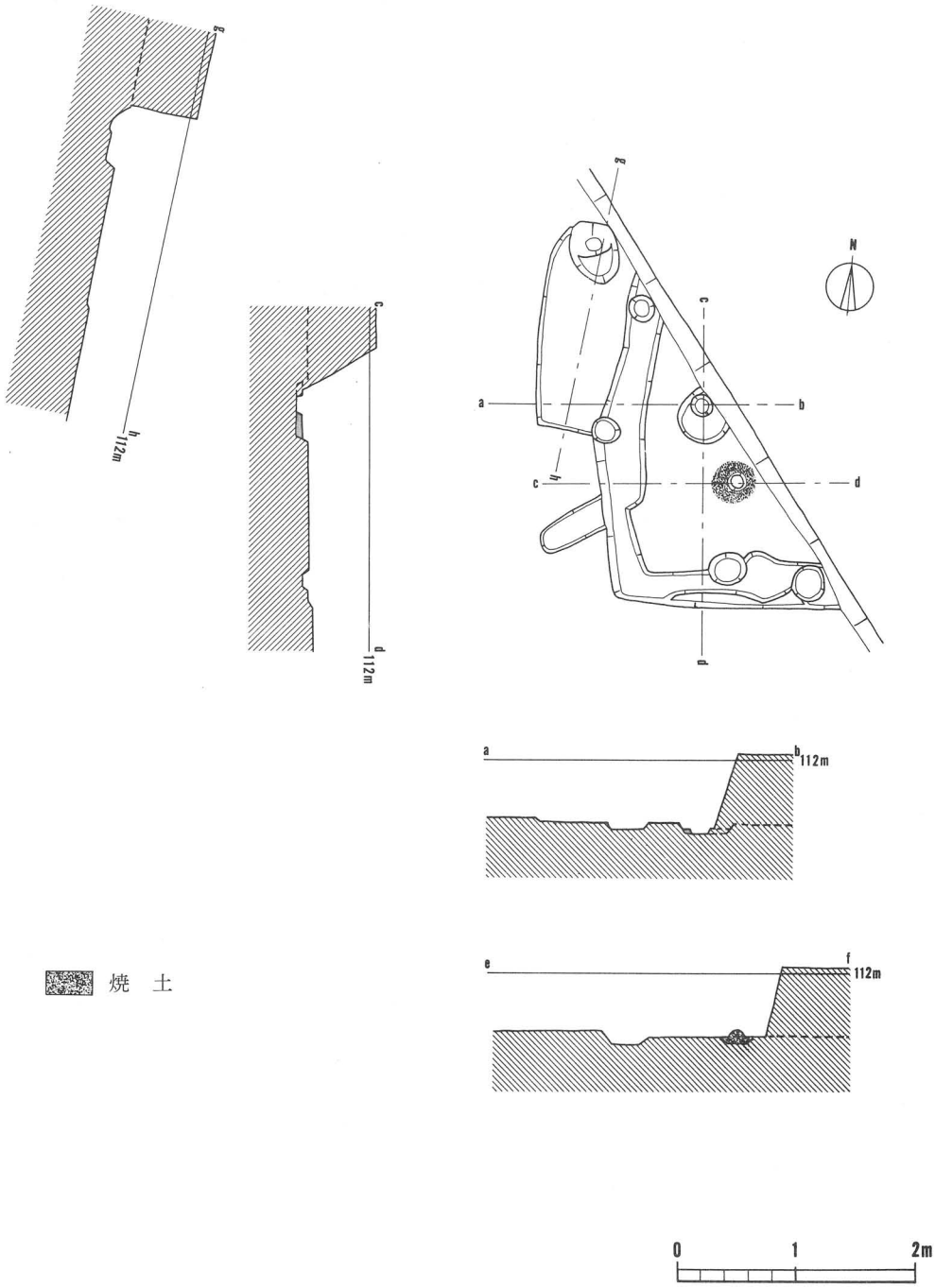
第２住居跡下層出土遺物実測図



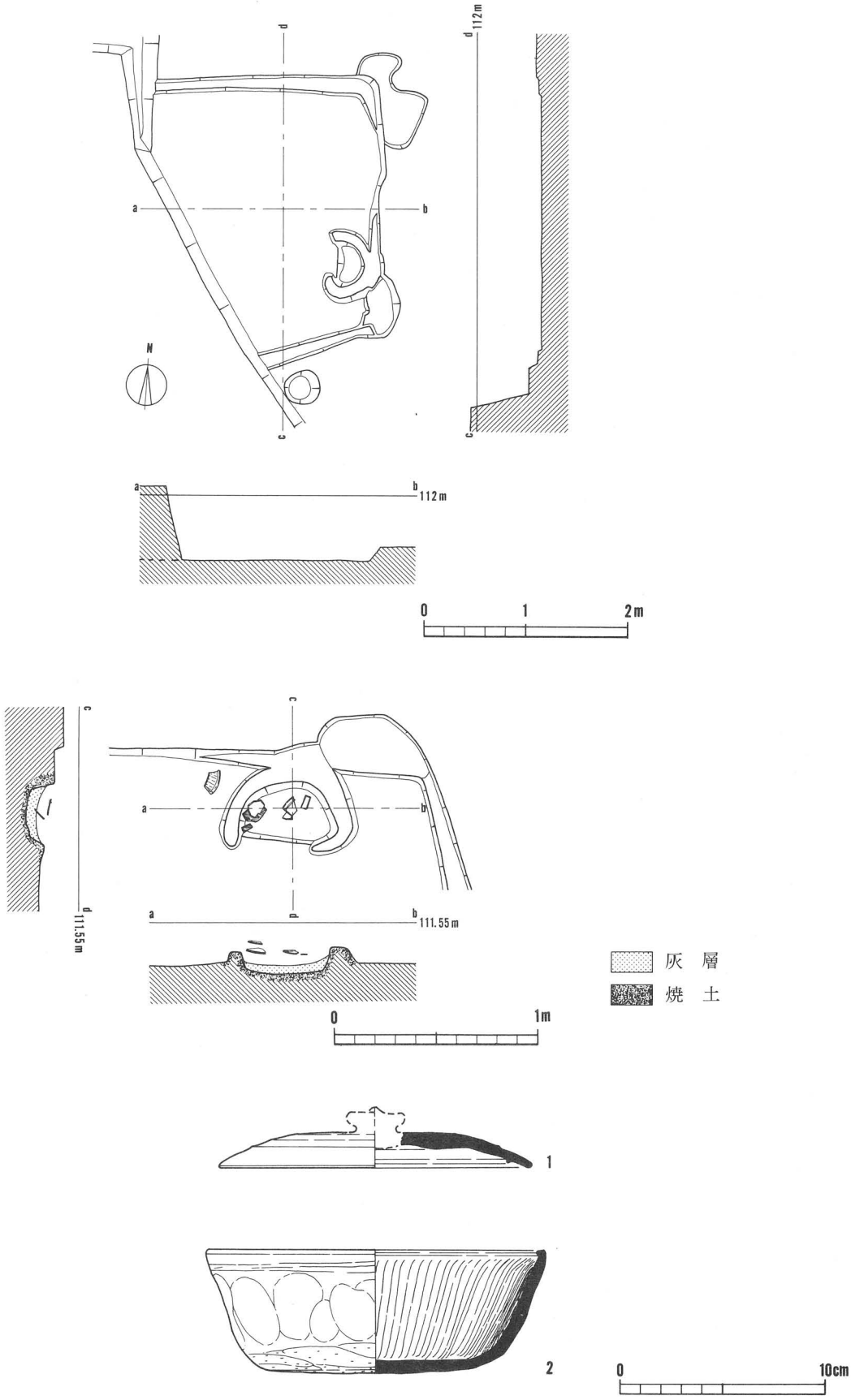
第2住居跡上層出土遺物実測図



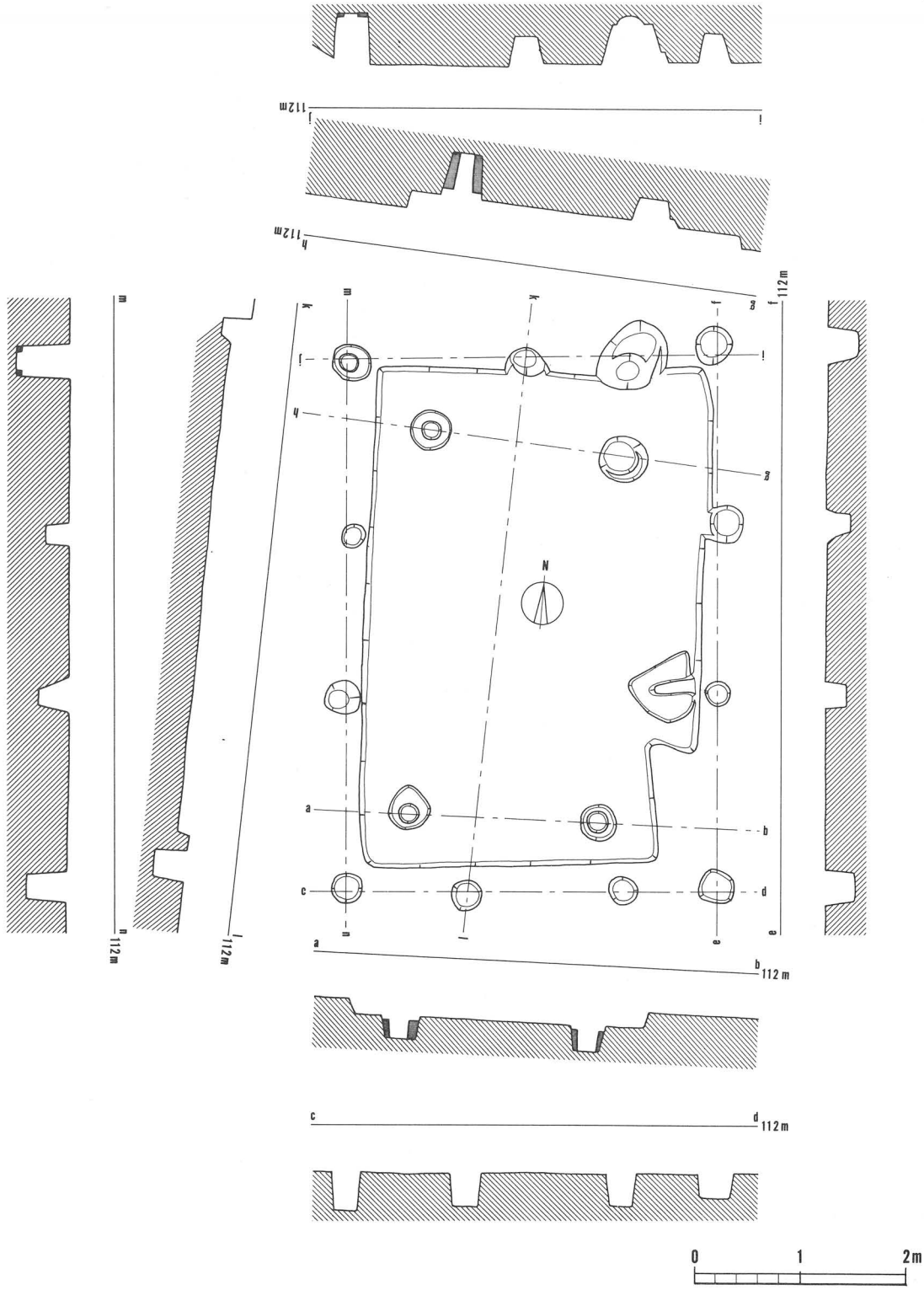
第３、第９住居跡（Ｔ３、Ｔ９）実測図、出土遺物実測図



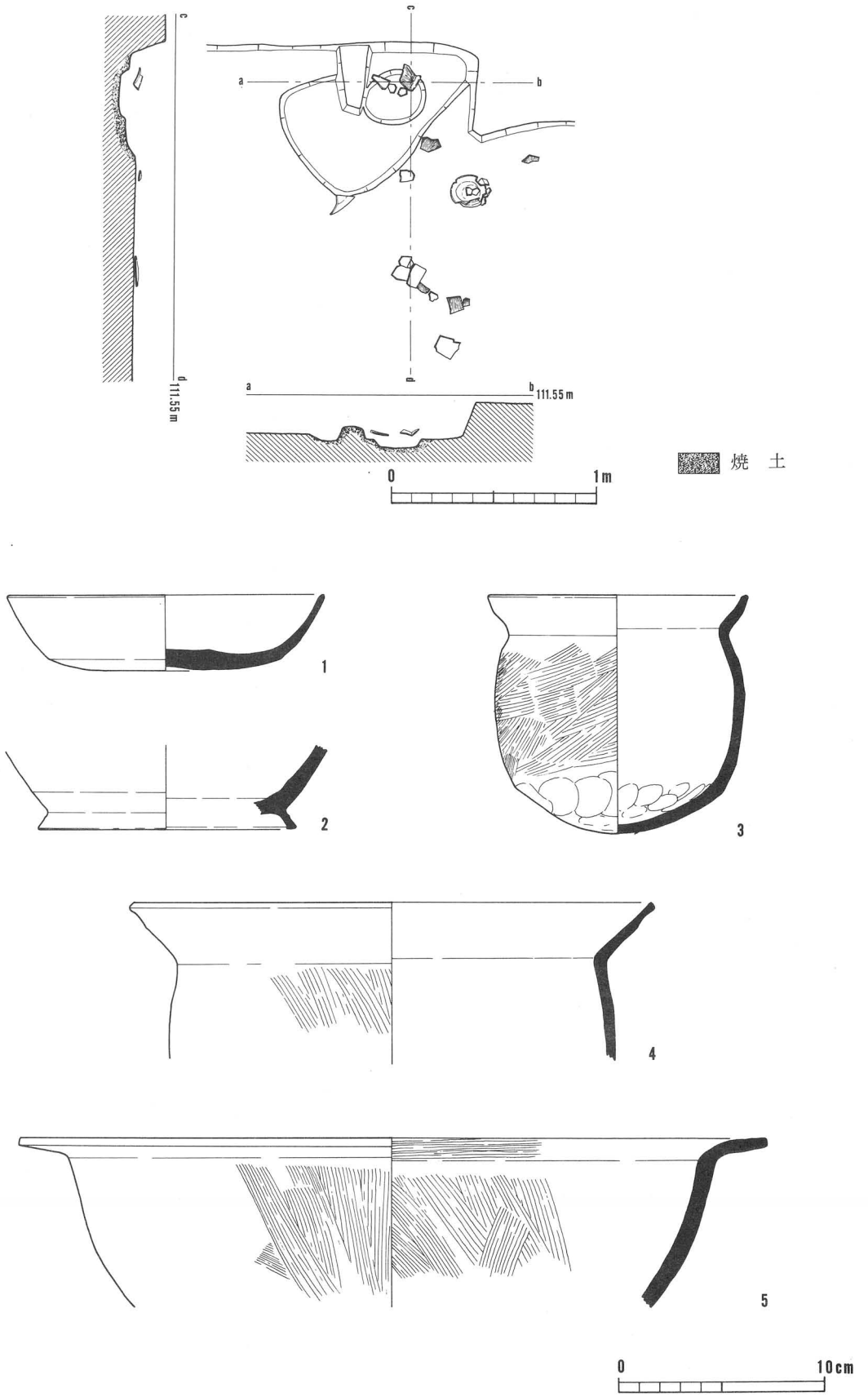
第4住居跡（T 4）実測図



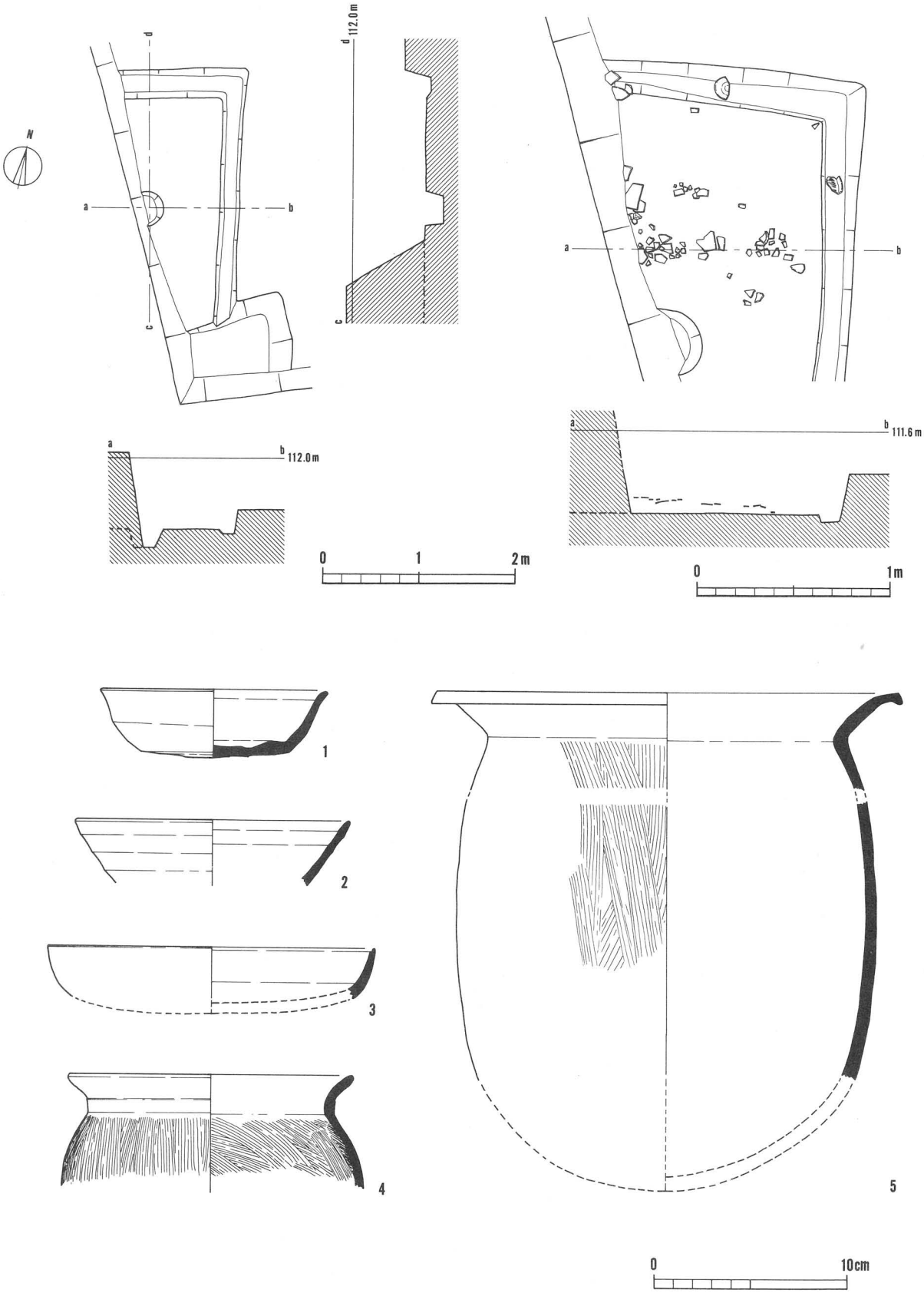
第５住居跡（Ｔ５）実測図、出土遺物実測図、カマド実測図



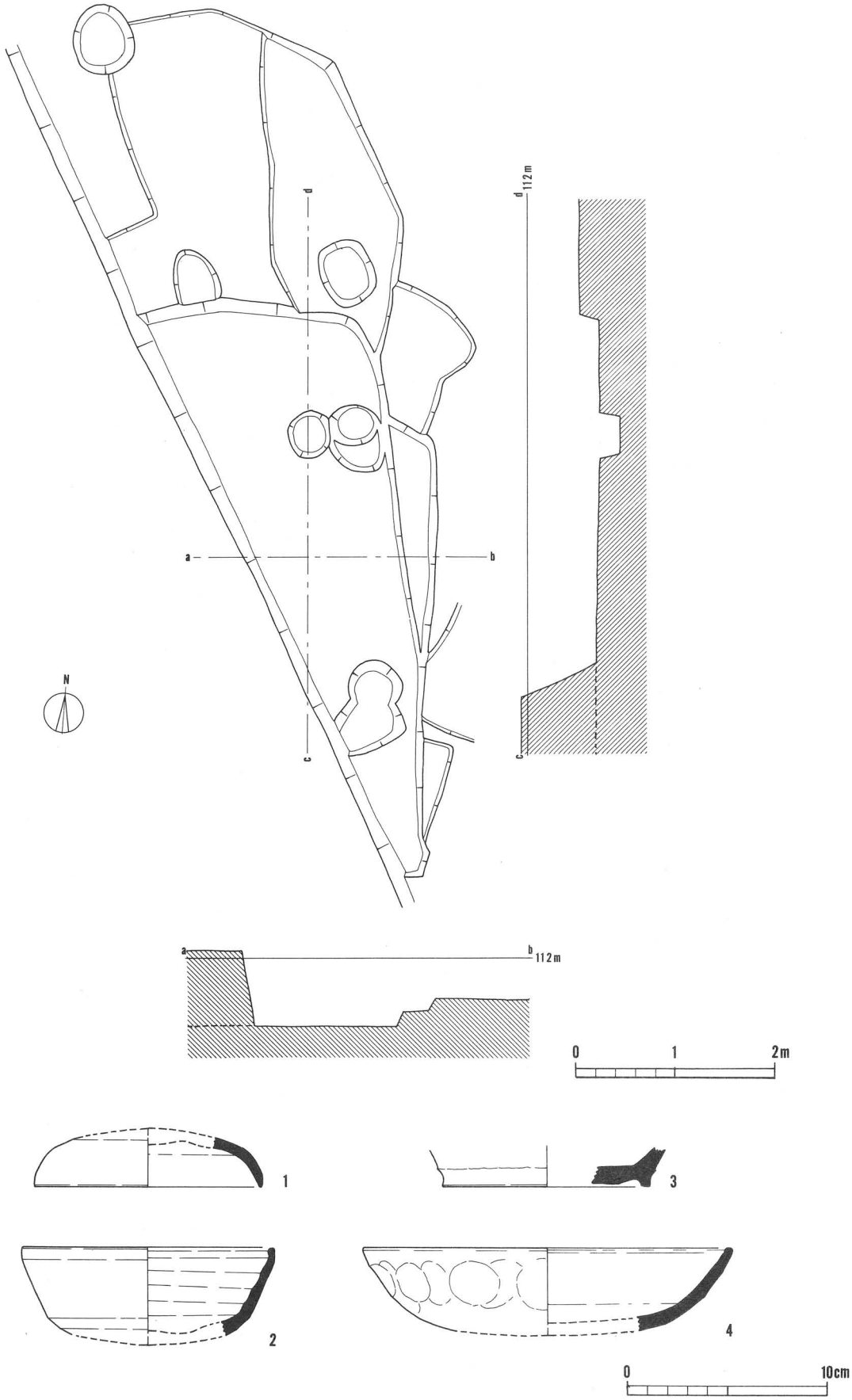
第6住居跡（T 6）実測図



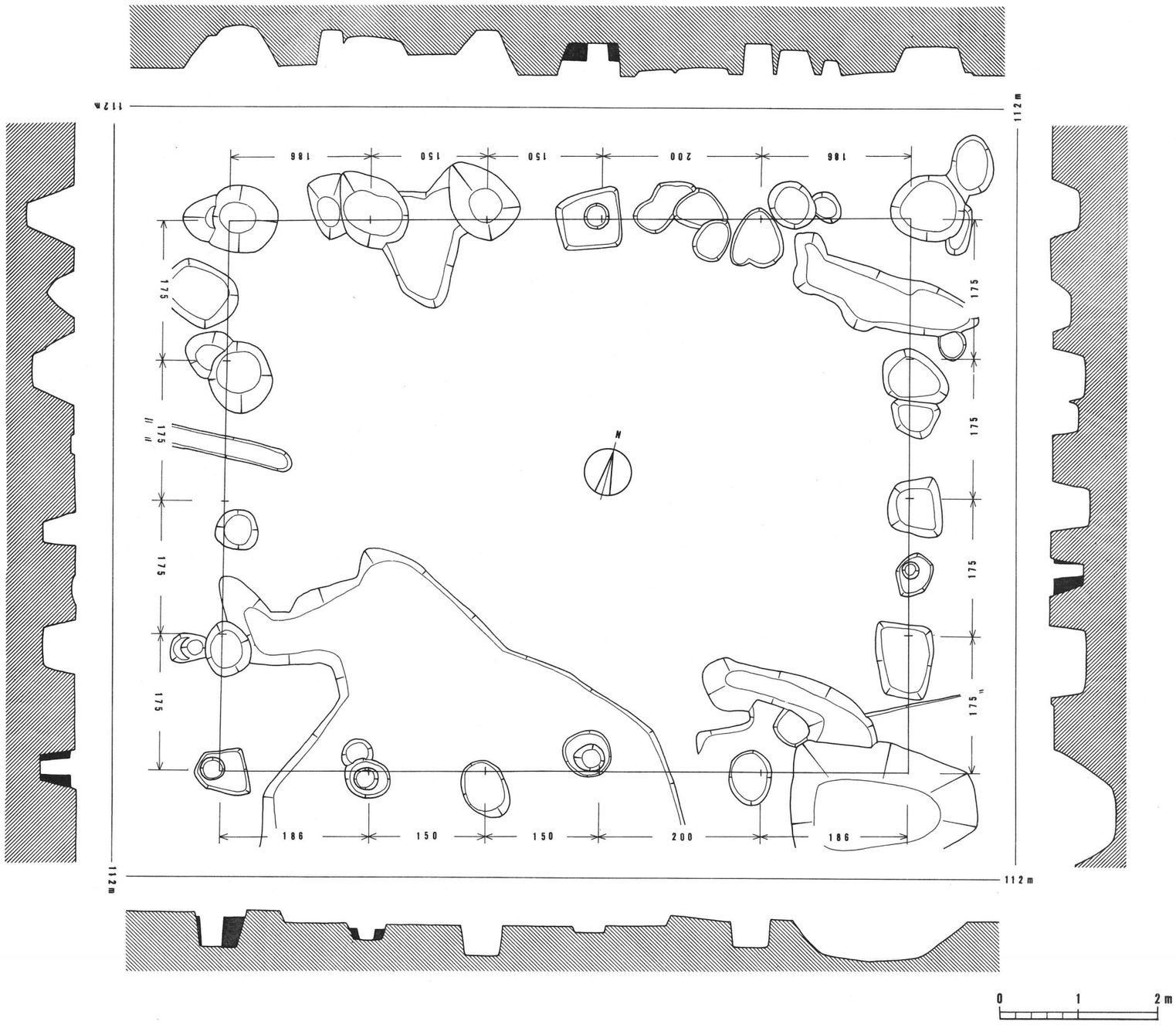
第6住居跡カマド実測図、出土遺物実測図



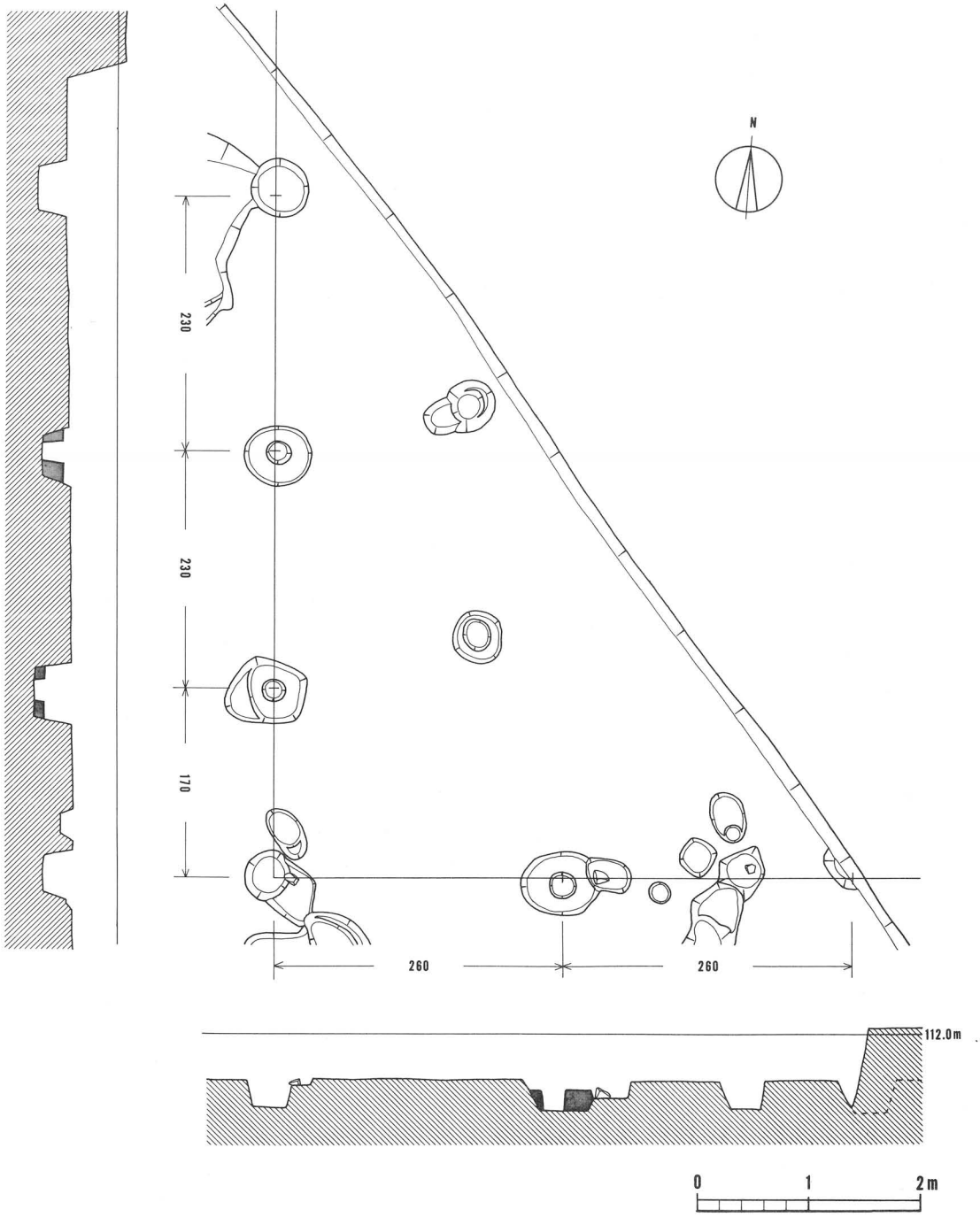
第７住居跡（Ｔ７）実測図、遺物出土状況図、出土遺物実測図



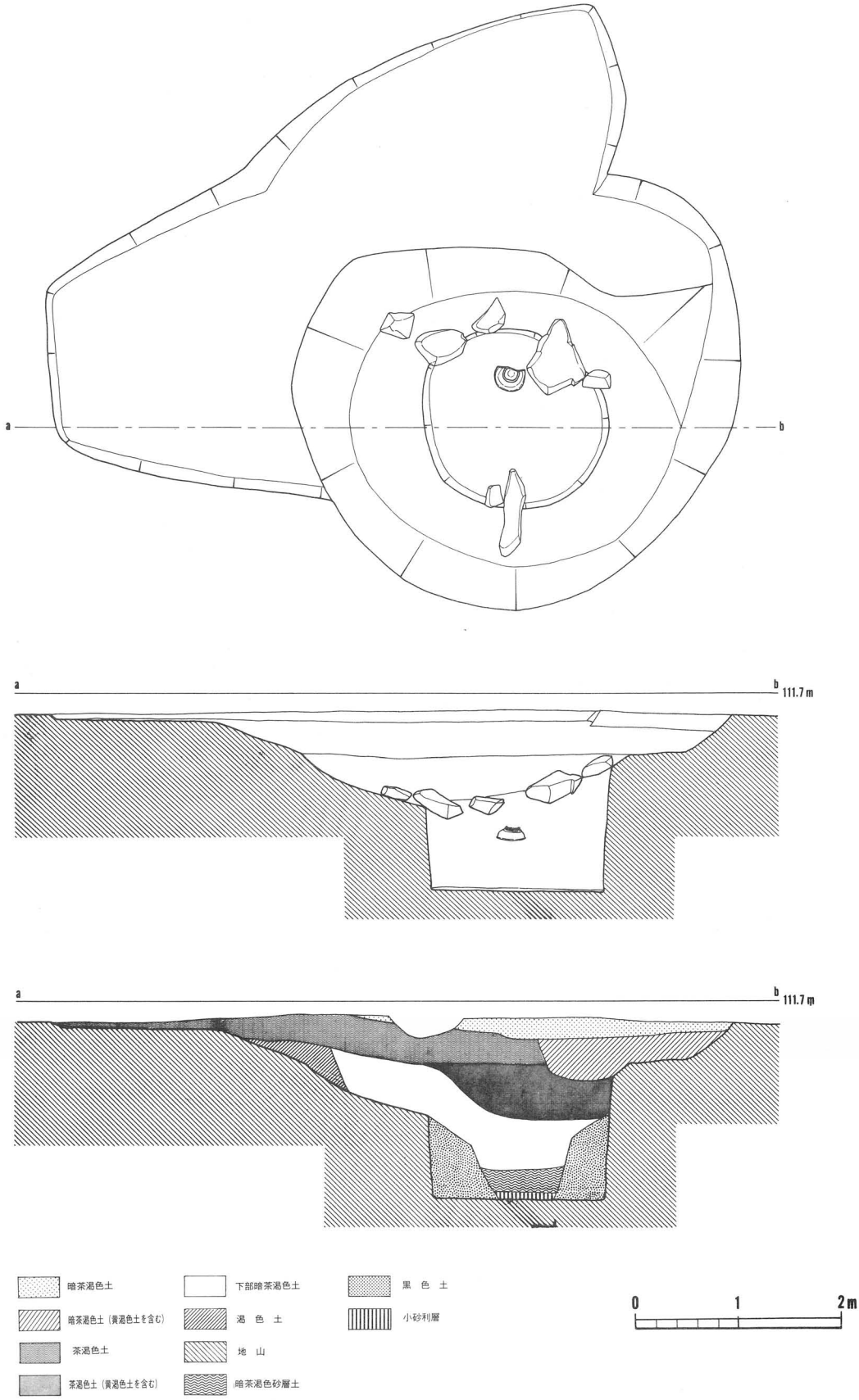
第８住居跡（Ｔ８）実測図、出土遺物実測図



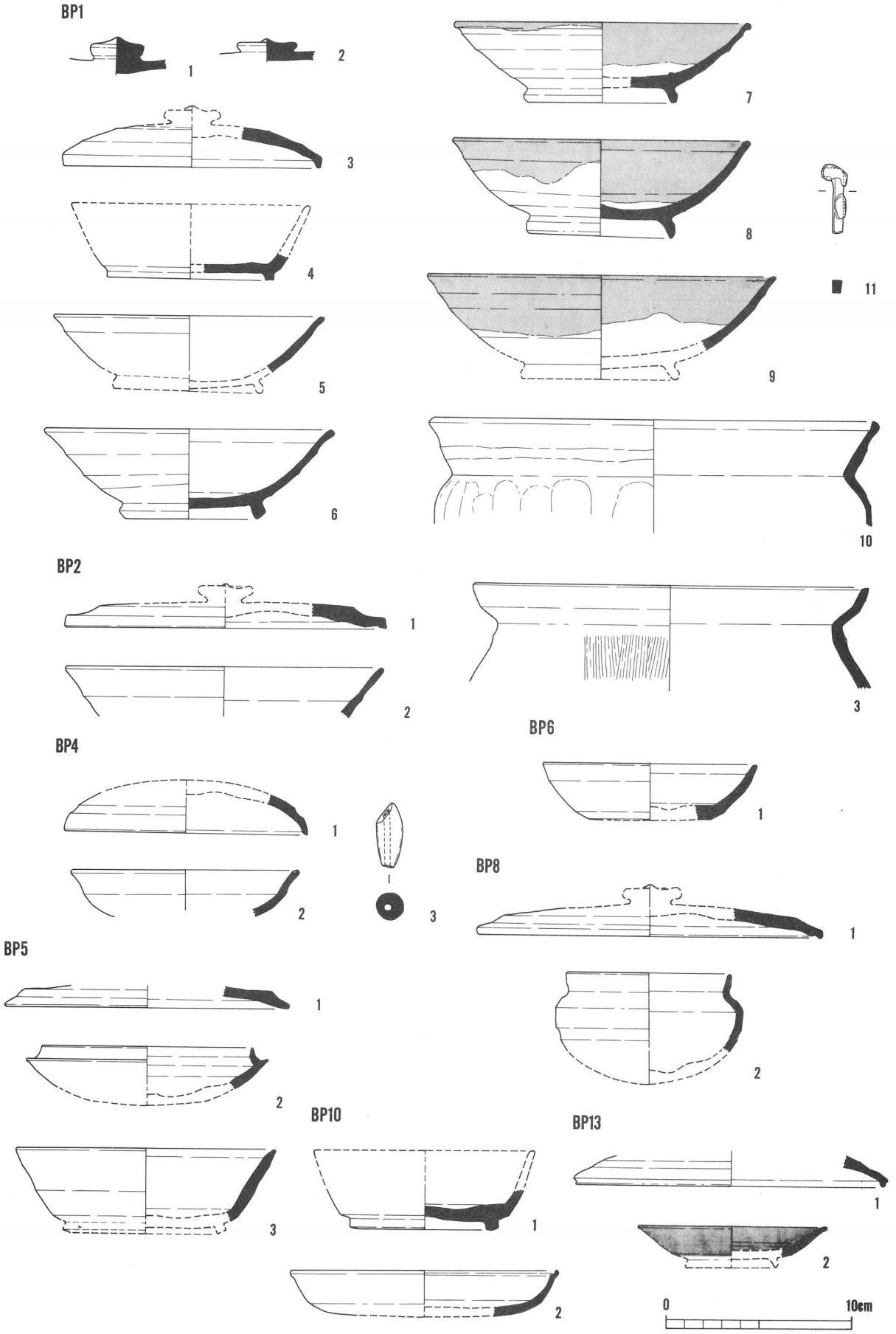
第１掘立柱建物（Ｈ１）実測図



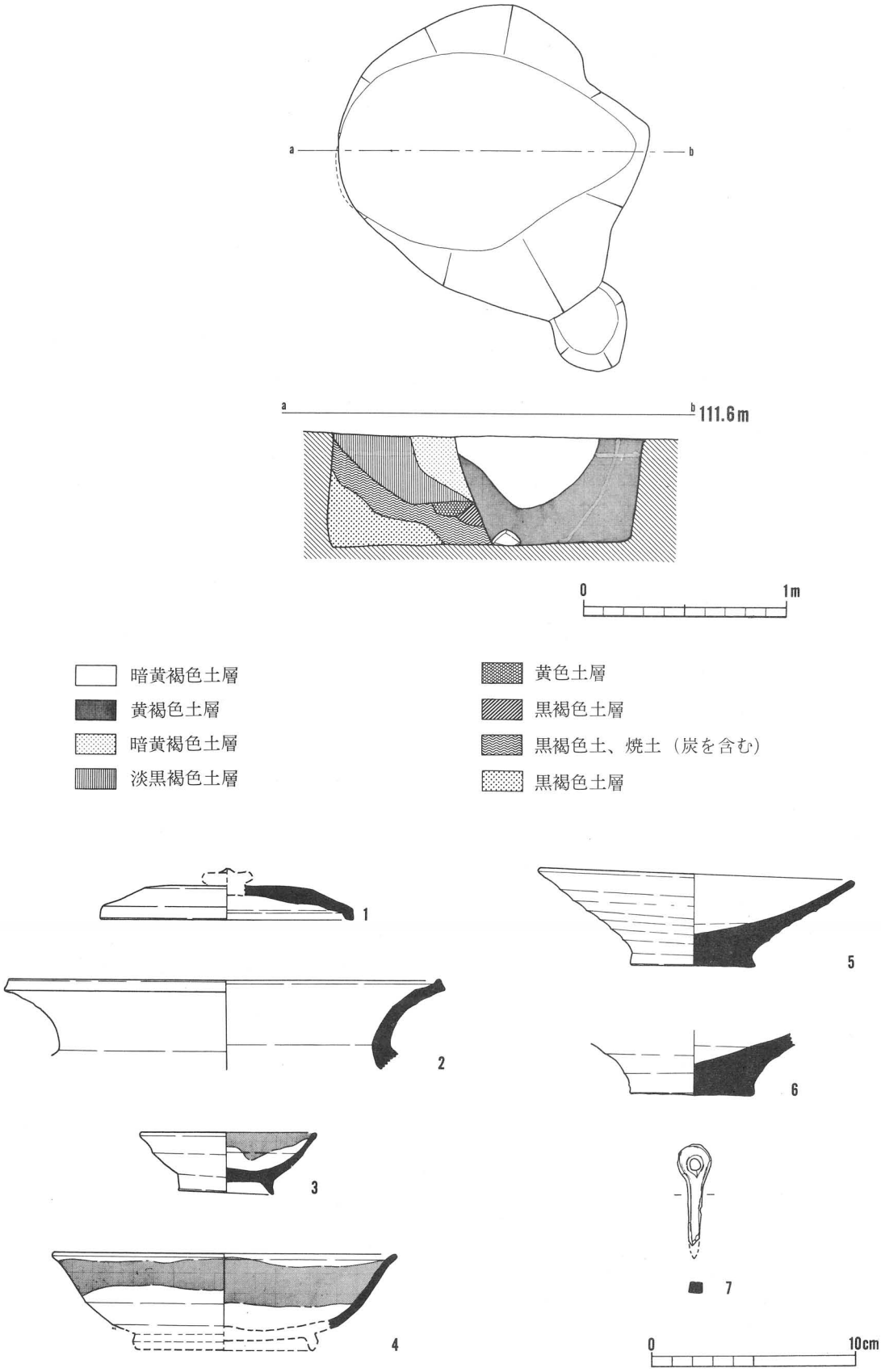
第２掘立柱建物（Ｈ２）実測図



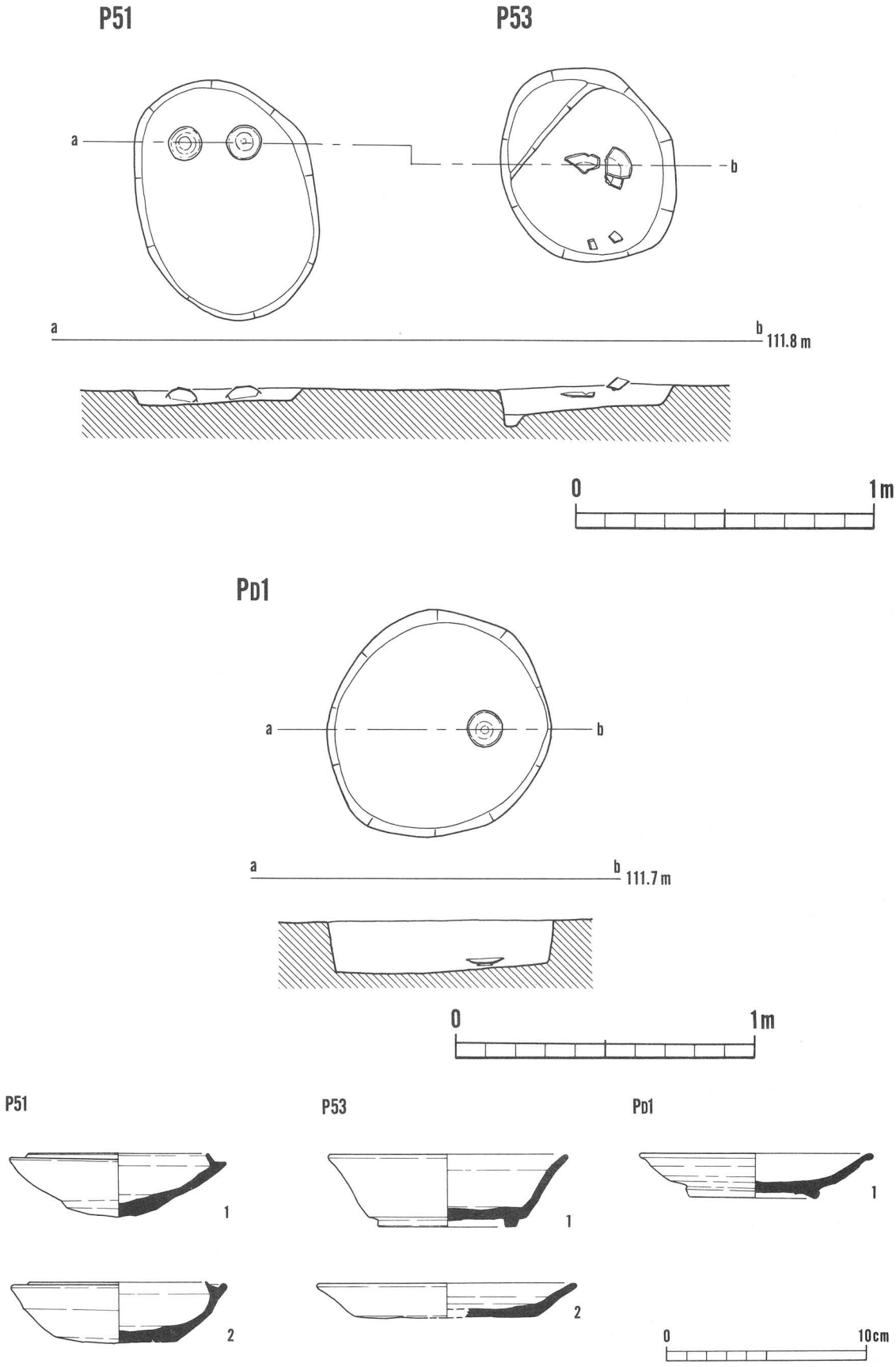
第１井戸跡（ＢＰ１）実測図、断面実測図



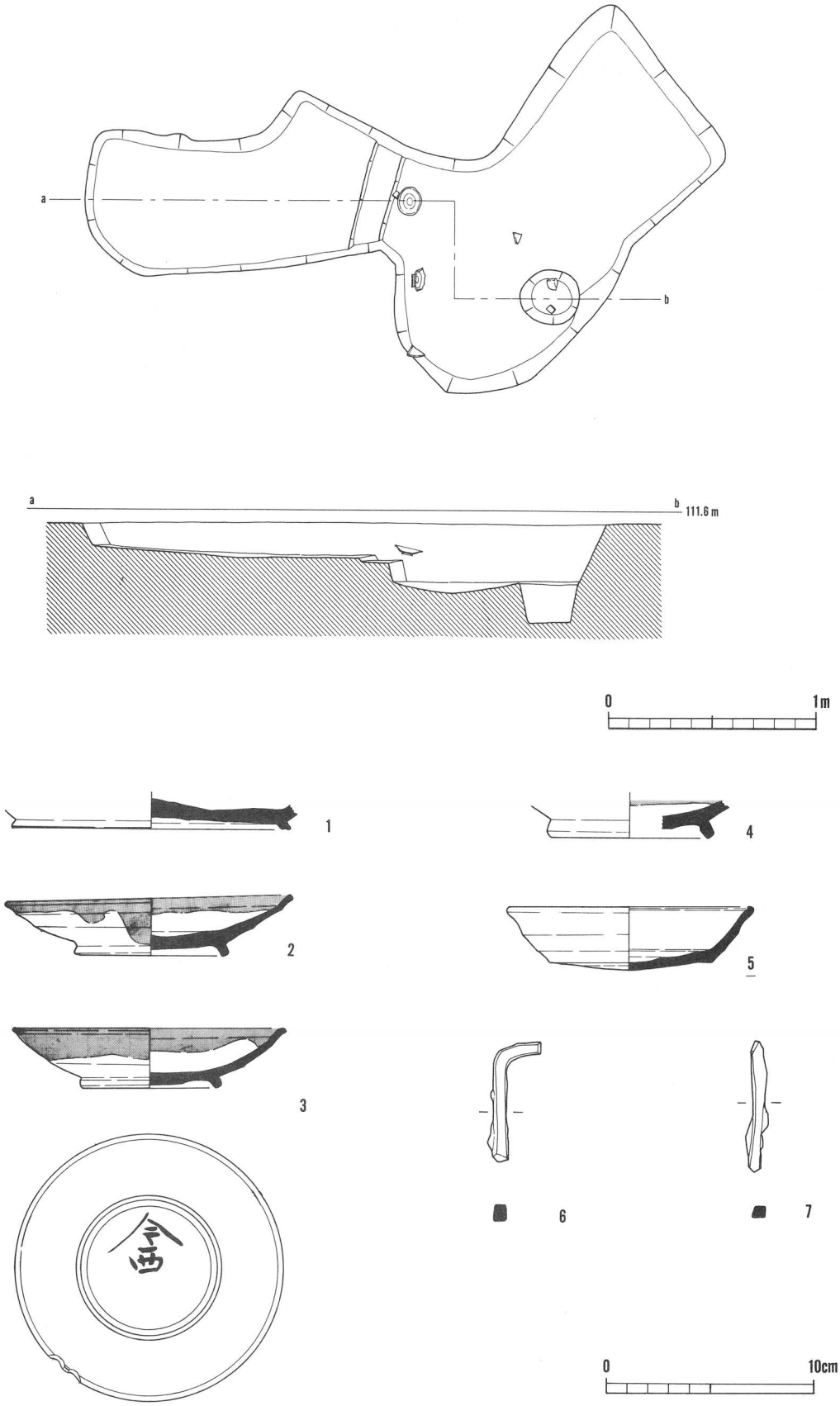
第１井戸跡、ＢＰ２、ＢＰ４、ＢＰ５、ＢＰ６、ＢＰ８、ＢＰ10、ＢＰ13
出土遺物実測図



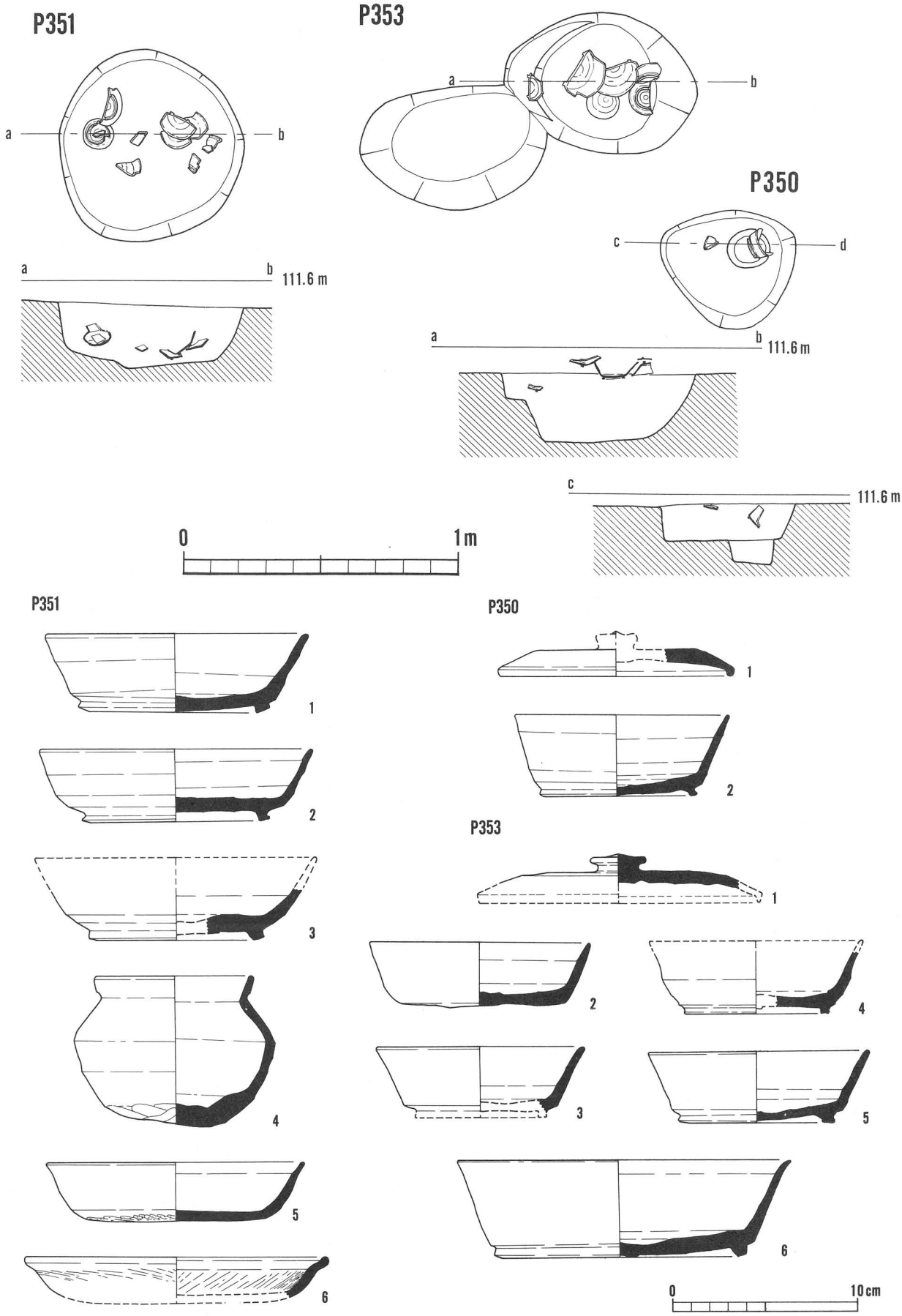
第２井戸跡（ＢＰ９）実測図、断面実測図、出土遺物実測図



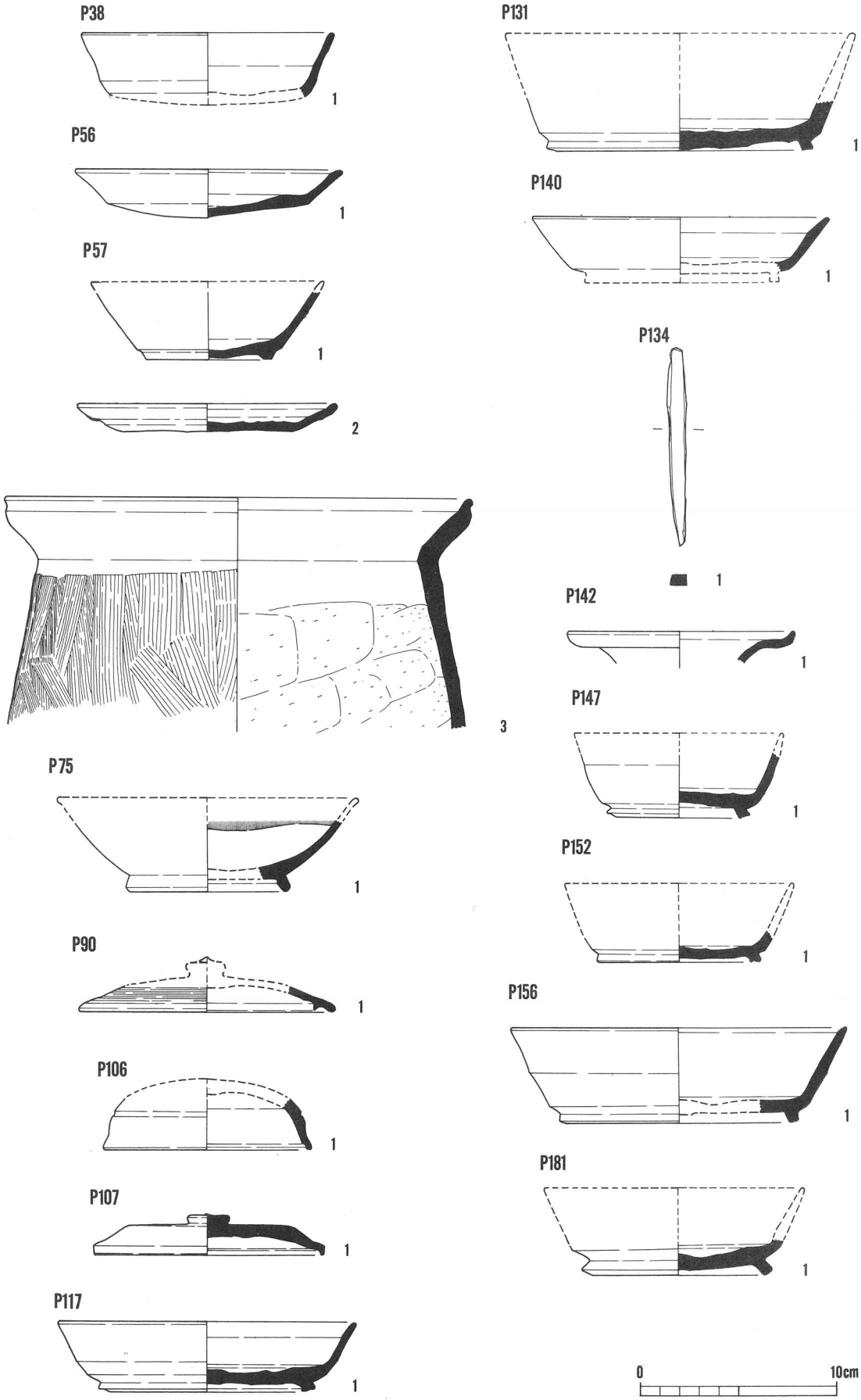
P51、P53、PD1実測図、出土遺物実測図



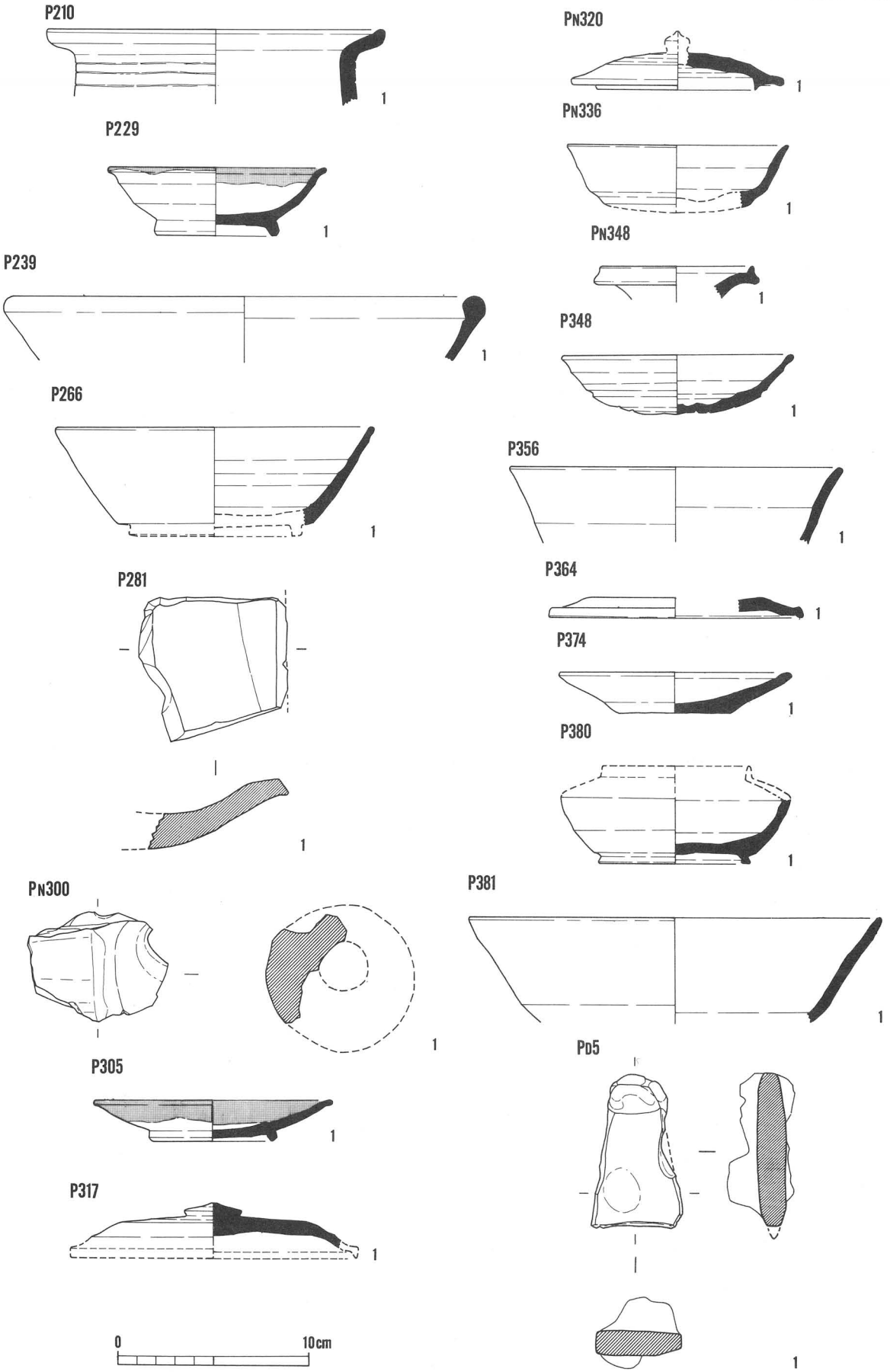
P54実測図、出土遺物実測図



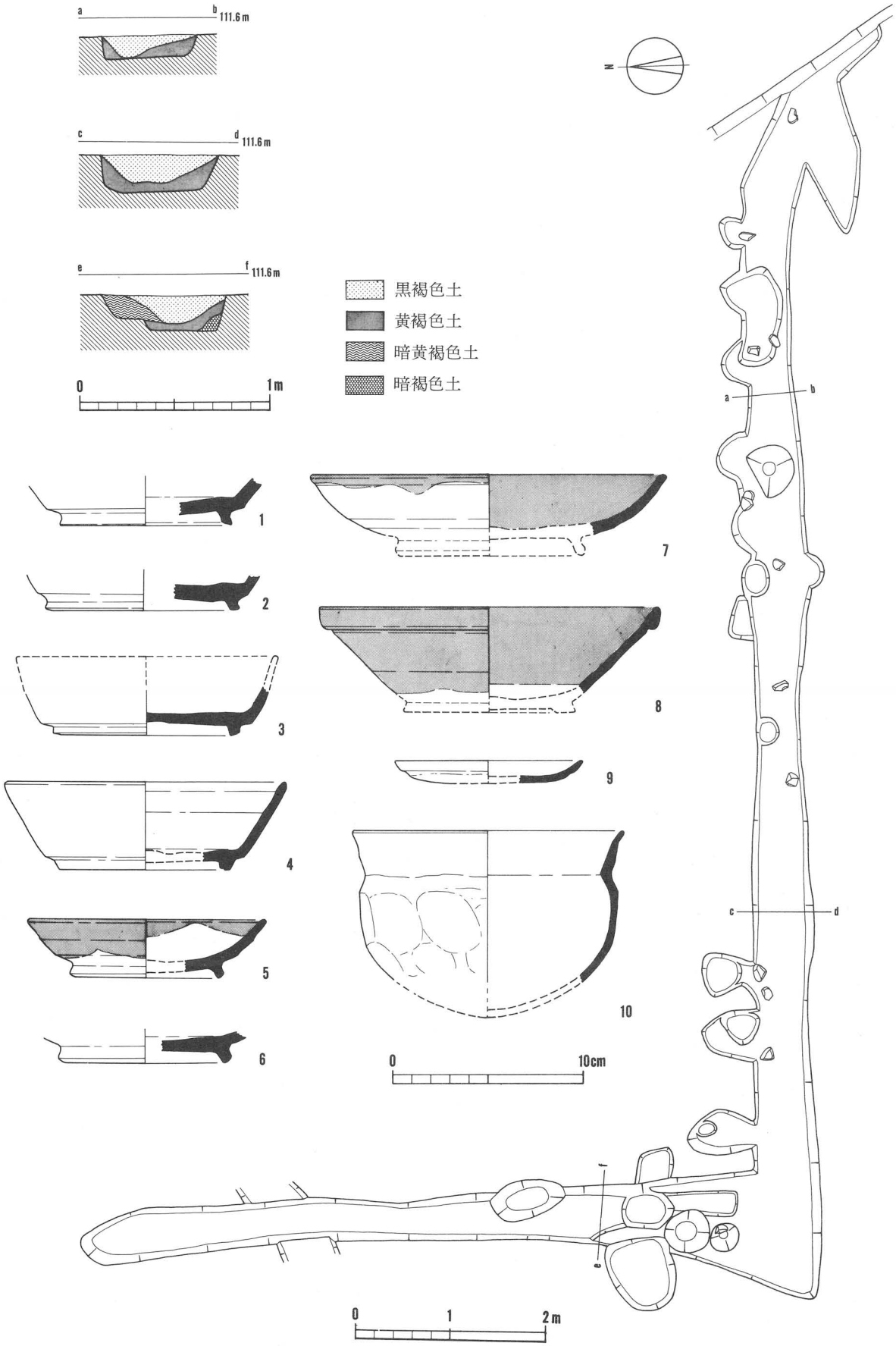
P350、P351、P353実測図、出土遺物実測図



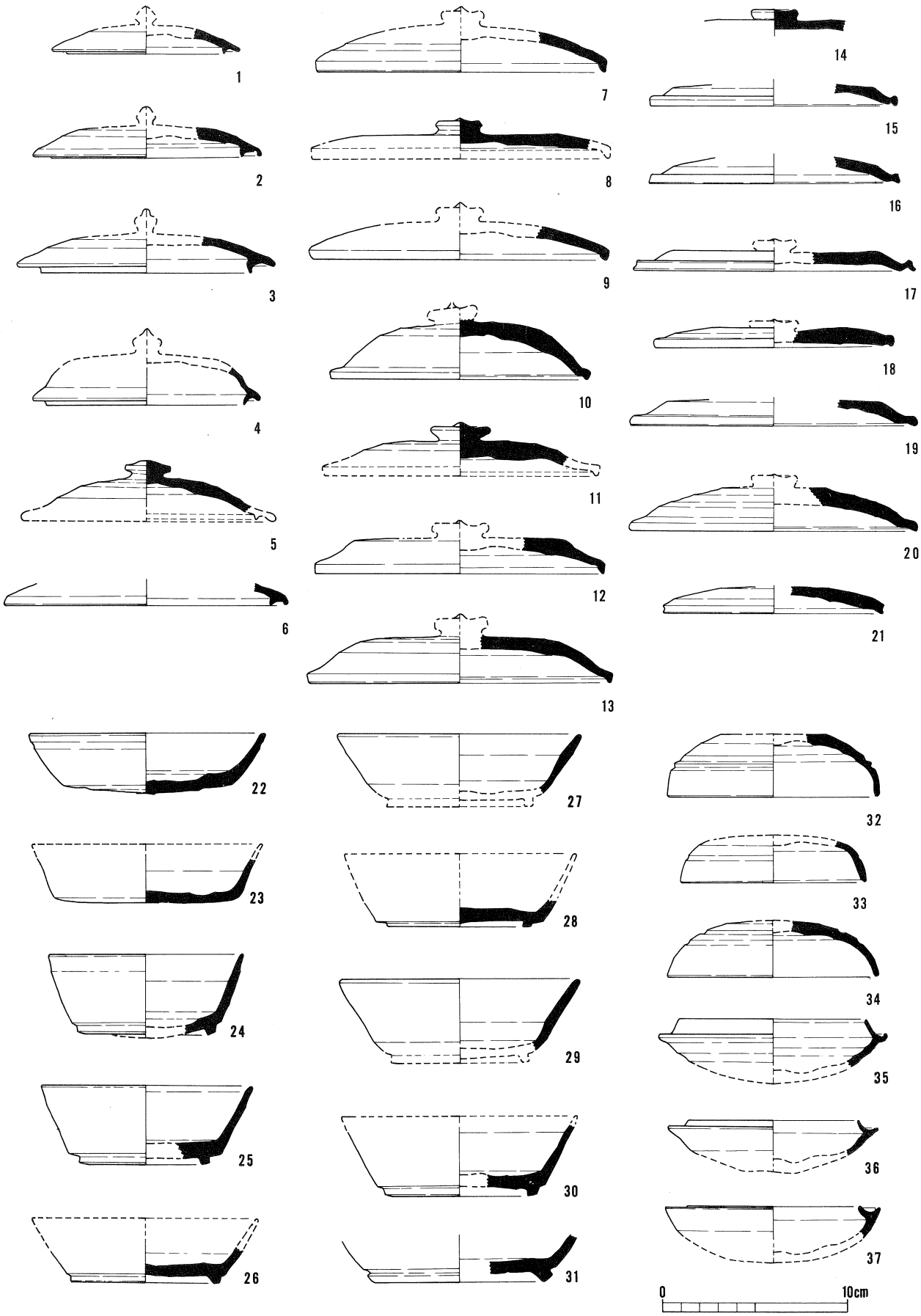
P38、P56、P57、P75、P90、P106、P107、P117、P131、P134、P140、P142、P147、P152、P156、P181出土遺物実測図



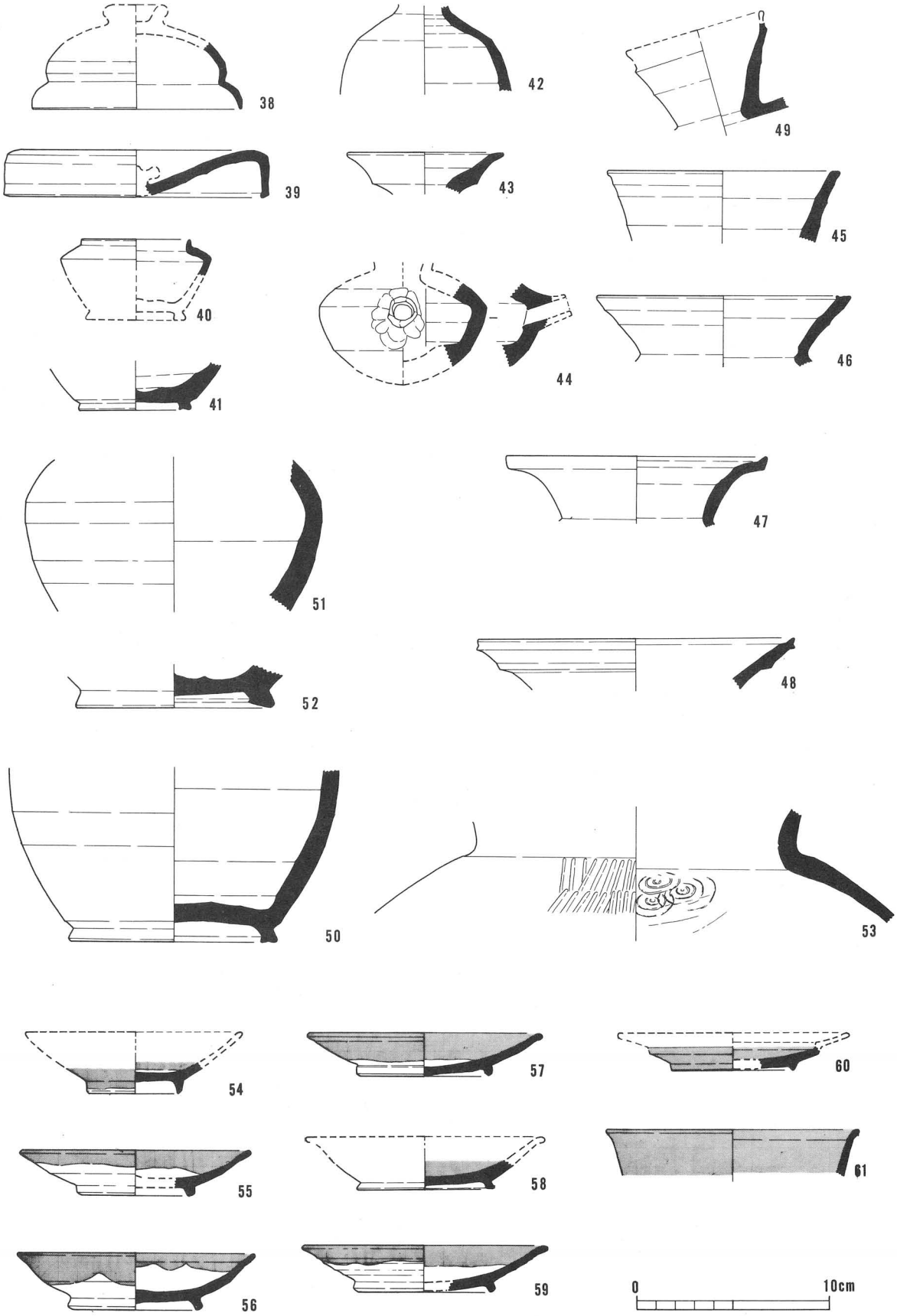
P210、P229、P239、P226、P281、PN300、P305、P317、PN320、PN336、PN348、P348、P356、P364、P374、P380、P381、PD5出土遺物実測図



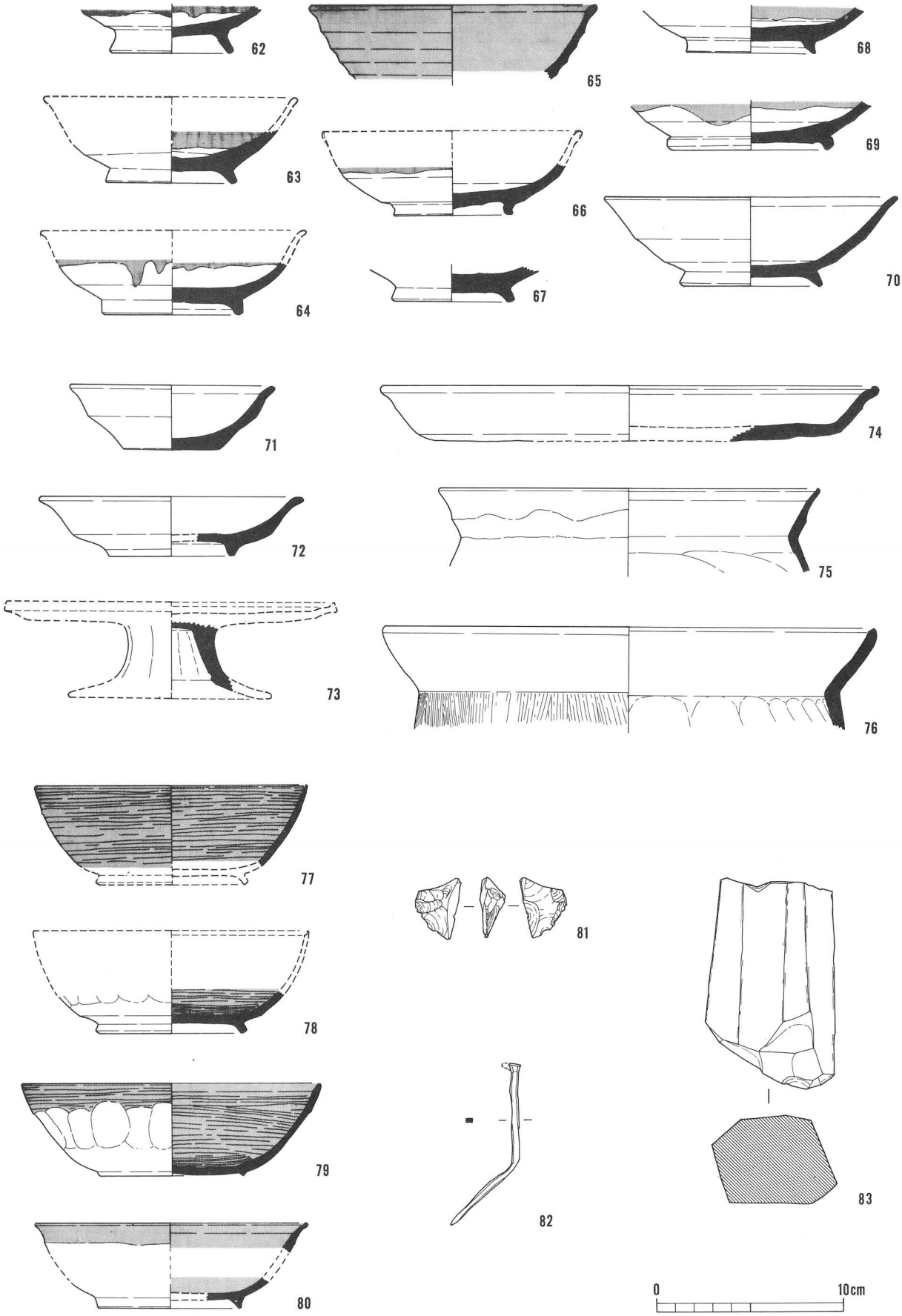
溝１（Ｍ１）実測図、断面実測図、出土遺物実測図



包含層出土遺物実測図(1)

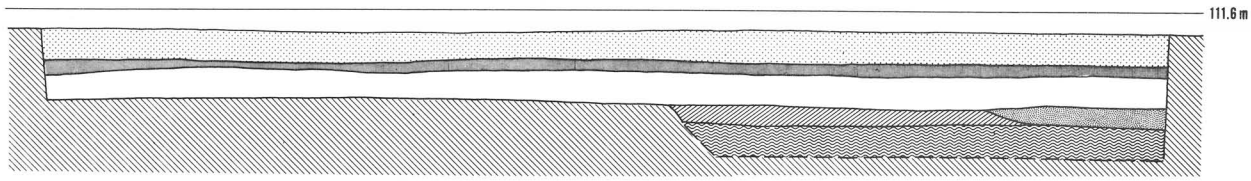


包含層出土遺物実測図(2)

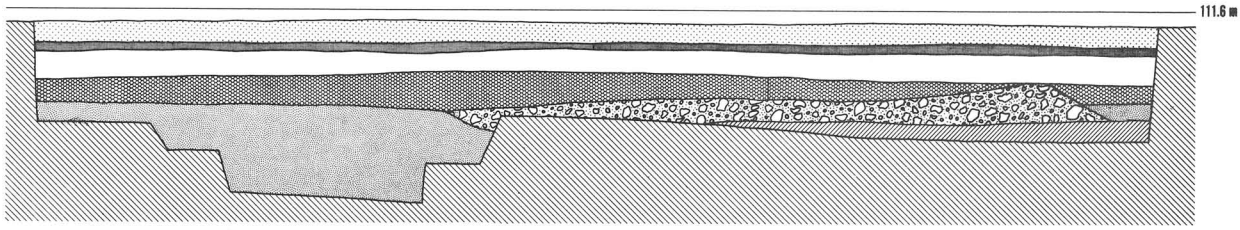


包含層出土遺物実測図(3)

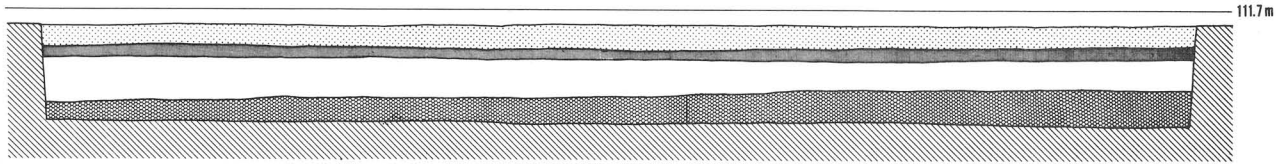
第１トレンチ断面実測図



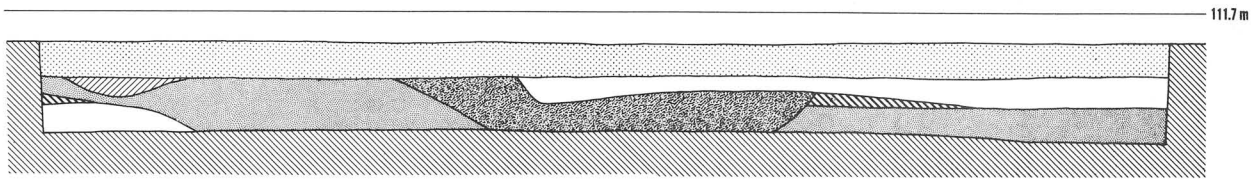
第２トレンチ断面実測図



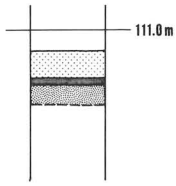
第３トレンチ断面実測図



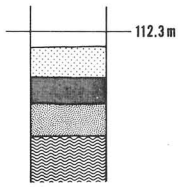
第５トレンチ断面実測図



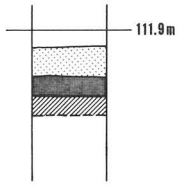
第４Tr－No.１トレンチ
柱状断面実測図

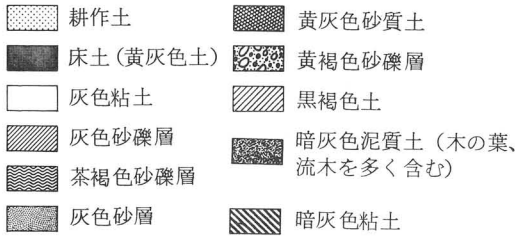


第４Tr－No.２トレンチ
柱状断面実測図

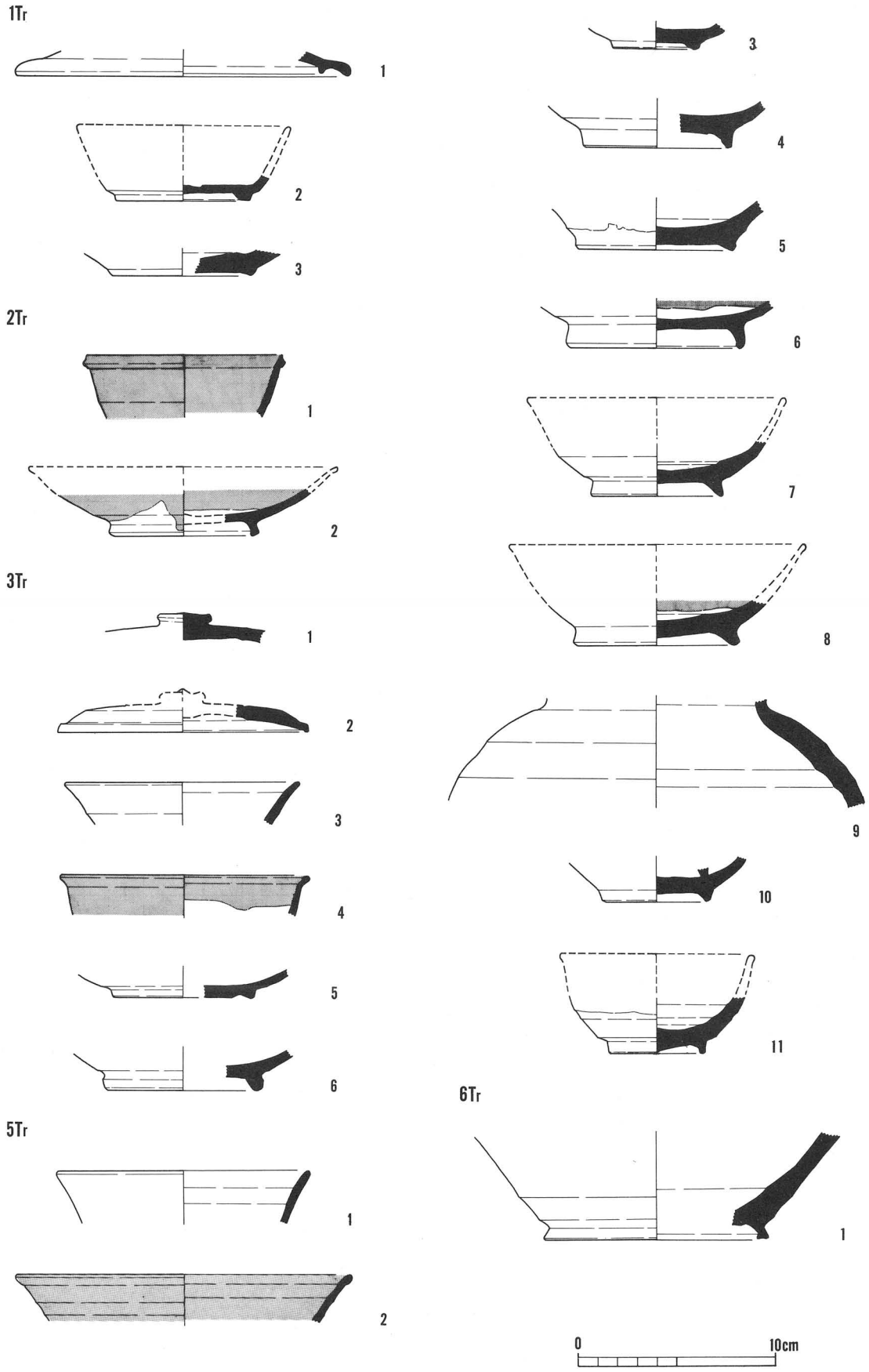


第６トレンチ柱状
断面実測図

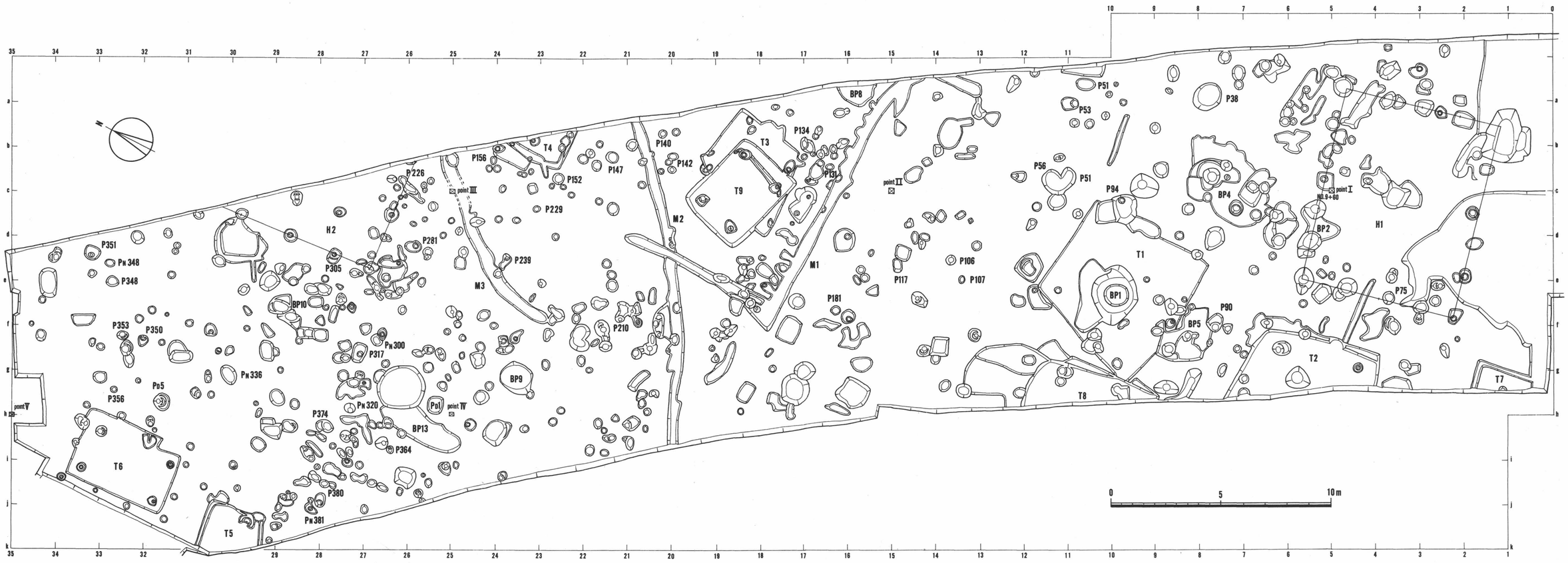




第１トレンチ（１Tr）、第２トレンチ（２Tr）、第３トレンチ（３Tr）、
第５トレンチ（５Tr）、断面実測図、第４—No.１トレンチ（４Tr－No.１）、
第４—No.２トレンチ（４Tr—No.２）、第６トレンチ（６Tr）柱状断面実測図



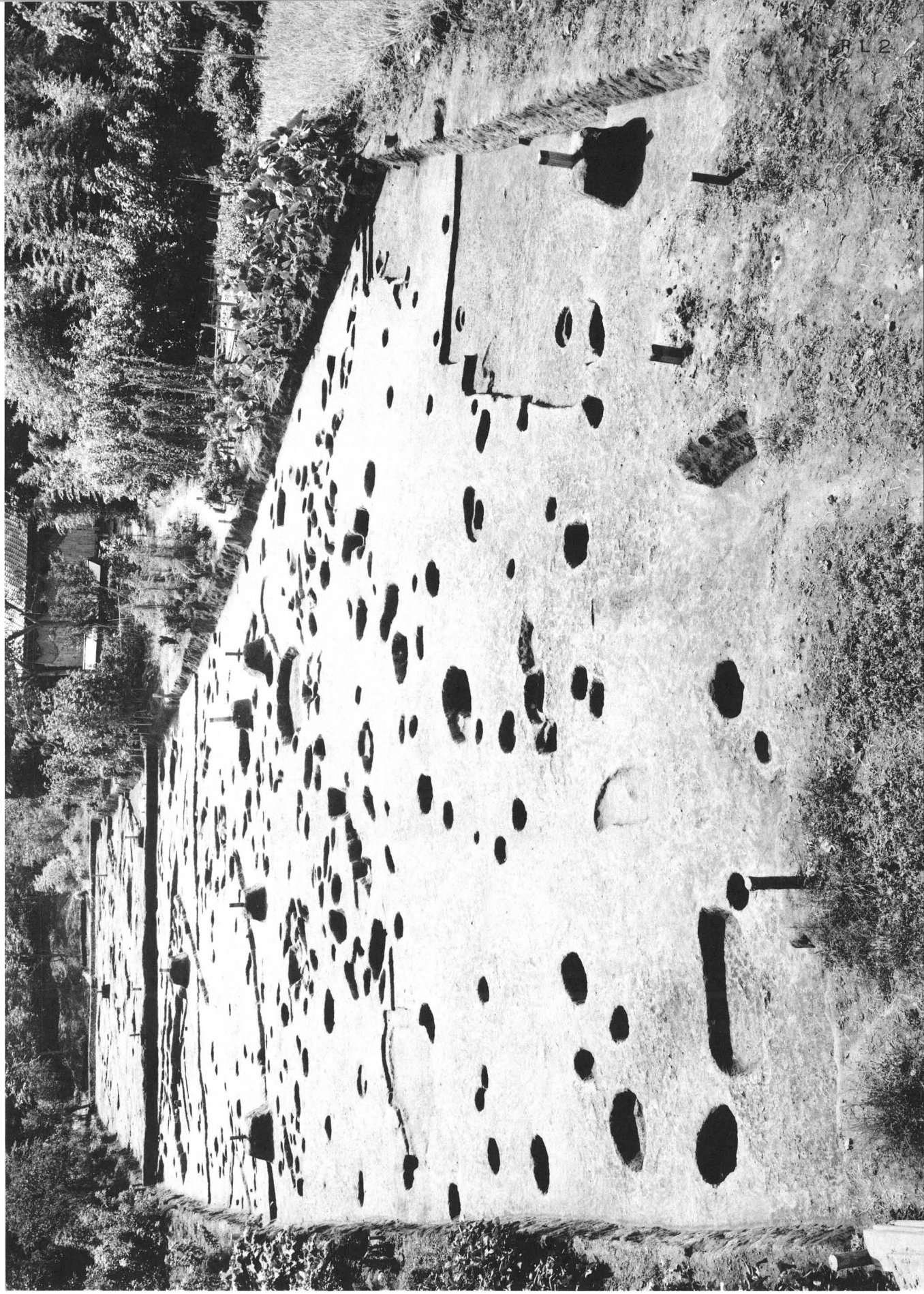
第１トレンチ、第２トレンチ、第３トレンチ、第５トレンチ、第６トレンチ
出土遺物実測図


BP8
P51
P53
P38
P134
T3
T4
P156
P140
P142
P147
P152
P226
P131
T9
point II
P56
P51
P94
BP4
point I
M.9+60
BP2
H1
P229
M2
H2
P281
P351
Pn 348
P348
P305
P239
M3
M1
P117
P106
P107
T1
BP1
P181
P75
BP10
P353
P350
Pn300
P317
P210
P90
BP5
T2
Pn336
BP9
T8
T7
Po5
P356
point V
Pn320
Po1
point IV
P374
BP13
P364
T6
P380
Pn381
T5
0
5
10m

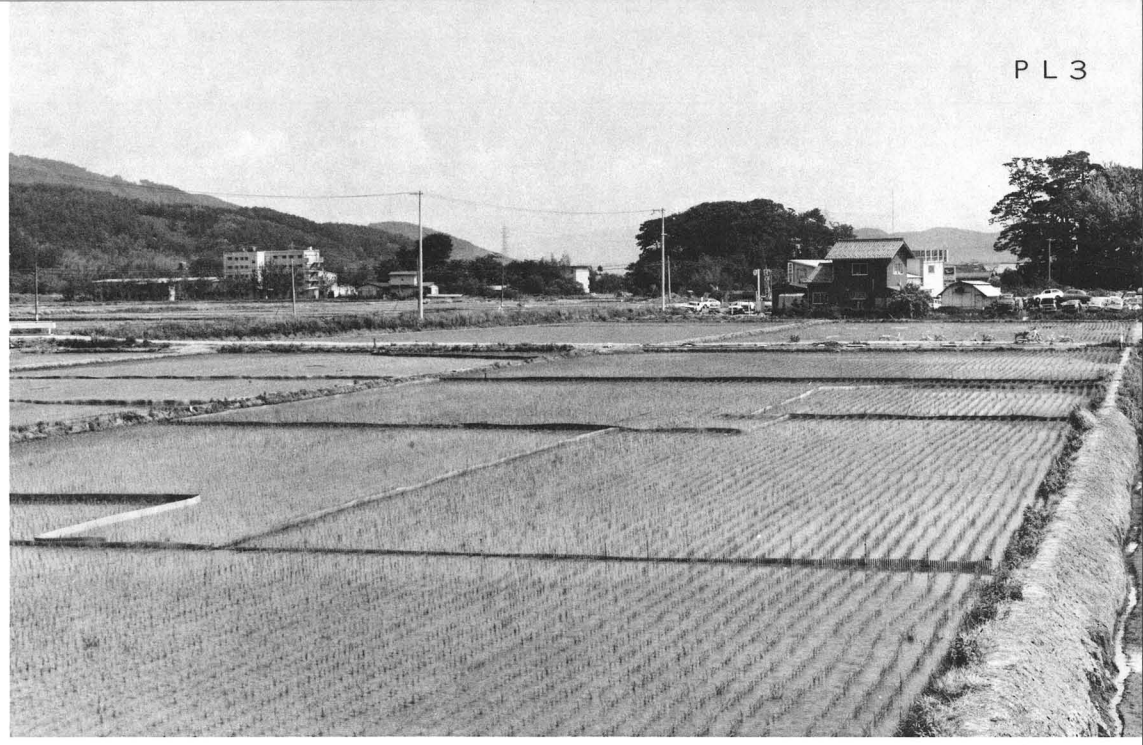
柏原遺跡全体実測図

遺跡付近航空写真（昭和47年撮影）

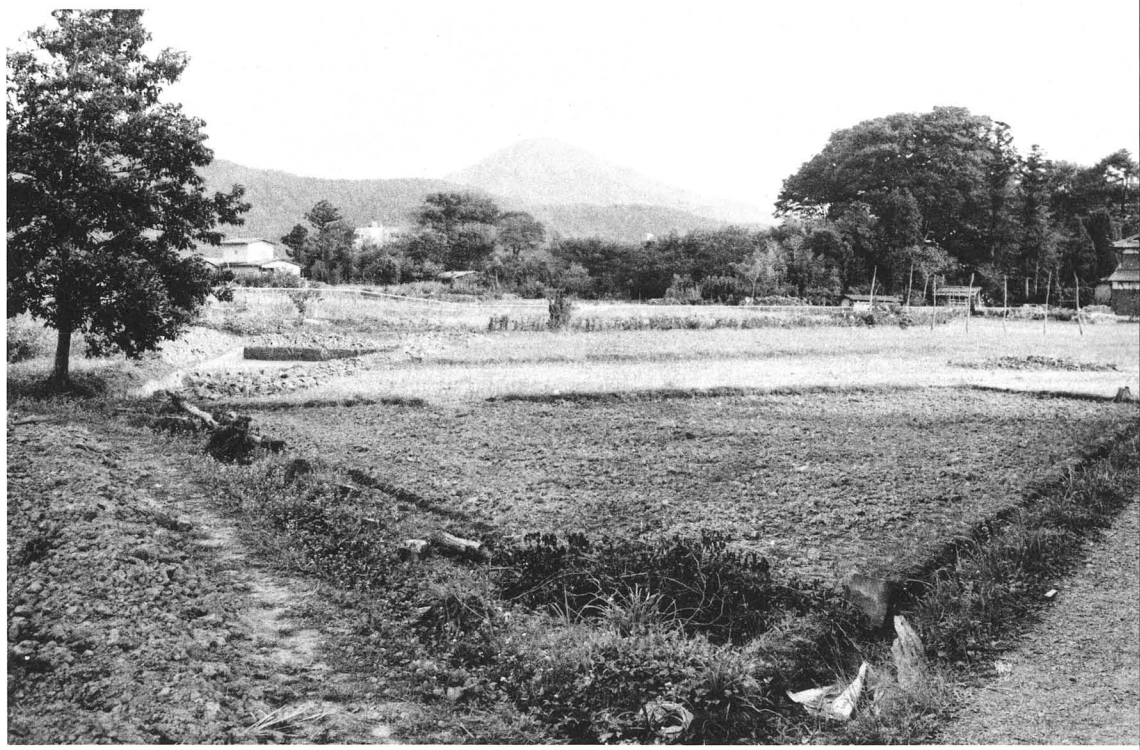
A　柏原遺跡
B　柏原北遺跡
C　井口遺跡



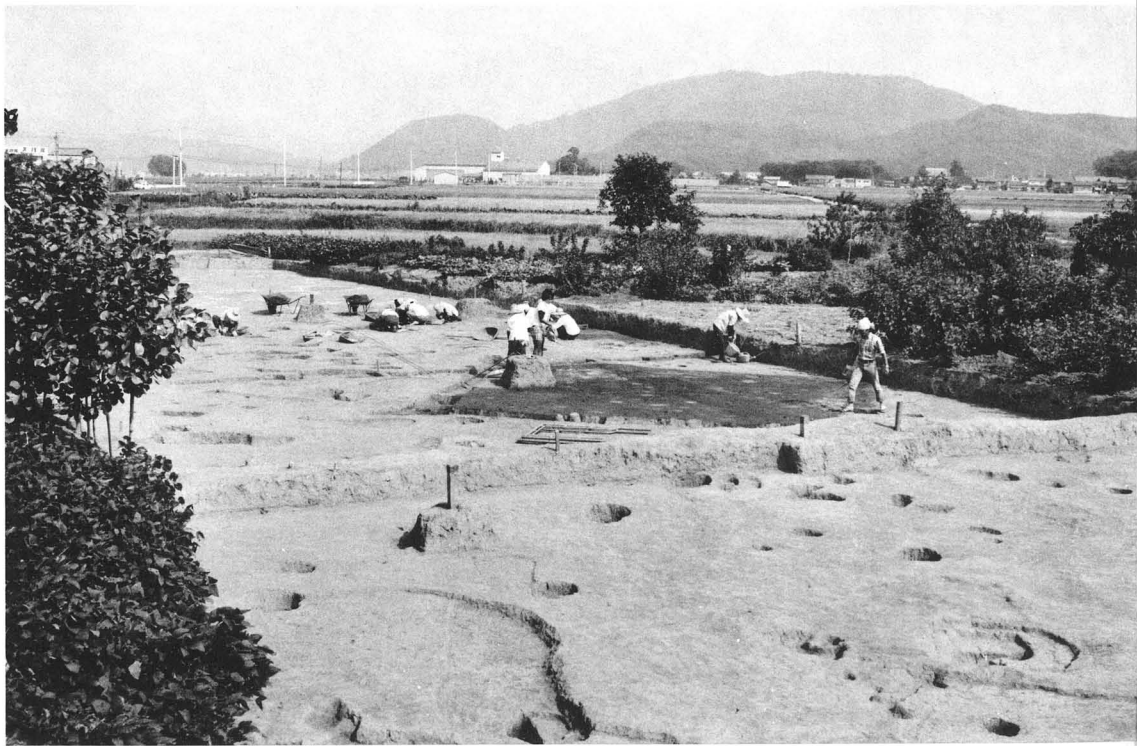
遺構全景(北から)



1　遺跡遠景
（北西から）



2　遺跡遠景
（北西から）



3　発掘調査風景

1　遺構検出状況(南から)

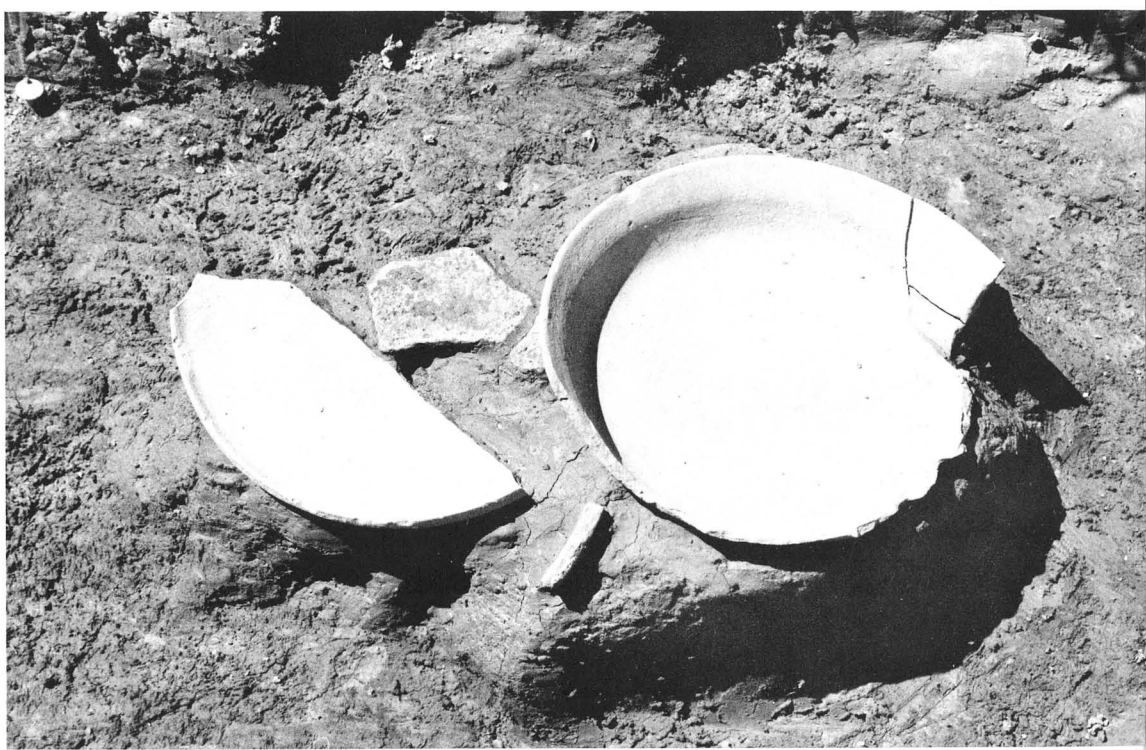
2　遺構全景(北から)

1　遺構中央,北半部(南から)

2　遺構南半部(南から)

1　第１住居跡(Ｔ１)
（北から）

2　第２住居跡(Ｔ２)
（北から）

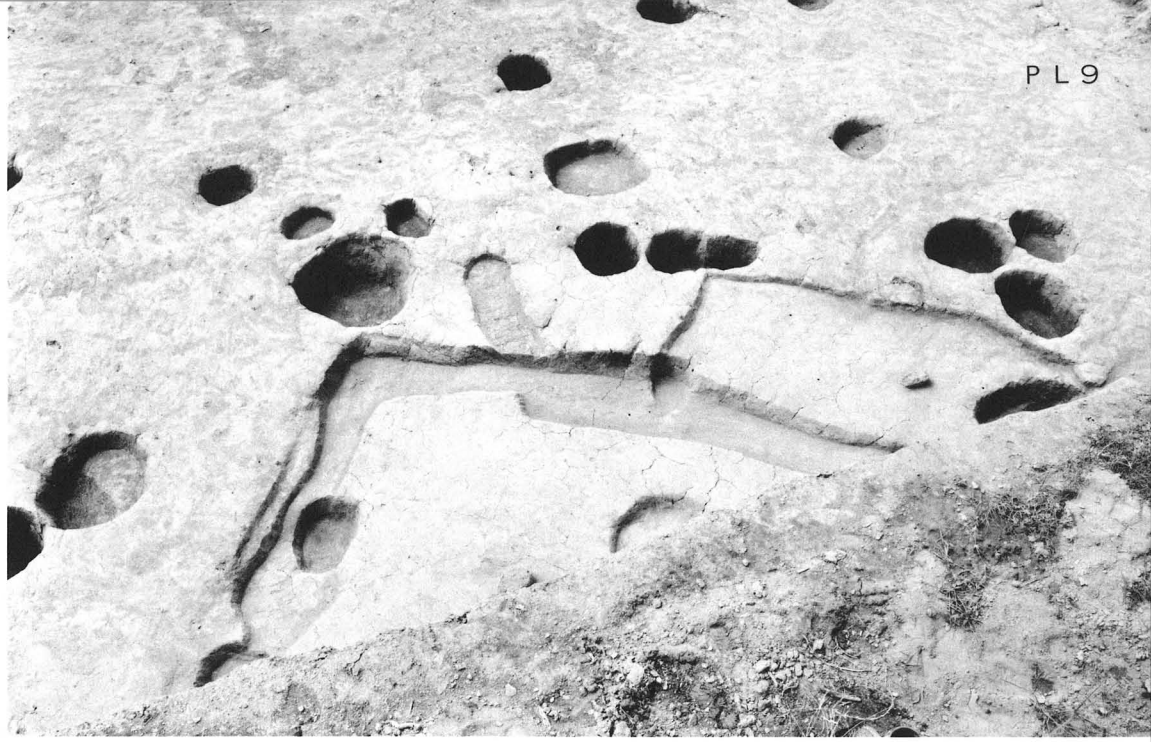


3　第２住居跡上層
遺物出土状況

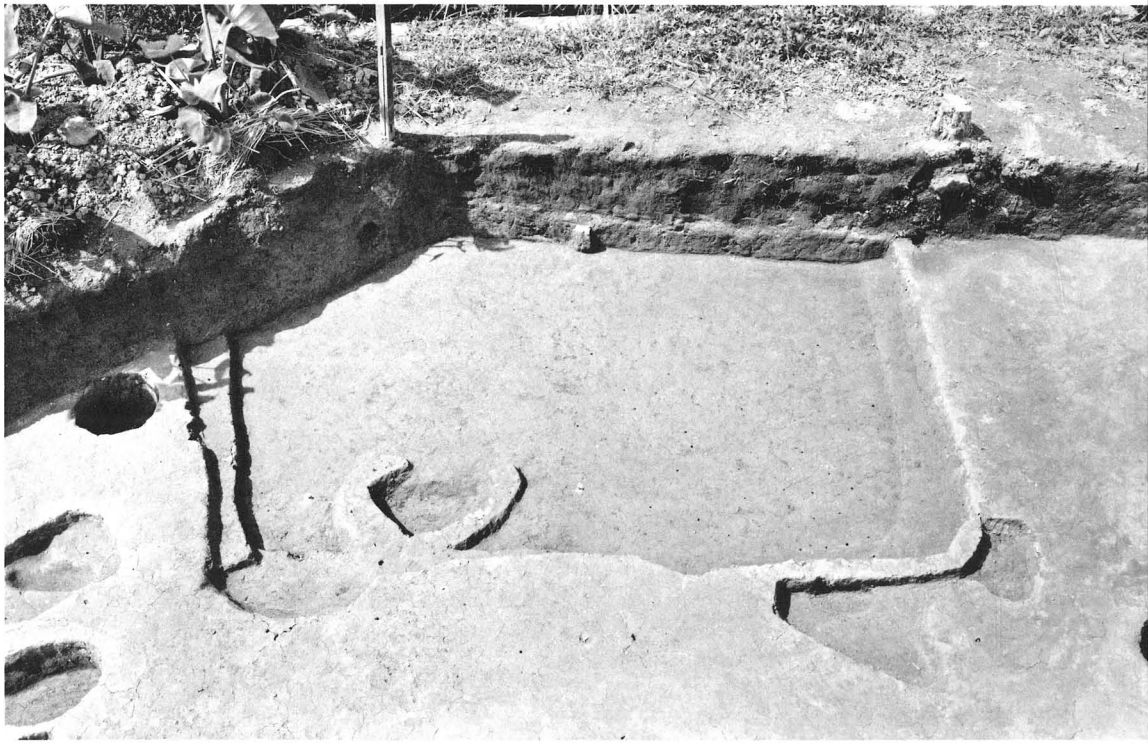
1　第２住居跡下層
遺物出土状況

2　第３.第９住居跡
（T３.T９）（北から）

3　第９住居跡柱穴
内遺物出土状況



1　第４住居跡(Ｔ４)
（東から）



2　第５住居跡(Ｔ５)
（東から）

3　第５住居跡カマド
付近

1　第６住居跡(Ｔ６)
（東から）

2　第６住居跡
（北から）

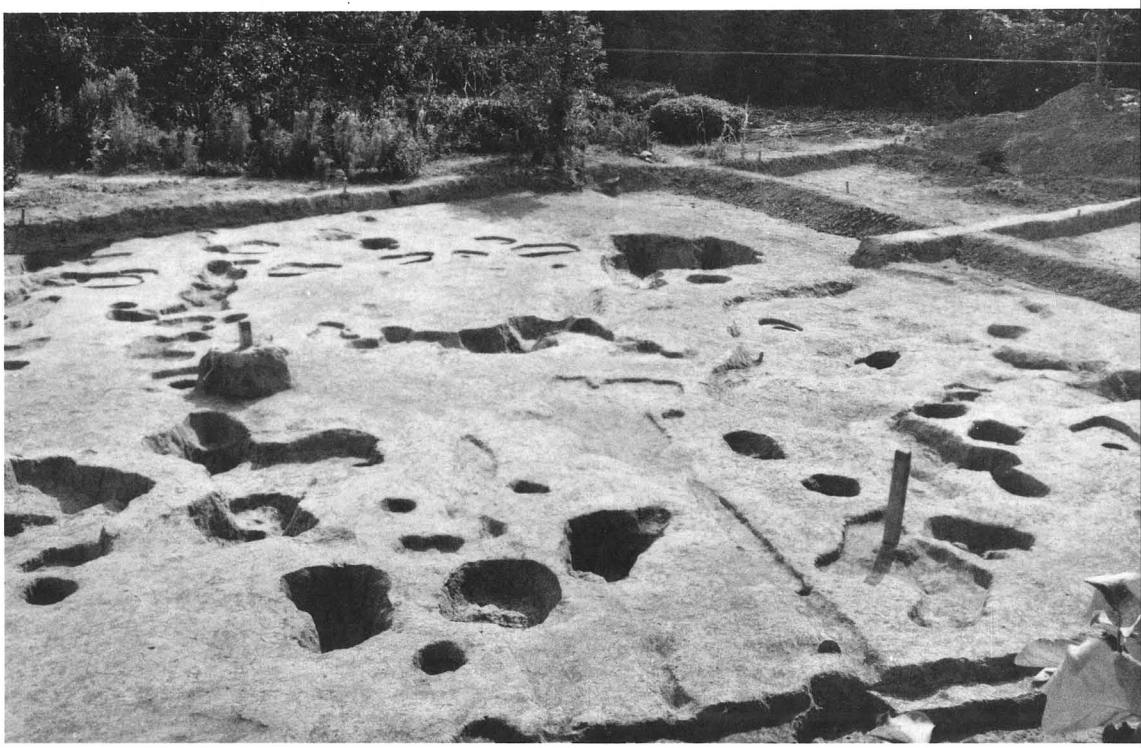
3　第６住居跡カマド
付近

1　第７住居跡(Ｔ７)
（南から）

2　第７住居跡遺物
出土状況

3　第８住居跡(Ｔ８)
（南から）

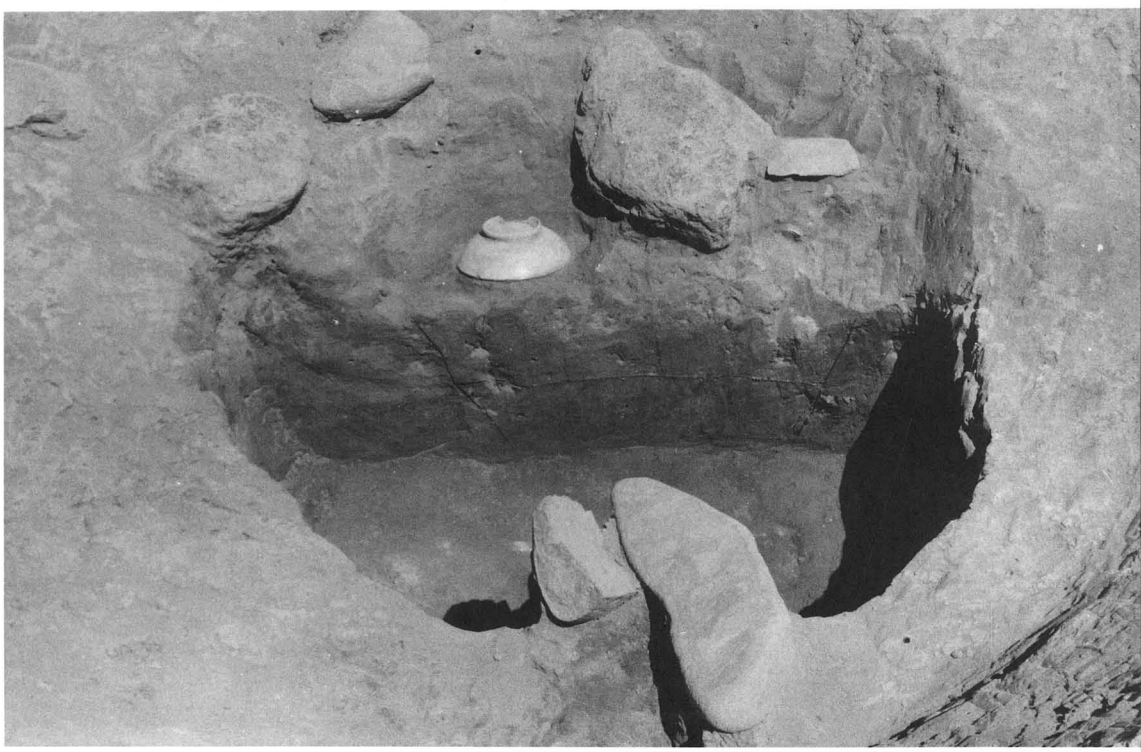
1　第１掘立柱建物
（Ｈ１）（北から）



2　第１掘立柱建物
（西から）

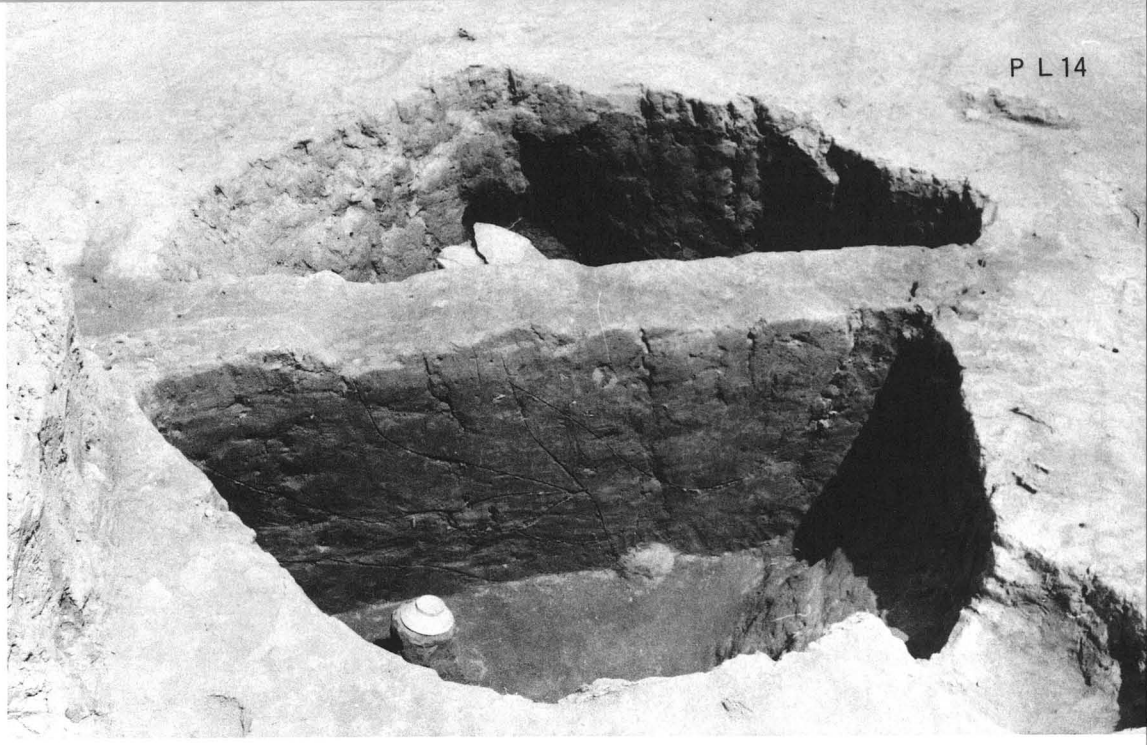
3　第２掘立柱建物
（Ｈ２）（北から）

1　第１井戸跡(BP１)
（南から）



2　第１井戸跡近景

3　第１井戸跡遺物
出土状況



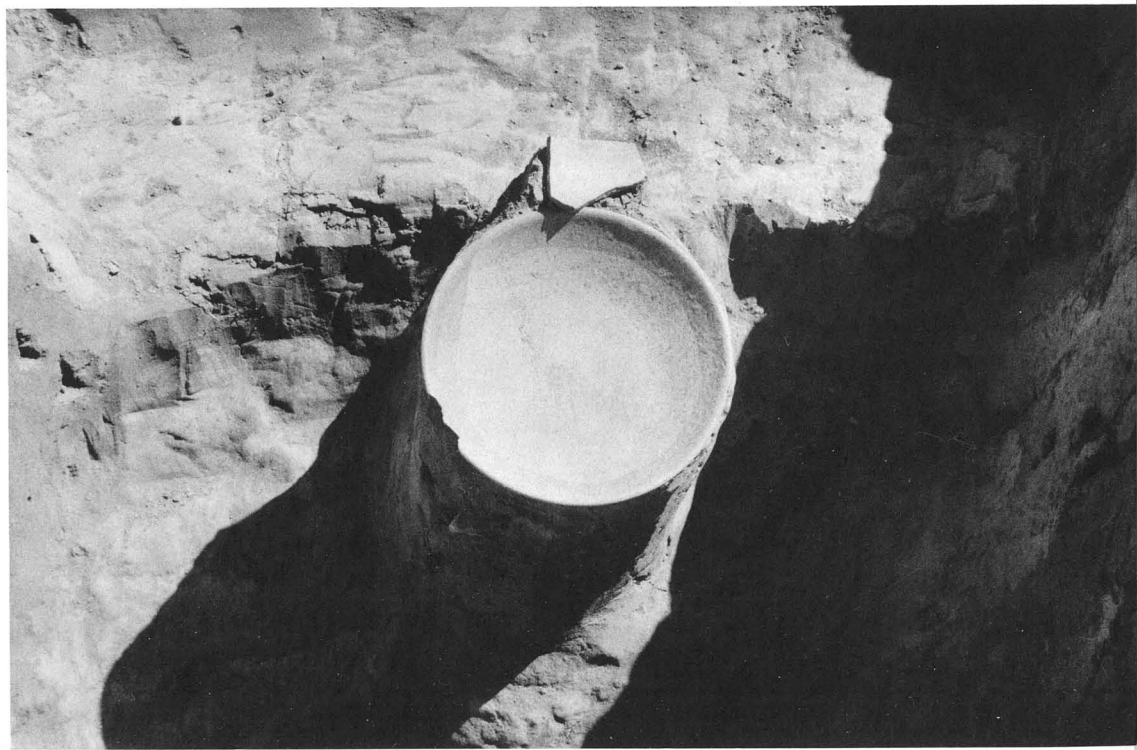
1　第２井戸跡(BP９)
(西から)

2　P51

3　P51遺物出土状況

1　P53

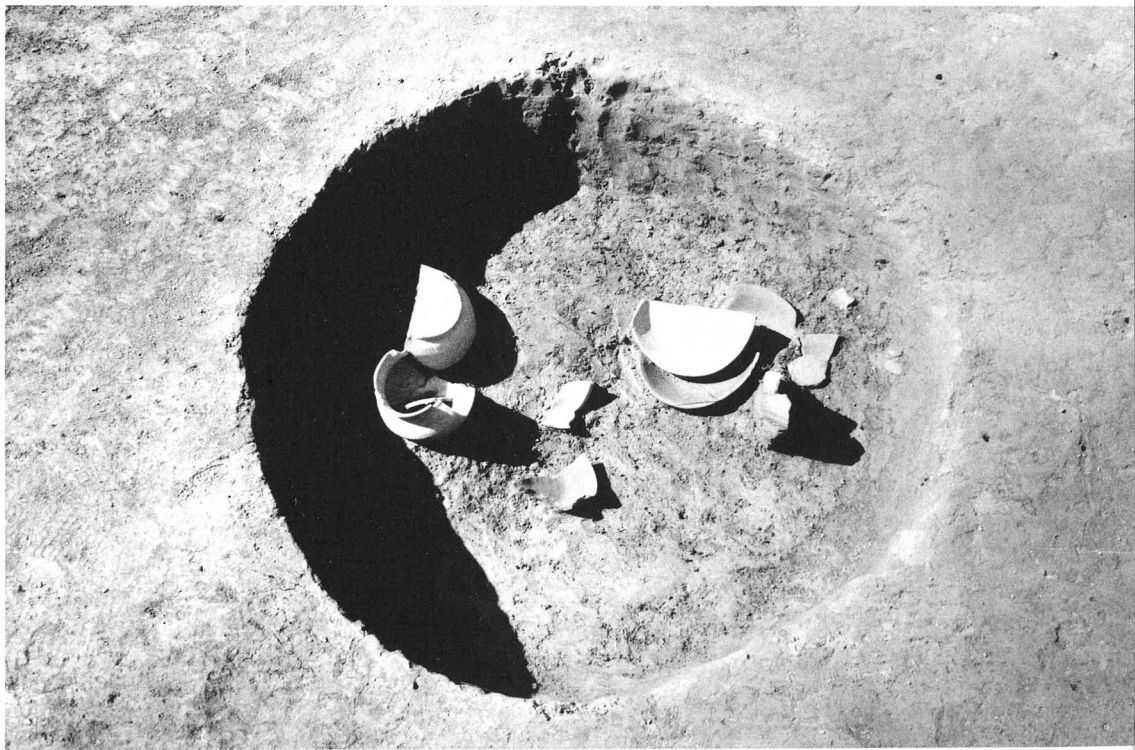
2　P94



3　P94遺物出土状況
（墨書土器）

1 PD 1

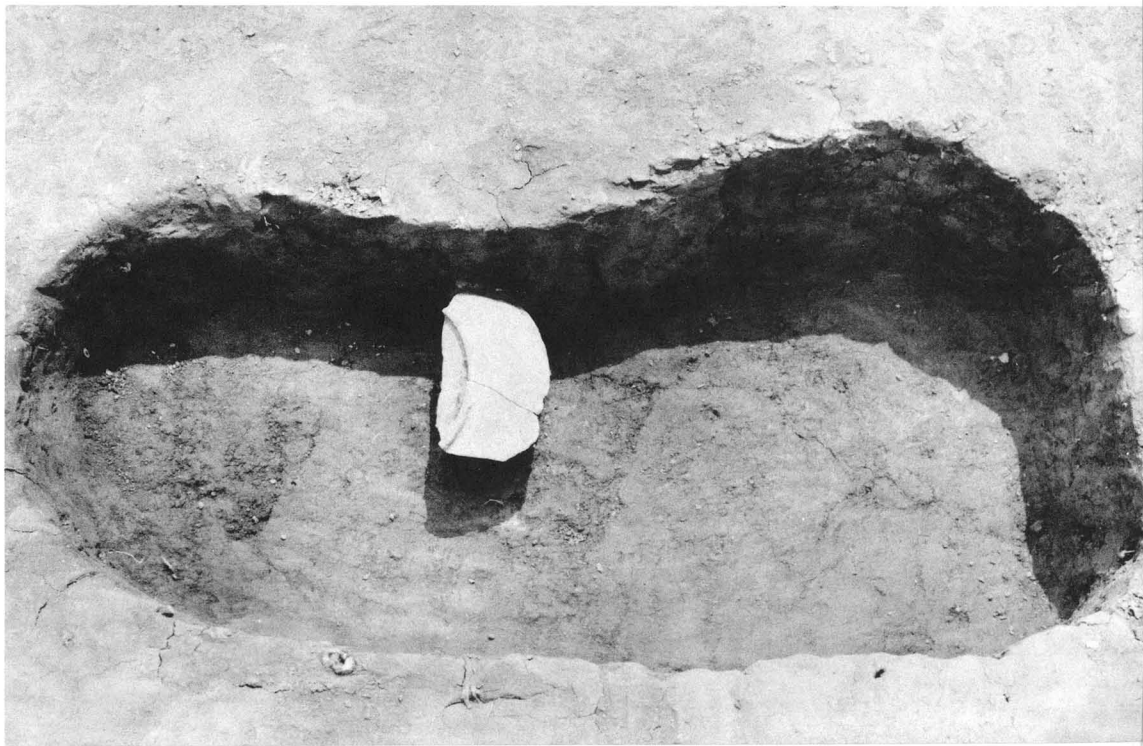
2 P350



3 P351

1 P353

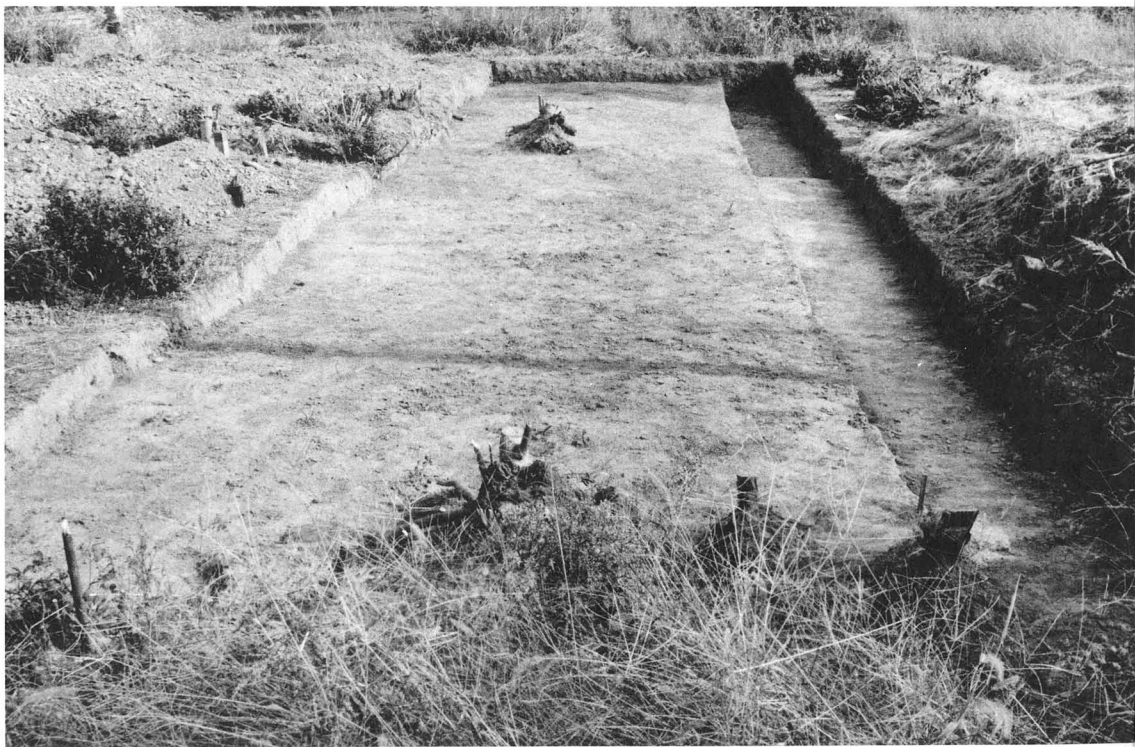
2 P131



3 P156

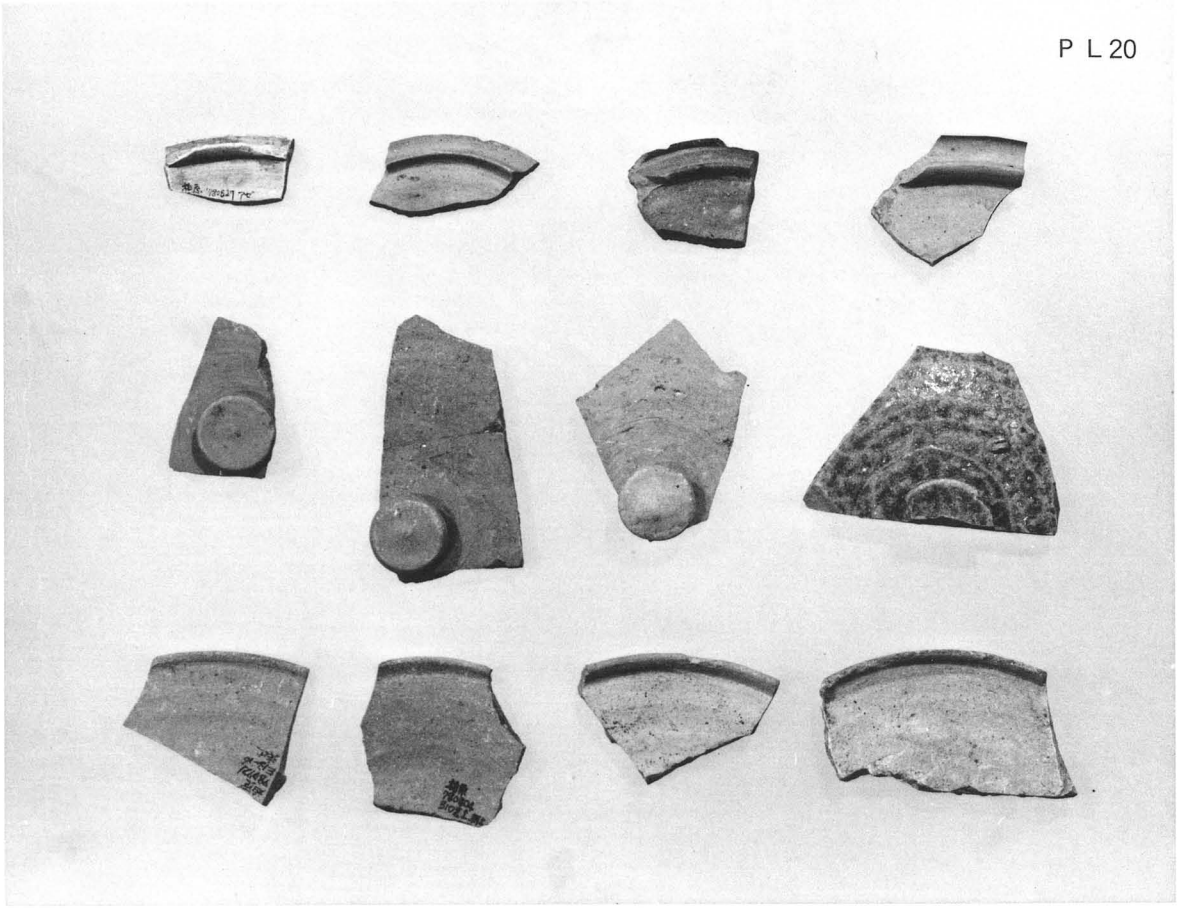
1　第1.第2トレンチ
（南東から）

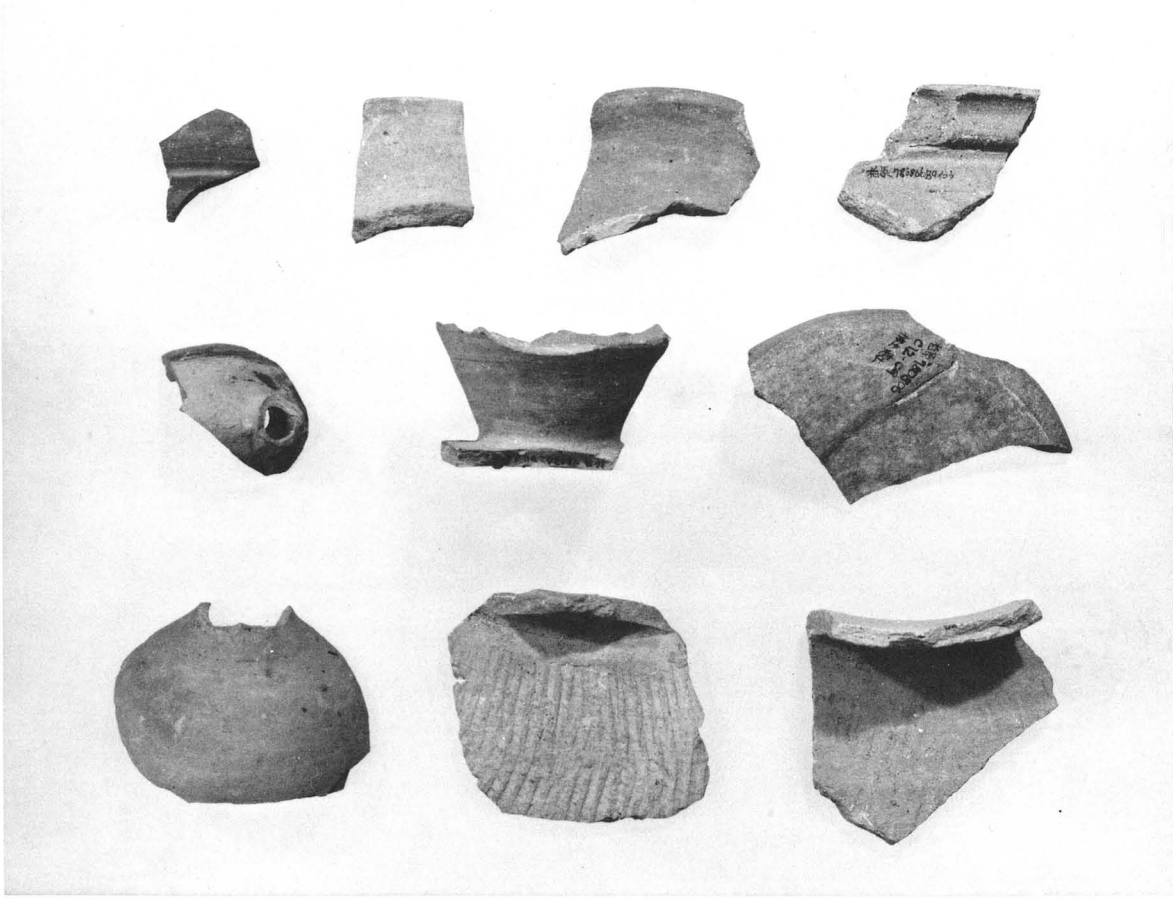
2　第4－Ⅰトレンチ
（北西から）



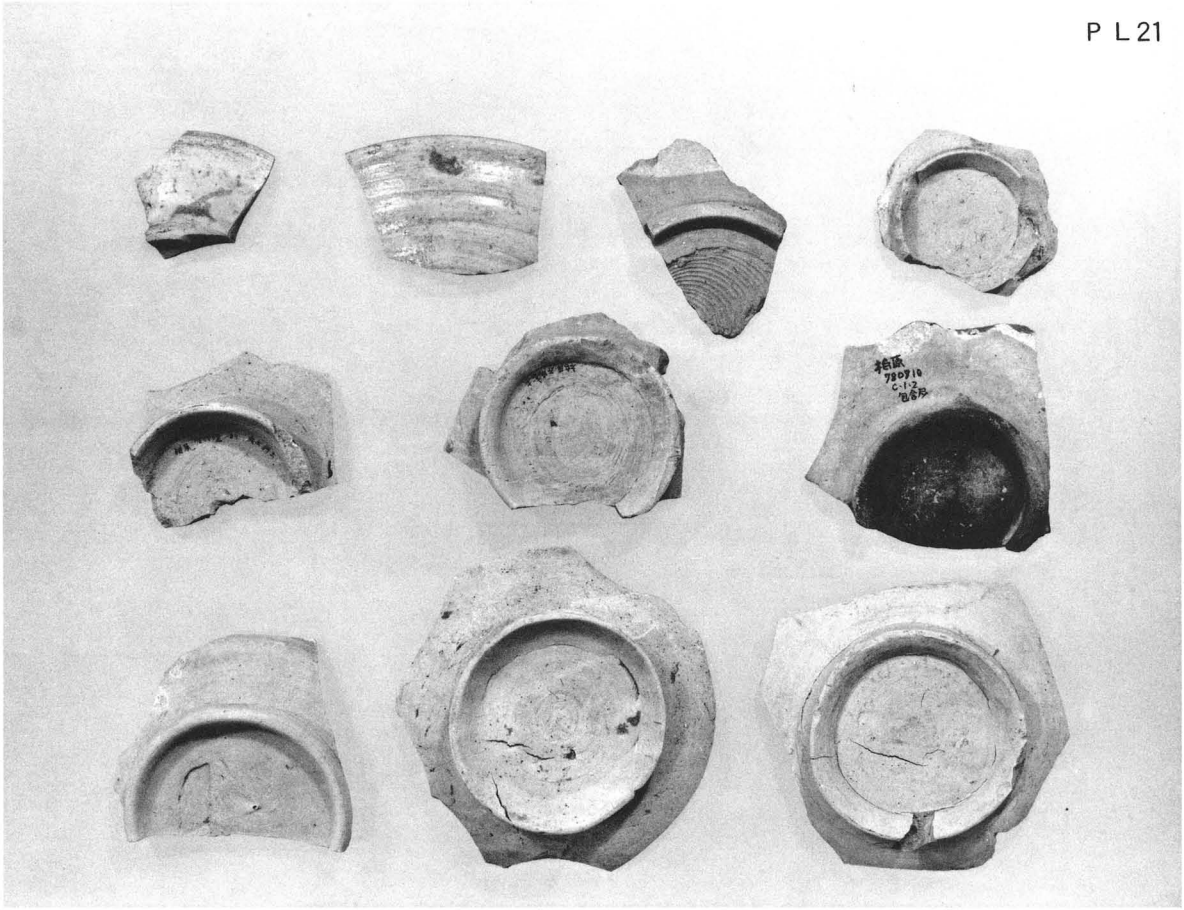
3　第6トレンチ
（北西から）

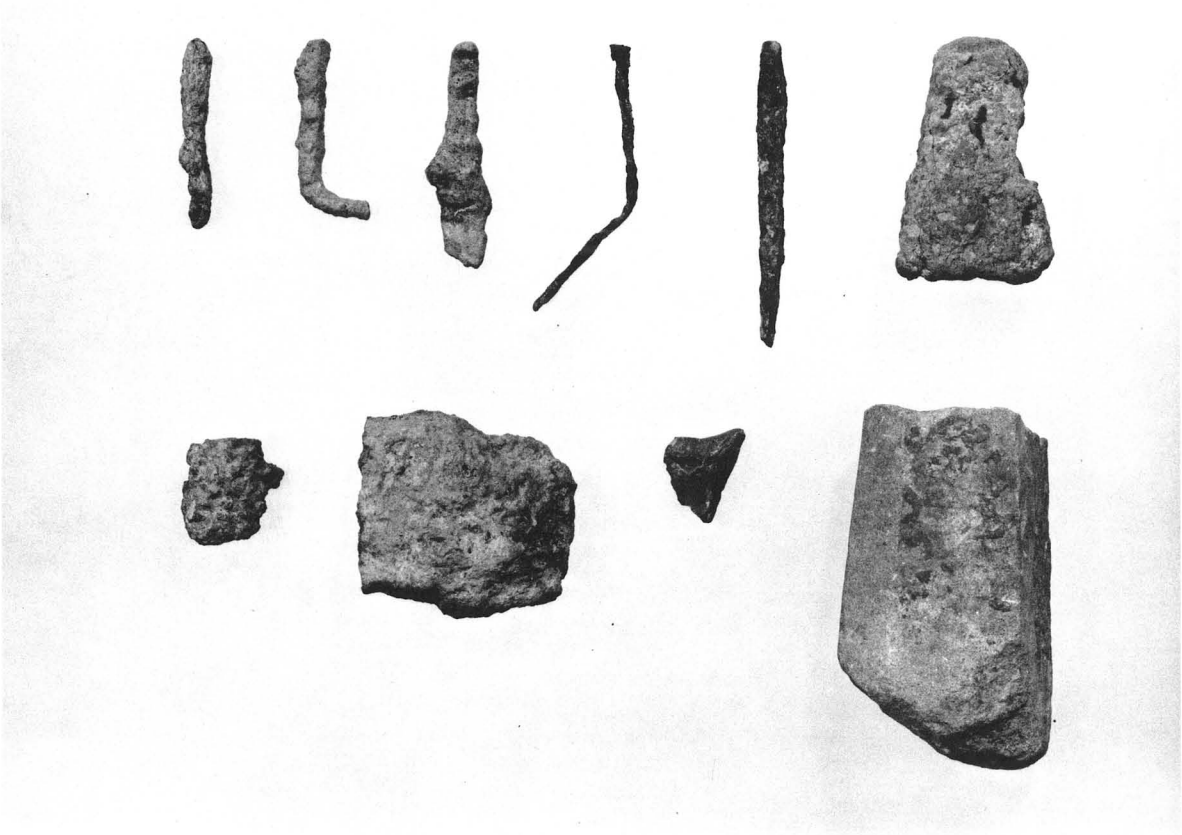
包含層出土遺物(1)





包含層出土遺物(２)





包含層出土遺物(３)

T 2

T 2

T 2

T 2

T 2

T 2

T 5

T 6

T 5

T 7

竪穴住居跡出土遺物

T 9

T 9

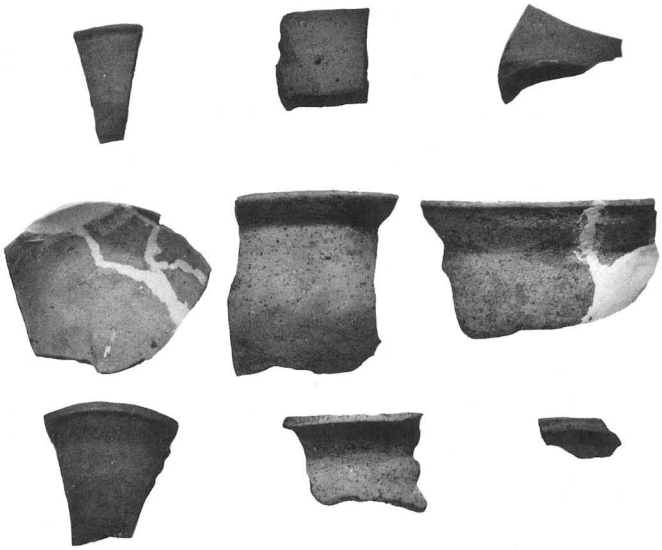
B P 9

B P 1

B P 9

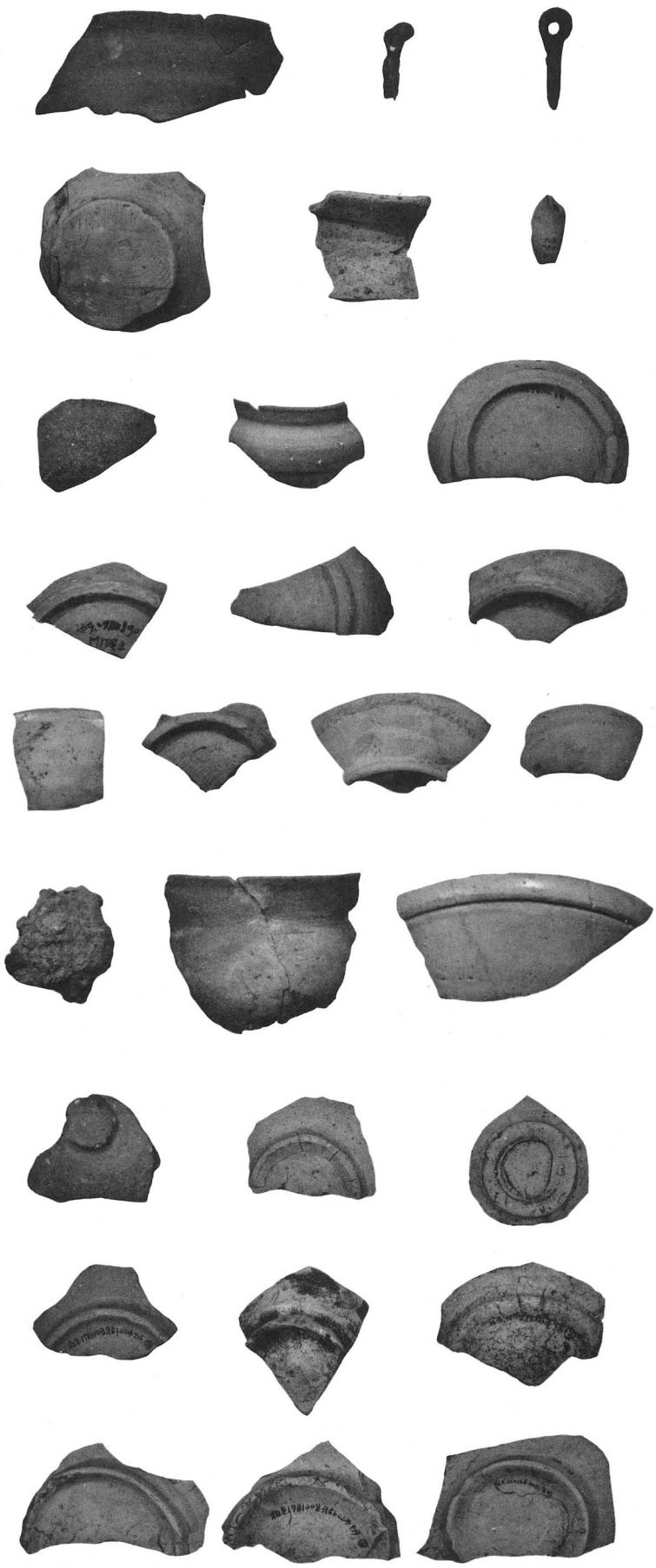
B P 1

M 1



T

竪穴住居跡・井戸跡・溝跡・出土遺跡



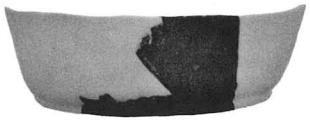
B P

M 1

トレンチ

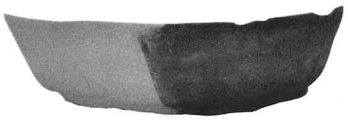
大形土坑・溝跡・トレンチ出土遺物

P 51



P 156

P 51



P 197

P 56

P 297

P 94

P 350

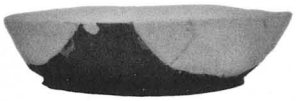
P 94

P 351

P 351

P 94

P 351



P 117

P 351

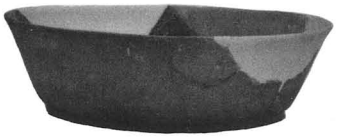
ピット出土遺物（１）

P 353

P 374

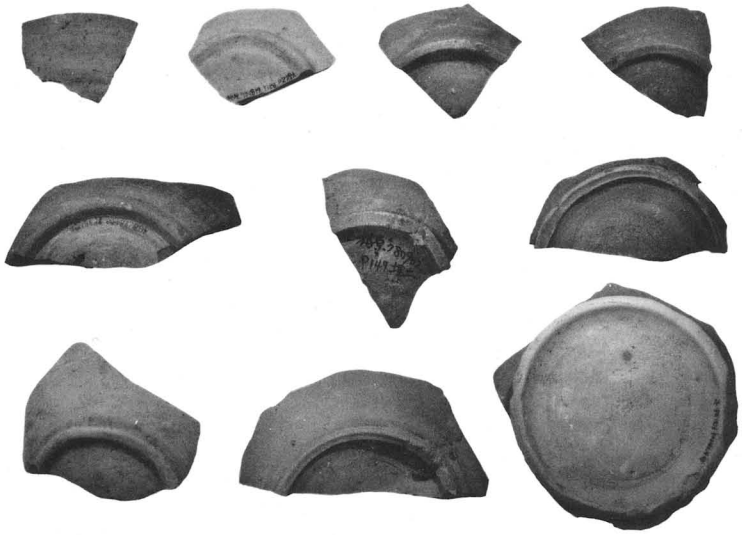
P 353

P 380



P 353

PD1



P

P

ピット出土遺物(２)

埋蔵文化財発掘調査報告書 I

昭和55年3月

編　集　滋賀県教育委員会
発　行　滋賀県教育委員会
　　(財)滋賀県文化財保護協会
印　刷　富士出版印刷株式会社